

259

383□



始



國民教育會編輯部編纂

自六正元
至最近
文檢
中等
各科
問題集

國民教育會發行

凡例

一、文檢受験者に、文檢問題集の必要なるは謂ふ迄もなし、蓋し問題集は、一種の試験史にして、是れに由て、試験問題の變遷、試験問題の範圍、試験委員の趣向、等を知り得るは勿論、受験者自身に取りては、是れに依て、その收得せらる學術の精粗確否等を試験し得なければなり。

一、右の趣旨により、本會は大正五年に文檢問題集を三種に分けて發行した。然しが、各輯共此頃漸く何れも皆品切となれり、こゝに於て、今回は全集出版を急ぎ、各輯を併せて發行を見るに至れり、即ち大正元年(廿六回)より最近(四十二回)を各科に亘りて蒐録す。

大正十五年九月十五日

編者



259-383₁₂

目次

國民道德要領.....	一
教育大意.....	五
修身科.....	九
教育科.....	一九
法制經濟科.....	二九
國語漢文科.....	三七
地理科.....	四一
日本東洋史科.....	六七
西洋史科.....	八九
英語科.....	一〇三
數學科.....	一四七
體操科.....	一九一
擊劍科.....	三五

柔術科	三三
習字科	三三五
圖書科	三四一
手工科	三七三
音樂科	三八七
生理衛生科	三九五
動物科	四一七
植物科	四二三
物理科	四三一
化學科	四五一
礦物科	四六七
家事科	四八三
裁縫科	四九五
手藝科	五一

國民道德要領

第三十回 (大正五年)

- 一 國民道德の意義を問ふ
- 二 教育に關する勅語中の「國體の精華」の意義を説明し、且これに就きて感ずる所を述べよ
- 三 恭儉の重んずべき理由を述べよ
- 四 國家と個人との關係を論ぜよ

第三十一回 (大正六年)

- 一 教育に關する勅語中の「威其徳を一にせんこと」の意義を説明し且これに就きて感ずる所を述べよ
- 二 我が國に於て孝道の特に重んぜらるゝ理由を述べよ
- 三 國民道德の見地より我が立憲政體の特徴を論ぜよ
- 四 國民道德と人道との關係如何

第卅、一、二、三回

(注意) 各問の答書は二枚以上のものは之を綴り更に番號順に重ねて綴り置くを要す。

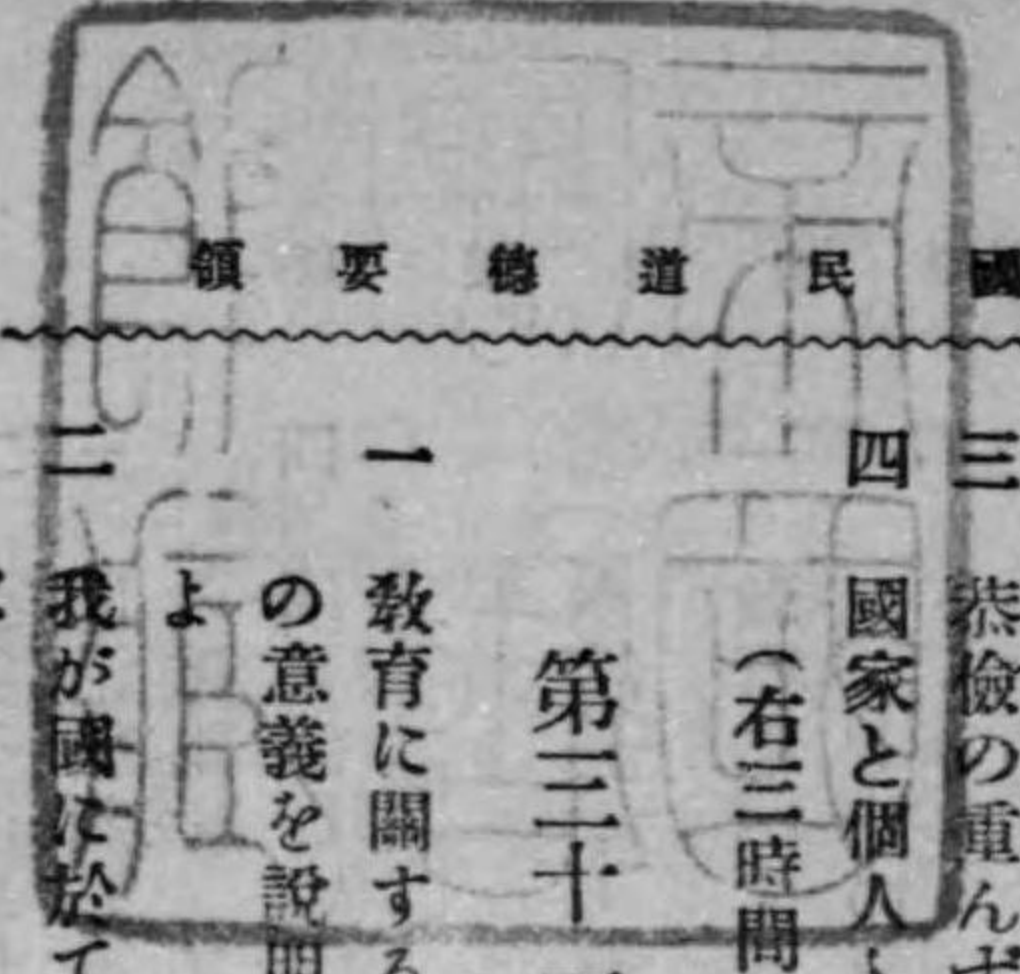
第三十二回 (大正七年)

- 一 教育に關する勅語中の「國ヲ肇ムルコト宏遠ニ」の意義を説明せよ
- 二 我が國に於ける家の觀念を明かにし且之に對する心得を説け
- 三 博愛の重んずべき理由を述べよ
- 四 國民道德と個人主義との關係如何

第三十三回 (大正八年)

- 一 教育に關する勅語と國民道德との關係如何
- 二 教育に關する勅語の「徳器を成就し」の意義を説明し且之に關する工夫を述べよ
- 三 忠君愛國の道を説明せよ
- 四 國交に關する國民の心得を述べよ

(右三時間)



第卅四、五、六、七、八回

第三十四回 (大正九年)

- 一 教育に關する勅語中の「之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス」の意義を説明せよ
- 二 公益を廣め世務を開くの道を述べよ
- 三 明治維新以來我が國に於ける道徳思想變遷の大要を記せ
- 四 國民道徳の見地よりの自由平等思想を批判せよ (右三時間)

第三十五回 (大正十年)

- 一 教育に關する勅語中の「天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」の意義を説明し且之を實行する道を述べよ
- 二 忠孝一致の理を説明せよ
- 三 國民道徳の見地より地方自治の精神を説明せよ
- 四 輿論の意義を説明し且之に對する心得を述べよ (右三時間)

第三十六回 (大正十一年第一次)

- 一 教育に關する勅語中の「徳ヲ樹ツルコト深厚ナ

リ」の意義を説明し且これに就きて感ずる所を述べよ

- 二 信義の重んずべき理由を述べよ
- 三 我が國民道徳の特質を論ぜよ
- 四 現代思想の主なるものを擧げて之を批評せよ (右三時間)

第三十七回 (大正十二年第二次)

- 一 教育に關する勅語中の「恭儉己れを持し」の意義を説明し且これに就きて感ずる所を述べよ
- 二 職業の道徳的意義を問ふ
- 三 國民の公務の主なるものを擧げて之を説明せよ
- 四 國民道徳の見地より國際道徳上注意すべき事項を論ぜよ (右三時間)

第三十八回 (大正十二年)

- 一 教育に關する勅語中の「斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スベキ所」の意義を説明せよ

- 二 國運を發展せしむるの道如何
- 三 財産の道徳的意義を問ふ
- 四 國家の意義を述べて其目的を明かにせよ (右三時間)

第三十九回 (大正十二年第二次)

- 一 教育に關する勅語中の「國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒの意義を説明し且これに就きて感ずる所を述べよ
- 二 責任觀念養成の道如何
- 三 國民道徳の見地より人格の重んずべき理由を説明せよ
- 四 儒教の國民道徳に及ぼしたる影響を問ふ

第四十回 (大正十三年第一次)

- 一 教育に關する勅語中の「國體ノ精華」の意義を説明せよ
- 二 國民精神作興に關する詔書中の「浮華放縱ノ習漸ク萌シ輕佻詭激ノ風モ亦生ズ」の意義を説明し且此の時弊を矯正する方法を述べよ

第卅九回 第四十、一、二回

- 三 報恩の重んずべき理由を述べよ
- 四 自治的精神の意義を説明し且其の養成の道を記せ (右三時間)

第四十一回 (大正十三年第二次)

- 一 教育に關する勅語中の「爾祖先ノ遺風」とは何を指示されたるものなるか
- 二 戊申詔書中の「自強息マサルヘシ」の意義を説明せよ
- 三 國民道徳の見地より博愛共存の重んずべき理由を説明せよ
- 四 職業の倫理的意義を問ふ (右三時間)

第四十二回 (四十二回第一次)

- 一 教育に關する勅語中の「智能ヲ啓發シ徳器ヲ成就シ」の意義を説明せよ
- 二 國民精神作興に關する詔書中の「輕佻詭激ヲ矯メテ醇厚中正ニ歸シ」の意義を説明し且其の方

- 法を述べよ
- 三 國家主義と國際主義との關係を述べよ
- 四 國民道徳の見地より議員選舉の重んずべき理由を説明せよ
(右三時間)

第四十二回 (大正十四年第二次)

- 一 教育に關する勅語中の「斯ノ道」とは何を指示したかへる
- 二 戊申詔書中の「國史ノ成跡」の意義を説明し且これに就きて感ずる所を述べよ
- 三 秩序の重んずべき理由を説明せよ
- 四 法律と道徳との關係如何
(右三時間)

教育大意

第四回 (大正元年度)

- 一 本邦現時ノ學校系統ヲ舉ゲテ特ニ師範學校、中學校、高等女學校ノ本旨ヲ明カニセヨ
- 二 觀念聯合、抽象、歸納ノ意義ヲ説明セヨ
- 三 教育上賞罰ノ價值及其運用上ノ注意ヲ述べヨ
(以上二時間)

第五回 (大正二年度)

- 一 教育ノ理論ト其實際トノ關係ヲ述べヨ
- 二 左ノ意義ヲ明カニセヨ
意識、個性、形式的陶冶、補習教育
- 三 生徒ノ良習慣ヲ作ルニツイテ教育者ノ注意スベキ事項ヲ舉ゲヨ(以上二時間)

第六回 (大正三年度)

- 一 教育ノ効果ニ制限ヲ與フル諸勢力ヲ説明セヨ
- 二 左ノ意義ヲ説明セヨ

- 三 知覺、注意、權利、品性
教育上模範ノ價值ヲ論ジテ教師ノ心得ニ及ベ
(以上二時間)

第七回 (大正四年度)

- 一 境遇ト教育トノ關係ヲ論ゼヨ
- 二 左ノ意義ヲ説明セヨ
判斷、情操、國民教育、二部教授
- 三 教師ノ任務ヲ説キ、特ニ中等教員タルモノ、心得ヲ述べヨ(以上二時間)

第八回 (大正五年度)

- 一 教育上人格ノ必要ナル所以ヲ述べヨ
- 二 各教科目聯關ノ必要ナル所以ヲ述べ、且ツ實際上ノ注意ヲ舉ゲヨ
- 三、左ノ意義ヲ説明セヨ
本能、演繹、教授段階
- 四 中等學校生徒ニ試験ヲ課スルノ利害ヲ論ゼヨ
(以上三時間)

第廿一、廿二、廿三、廿四、廿五、廿六回

第三十一回(大正六年度)

- 一 養護と訓練との關係を述べよ
- 二 問答について注意すべき要件を示せ
- 三 左の意義を説明せよ
- 四 情緒。氣質。定義。教育的教授。青年期の特質を擧げて訓練上の注意に及べ

第三十二回(大正七年度)

- 一 教授の目的を論じて教材選擇の標準を述べよ
- 二 左の意義を明にせよ
- 三 記憶。想像。學齡。特殊教育
- 四 訓練上訓練の効果を論ぜよ

(右三時間)

第三十三回(大正八年度)

- 一 遺傳と教育との關係を論ぜよ
- 二 左の意義を明かにせよ
- 三 觀念聯合、概念、高等普通教育、成績考査

- 三 養護と教授との關係を述べよ
- 四 教式(教授の様式)の主なる種類を擧げて其運用上の注意を述べよ

(右二時三十分間)

第三十四回(大正九年度)

- 一 教育上學校と家庭及び社會との關係を述べよ
- 二 左の意義を明かにせよ
- 三 環境。暗示。知的情操。教材の排列

(右三時間)

第三十五回(大正十年度)

- 一 個性の意義を明かにし教育上の注意に及べ
- 二 形式的陶冶の可否を論じ、教授上の注意に及べ
- 三 中等學校に於ける自治訓練の適切なる方法を述べよ

(右二時間)

第三十六回(大正十一年第一次)

- 一 教育の目的に關する諸説を擧げて之を論評せよ

- 二 左の意義を説明せよ
- 三 直觀。類似聯合。教授の様式

(右二時間)

第三十七回(大正十一年第二次)

- 一 訓練上權威と自由との關係を論ぜよ
- 二 左の意義を説明せよ
- 三 多方的興味、欲望、勤勞主義

(右二時間)

第三十八回(大正十二年第一次)

- 一 興味を説明して其教育上の價值を述べよ
- 二 左の意義を明かにせよ
- 三 類化、公民教育、教科の統合

(右二時間)

第三十九回(大正十二年第二次)

第卅七、卅八、卅九、四十、四十一回

- 一 教授の意義を説明せよ
- 二 左について知れる所を記せ
- 三 美的情操、教材の統合、ペスタロツチ

(右三時間)

第四十回(大正十三年第一次)

- 一 興味を説明して其教育上の注意に及べ
- 二 左について知れる所を記せ
- 三 直觀教授、自治訓練、社會教育

(右二時間)

第四十一回(大正十三年第二次)

- 一 形式的陶冶と實際的陶冶との意義を明にし兩者の關係を論ぜよ
- 二 左について知れる所を記せ
- 三 運動感覺、歸納推理、人文主義

(右二時間)

第四十二、四十三回

第四十一回(大正十四年第一次)

- 一 教育の意義を述べよ
- 二 左について知れる所を記せ
錯覺、職業指導、へるばると
- 三 教育上權威の必要なる所以を述べよ
右 二時間

第四十三回(大正十四年第二次)

- 一 教育の目的を論ぜよ
- 二 左について知れる所を記せ
有機感覺、特殊教育、學習指導
- 三 情操の意義を明にして其陶冶の方法を述べよ
右 二時間

修身科

第廿六回(大正元年)

豫備試験(三時間)

- 一 家族制度ト國民道德トノ關係ヲ論ジ且ツ日本ノ家ノ觀念ヲ説明セヨ
- 二 倫理學上ヨリ自然主義ヲ批評セヨ
- 三 正邪ト善惡トノ差別ヲ論ゼヨ
- 四 大學ノ三綱領ヲ倫理學上ヨリ説明セヨ
- 五 吉田松陰ノ國體ニ關スル見解如何
- 六 人格修養ニ就キテ教案ヲ作レ(但シ生徒ハ最高級、時間ハ二時間)

注意 女子師範、高等女學校ノ教員志望者ハ第一

四問ニ答フルヲ要セズ、又第六問ニ就テハ女子師範學校及高等女學校ノ最高年級ニ對スル教案ヲ作ルベシ

第二十六、二十七回

本 試 験(三時間)

- 一 祖先崇拜ハ國民道德ト如何ナル關係ヲ有スルカ
- 二 希臘ノ四元德(Four Cardinal Virtues)ヲ述ベヨ
- 三 意志ト品性トノ關係ヲ説明セヨ
- 四 「人心惟危、道心惟微、惟精惟一、允執其中」ノ意義如何
- 五 貝原益軒ノ倫理說ヲ叙述セヨ
- 六 責任ニ就テ教案ヲ作レ(但シ生徒ハ最高年級、時間ハ二時間)

注意 女子師範、高等女學校ノ志望者ハ第四問

ニ答フルヲ要セズ

第廿七回(大正二年)

豫備試験(三時間)

- 一 倫理研究ノ目的ト其關スル所ノ範圍ヲ論ゼヨ
- 二 個人主義ヲ批評セヨ
- 三 「誠者、物之終始、不誠無物」ノ意義ヲ説明セヨ

第二十八、二十九回

- 四 神道ノ國民道德ニ及ボセル影響如何
- 五 德育上過渡時代ニ注意スベキ點如何
- 六 山鹿素行ノ倫理說ヲ叙述セヨ
- 七 公正(Justice)ト慈愛(Benevolence)トノ關係ニ就イテ教案ヲ作レ(但シ生徒ハ最高學年級)

豫備試驗 (三時間)

- 一 日本ノ倫理思想ノ特色如何
- 二 行爲ヲ心理學的ニ説明セヨ
- 三 道德ト經濟トノ關係如何
- 四 天命ノ道德上ニ於ケル意義ヲ論ゼヨ
- 五 貝原益軒ノ倫理說ヲ論ゼヨ
- 六 道德上ノ權利ニ就イテ教案ヲ作レ(但シ最上級)

第廿八回 (大正三年)

豫備試驗 (三時間)

- 一 國民道德ニ於ケル儒佛二教ノ影響ヲ論ゼヨ
- 二 徳ノ本質ヲ倫理學上心理學上及ビ社會學上ヨリ説明セヨ
- 三 道德ト經濟トノ關係ヲ論ゼヨ
- 四 中江藤樹ノ良知說ハ如何
- 五 孝弟也者其爲仁之本與(論語學而篇有子ノ語)ヲ

說明セヨ

- 六 自立ニ就キテ教案ヲ作レ(但學級ハ最高級、時間ハ二時間)

本試驗 (三時間)

- 一 國民道德ヨリ「中朝事實若クハ中興鑑言」ヲ論ゼヨ
- 二 倫理學ト哲學トノ關係如何
- 三 道德上ニ於ケル個人主義ノ價值ヲ論ゼヨ
- 四 關學派ノ特色如何
- 五 東洋倫理ニ於ケル功利說ヲ舉ゲテ之ヲ批評セヨ
- 六 自由ト服從トニ就イテ教案ヲ作レ(但シ最上級時間ハ二時間)

第廿九回 (大正四年)

豫備試驗 (三時間)

- 一 快樂主義ト自然主義トノ異同ヲ論ゼヨ
- 二 理想ト善トノ關係ヲ説明セヨ
- 三 國民道德ノ特色如何
- 四 「誠者、天之道也、誠之者、人之道也」ノ意義ヲ説明セヨ
- 五 伊藤仁齋ノ倫理說ト物徂徠ノ倫理說ノ異同ヲ論

第三十回 (大正五年)

- 六 意志修養ニ就イテ教案ヲ作レ(但シ二時間)
- 本試驗 (三時間)
- 一 倫理學ノ特質ヲ列舉シテ之ヲ論ゼヨ
- 二 「カント」ノ所謂「無上命法」ノ意義ヲ説明セヨ
- 三 國體ト國民道德トノ關係如何
- 四 儒者ハ三種ノ神器ヲ如何ニ道德上ヨリ説明セシカ
- 五 倫理學上ヨリ大學ノ三綱領ヲ説明セヨ
- 六 國交ニ就イテ教案ヲ作レ(但シ最上級二時間)

豫備試驗 (三時間)

- 一 自然的善ト道德善トノ異同ヲ論ゼヨ
- 二 物質的進歩ノ道德ニ及ボス影響如何
- 三 國民道德上ヨリ天壤無窮ノ神勅ノ意義ヲ説明セヨ
- 四 伊藤仁齋ノ倫理說ノ特色ヲ論ゼヨ
- 五 中庸ニ所謂性道教トハ何ゾヤ
- 六 人格尊重ニ就キテ教案ヲ作レ(但シ程度ハ中學校最上級、時間ハ二時間)

第三十、三十一回

本試驗 (三時間)

- 一 國家間ニ道德アリヤ否ヤ、此レニ關シテ意見ヲ述ベヨ
- 二 フラトノ倫理學說ヲ論述セヨ
- 三 國民道德ト人道トノ關係ヲ論ゼヨ
- 四 山鹿素行ノ國體論ハ如何
- 五 王陽明ノ良知說ヲ説明セヨ
- 六 職業ニ就キテ教案ヲ作レ(但シ生徒ハ最高級、時間ハ二時間)

第三十一回 (大正六年)

豫備試驗 (三時間)

- 一 倫理學上ヨリ「威力ハ權利ナリ」トノ說ヲ批評セヨ
- 二 良心ノ命令ニ從フベキ理由ハ如何
- 三 日本ノ國民理想ニ就キテ意見ヲ述ベヨ
- 四 山崎闇齋ノ倫理說ハ如何
- 五 孔子ノ一貫ノ道ト忠恕トノ關係如何
- 六 國民ノ公務ニ就キテ教案ヲ作レ(但シ程度ハ中學校最上級、時間ハ二時間)

第廿二、三回

本 試 験 (三時間)

- 一、プラトリーの所謂公正とは何ぞや之を論ぜよ
- 二、個人主義と國家主義とを論ぜよ
- 三、太宰春臺の倫理説を述べよ
- 四、倫理學と國民道德との關係如何
- 五、孟子の所謂義とは何ぞや
- 六、謝恩に就きて教案を作れ(但し程度は中學校最上級、時間は二時間)

第三十二回 (大正七年)

豫 備 試 験 (三時間)

- 一、倫理學研究と修身教授との關係を論ぜよ
- 二、ベンタムの功利説とジョン・スチュアルトミルの功利説との異同如何
- 三、我國體と國民道德との關係如何
- 四、儒教と我日本に於ける道德的效果如何
- 五、孔子の所謂仁とは何ぞや
- 六、國交に就きて教案を作れ(但し生徒は中學校最上級、時間は二時間)

本 試 験 (三時間)

- 一、道德の社會的基礎如何

- 二、倫理學上より平和主義の是非を論ぜよ
- 三、中江藤樹の良知説を論ぜよ
- 四、日本の國民理想に就きて意見を述べよ
- 五、朱陸の倫理説の異同如何
- 六、經濟と道德との關係に就きて教案を作れ(但し程度は中學校最上級時間は二時間)

第三十三回 (大正八年)

豫 備 試 験 (三時間)

- 一、人格の特性を述べて道德的生活の意義を説明せよ
- 二、倫理學上より現今我が國に於ける實利的傾向の弊害を論ぜよ
- 三、我が國體の特色を論ぜよ
- 四、水戸學派の國民道德に於ける影響如何
- 五、格物致知に就きて知れる所を記せ
- 六、國際道德に就きて教案を作れ(但し生徒は中學校最上級、時間は二時間)

本 試 験 (三時間)

- 一、良心とは何ぞや
- 二、倫理學上より自由と平等とを論ぜよ

- 三、國民道德と人道との關係如何
- 四、大鹽中齋の所謂太虚説の意義を説明せよ
- 五、儒教は理想主義なりや將た功利主義なりや
- 六、奉公心に就きて教案を作れ(但し生徒は中學校最上級、時間は二時間)

第三十四回 (大正九年)

豫 備 試 験 (三時間)

- 一、倫理學上より權利と本務との關係を論ぜよ
- 二、進化論的快樂説を批評せよ
- 三、家族制度の將來に就いて意見を述べよ
- 四、物徂徠の倫理説は如何
- 五、倫理學上より大學の三綱領を論ぜよ
- 六、思想の自由に就いて教案を作れ(但し生徒は中學校最上級、時間は二時間)

本 試 験

- 一、意志の自由と道德的生活との關係を論ぜよ
- 二、ホッブズ氏の倫理説を批評せよ
- 三、我國體の特色如何
- 四、伊藤仁齋の倫理説を論ぜよ
- 五、「莫見乎隱。莫隱乎微。」の義を説明せよ

第卅四、五回

- 六、輿論の制裁に就きて教案を作れ(但し程度は中學校最上級、時間は二時間)

第三十五回 (大正十年)

豫 備 試 験 (三時間)

- 一、正義とは何ぞや。之を説明せよ
- 二、功利主義を批評せよ
- 三、人道主義と國家主義との調和如何
- 四、關齋學派の國民道德に於ける影響如何
- 五、宋儒の所謂「居敬窮理」の意義如何
- 六、社會奉仕に就きて教案を作れ(但し程度は中學校最上級、時間は二時間)

本 試 験 (三時間)

- 一、自然主義の倫理説は如何
- 二、倫理學上より現今の労働問題を批判せよ
- 三、我國體の道德的意義を説明せよ
- 四、山鹿素行の倫理説を叙述せよ
- 五、儒教と「ストア」哲學とを比較せよ
- 六、「新附人民に對する態度」に就て教案を作れ(但し程度は中學校最上級、時間は二時間)

第二十六回 (大正十一年第一次)

豫備試験 (三時間)

- 一、宗教と道徳との關係を論ぜよ
- 二、スピノザの倫説を批評せよ
- 三、中江藤樹の孝説を叙述せよ
- 四、國民道徳と國際主義の關係を論ぜよ
- 五、孟子四端説を論述せよ
- 六、社會的正義に就きて教案を作れ (但し生徒は最上級、時間は二時間)

本試験 (三時間)

- 一、グリーンンの倫理説を叙述せよ
- 二、社會主義を批評せよ
- 三、儒教の我國文化に及ぼせる影響を論ぜよ
- 四、神道に就いて知れるところを記せ
- 五、儒教の所謂天とは何ぞ
- 六、法律と道徳との關係に就いて教案を作れ (但程度は中學最上級、時間は二時間)

口述試験問題

井上博士

- 一、孔子の所謂「仁」の意義如何
- 一、仁と義との異同及び關係如何
- 一、孔子の仁と墨子の兼愛 佛敎の慈悲等の差異如何

- 一、國家主義と國際主義との關係如何
- 一、日本公學派の三分派を舉げて其特色を論ぜよ

吉田博士

- 一、進化論とは何ぞや
- 一、進化論と現代思潮との關係如何
- 一、力政策を批評せよ
- 一、何故に人間に道徳生活ありて他のものに之なきか
- 一、自覺とは何ぞや
- 一、本務と權利との關係
- 一、權利の意義
- 一、力と公正との區別
- 一、自由の權利
- 一、平等の權利

宇野博士

- 一、仁義とは何ぞ
- 一、孟荀二子の性論に就て
- 一、韓非子の法治論を述べ荀子及老子との關係に論及せよ

友枝教授

- 一、社會問題の起因
- 一、生存權とは何ぞ
- 一、道徳の發達と法律の發達
- 一、道徳教育の方法
- 一、社會事業の道徳的意義

第二十八回 (大正十二年第一次)

豫備試験 (三時間)

- 一、良心の起原如何
- 二、倫理學上より唯物主義を批判せよ
- 三、我が國に於ける「家」の意義を説明せよ
- 四、伊藤仁齋と物徂徠との倫理説の異同如何
- 五、儒教の所謂「道」とは何ぞ
- 六、道徳と經濟との關係に就きて教案を作れ (但し程度は中學校最上級、時間は貳時間)

第卅八、九回

本試験

- 一、動機論と結果論とを比較評論せよ
- 二、フイヒト (J. G. Fichte) の倫理説を叙述せよ
- 三、中江藤樹の物我一如説を論ぜよ
- 四、「しらす」又は「しろしめす」の道徳的意義を説明せよ
- 五、宋儒の所謂天理人欲とは何ぞ
- 六、「國家の機能」に就いて教案を作れ (但程度は中學校最上級、時間は二時間)

第二十九回 (大正十二年第二次)

本試験

第一日午前

- 一、現代社會改造問題の缺點如何
- 二、自我實現とは何ぞ
- 人格の特質如何
- 「グリーン」の形式主義につきて述べよ
- 三、中庸の性道敎に就て
- 四、社會思想とは何ぞ
- 生存權とは何ぞ

同日午後

- 一、現代男女性問題の謬見如何
- 二、禁慾説とは何ぞ及その批判
- 三、「カント」の形式主義につきて述べよ
- 四、儒教の徳とは何ぞ
- 五、生存権とは何ぞ

第二日午前

- 一、人道博愛の問題に付いて
- 二、進化とは何ぞ

進化と進歩との區別

社會的遺傳と人類文化との關係

- 三、大學の格物致知に就いて
- 四、國家の要素參政權とは何ぞ

第二日午後

社會問題とは何ぞ

愛國心

國際主義及世界主義とは何ぞ

同日午後

- 一、人格問題と我國體に就いて
- 二、道德的貴族主義と道德的平民主義自律と他律義務と權利
- 自由につきて注意すべきことを述べよ

- 三、朱子の修養法を述べよ
- 四、社會制度と其發達
- 道德の進歩
- 國際聯盟とは何ぞ

第四十一回 (大正十三年第二次)

豫備試験 (三時間)

- 一、倫理學上より個人と社會との關係を論述せよ
- 二、プラトーン (Platon) の倫理説を述べよ
- 三、國民道德と國際道德との關係を論ぜよ
- 四、貝原益軒の天に對する信念如何
- 五、王陽明の知行合一論とソクラテス (Socrates) にの知徳合一説とを比較論評せよ
- 六、集團精神 (Group mind) に就いて教案を作れ (但し程度は中學校最上級、時間は貳時間)

本試験 (三時間)

- 一、形式的倫理説を批評せよ
- 二、ジョンロック (John Locke) の倫理説を述べよ
- 三、中江藤樹は惡の本源に就いて如何なる見解を有せしか
- 四、武士道と人道との關係を論ぜよ

- 五、孟荀二子の性説を叙述し且之を論評せよ
- 六、修身科と公民教育との關係を論ぜよ
- 注意 答案は問題毎に別紙に認むべし

第四十三回 (大正十四年第二次)

豫備試験 (四時間)

- 一、生物進化論の道德に及ぼせる影響を論ぜよ
- 二、ヘーゲルの倫理説を叙述せよ
- 三、個人主義と家族主義とは如何に調和し得べきか
- 四、山鹿素行の國體論を叙述せよ
- 五、孔子の道と老子の道との異同如何
- 六、國民教育と國際觀念の教養との關係を論ぜよ

本試験 (四時間)

- 一、意志自由論と意志必然論とを比較論評せよ
- 二、アダム・スミス (Adam Smith) の道德論を述べよ
- 三、我が國體と王道との關係を説明すべし
- 四、荻生徂徠の道は人爲に出づとの説如何
- 五、張橫渠の論理説を述べよ
- 六、「現代の社會生活に於ける婦人の地位及び責任」

につきて教案を作れ (高等女學校最上級貳時間)

口述試験

井上

第一日

- 一、道德は變化するものなりや否やに就て
- 二、天皇意識に就て

第二日

- 一、國民理想に就て
- 二、軍國主義の意義に就て

第三日

- 一、神勅と現今の國民思想との關係に就て
- 二、軍事教練の教育的意義に就て

吉田

何故に人間に義務感あるかに就き語方面より質問す

宇野

第一日

朱子の本然氣質論を述べよ

第二日

大學の致知格物に對する朱王二子の見解如何

第三日

中庸に見はれたる修養法を述べよ

教育科

第廿六回 (大正元年)

豫備試験 (四時間)

- 一 視覚機關ノ構造及作用ヲ説明セヨ
 - 二 定義及分類ノ意義ヲ説明シ其要件ヲ舉ゲヨ
 - 三 歐洲ニ於ケル學校教育ト宗教トノ關係ヲ沿革的ニ略述セヨ
 - 四 輓近ニ於ケル教育學研究ノ趨勢ヲ述ベヨ
 - 五 教育上復習ノ必要ナル所以及之ヲ最有效ナラシムル方法ヲ述ベヨ
 - 六 學校生活ガ品性陶冶ニ及ボス影響ヲ論ゼヨ
- 本 試 験 (四時間)
- 一 言語ガ思想ノ發達ニ及ボス影響ヲ述ベヨ
 - 二 ナトルフノ教育說トベルゲマンノ教育說トノ異同ヲ論ゼヨ
 - 三 遊戯ノ本質ヲ論ジ、其教育的價值ヲ述ベヨ
 - 四 範語法、數ヘ主義、瑞典式ヲ説明シ、且之ヲ論評セヨ
 - 五 特種兒童教育ノ種類ヲ舉ゲ、其發達ノ大要ヲ記

第廿六、廿七回

セ

第廿七回 (大正二年)

豫備試験 (四時間)

- 一 模倣ノ心理ヲ説明シ教育上ノ注意ニ及ベ
 - 二 推論式 (Syllogism)ノ第一圖式 (Figure)ニ於テ、大前提ハ全稱、小前提ハ肯定ナルヲ要シ、結論ニ於テハ總テノ質ト量トノ命題ヲ出スコトヲ得其理由如何
 - 三 宗教改革ガ教育ノ發達ニ及ボシタル影響ヲ述ベヨ
 - 四 明治五年ノ學制頒布ニツイテ知レル所ヲ記セ
 - 五 勤勞創作ヲ重ズル近時ノ教育說ノ論據ヲ舉ゲテ之ヲ批評セヨ
 - 六 美的感情ノ修養ガ品性陶冶ニ及ボス影響ヲ論ゼヨ
- 本 試 験 (四時間)
- 一 良キ記憶ノ特質ヲ舉ゲテ之ヲ養フ方法ヲ述ベヨ
 - 二 兒童個性ノ種類ヲ舉ゲテ其取扱上ノ注意ニ及ベ
 - 三 自然的教育說ニ關シテコメニウストルソートノ

- 意見ヲ比較論評セヨ
- 四 學校生活ニ於テ健全ナル自治的精神ヲ養フ方法ヲ述ベヨ
- 五 兒童ヲ中心トスル近時ノ教育說ノ論據ヲ舉ゲテ之ヲ批評セヨ
- 六 圖書ノ教育上ノ價值ヲ述ベ其有効ナル教授法ノ要點ヲ記セ
- 七 被教育者ノ能力著シキ差別ニ應ジテ編制ヲ異ニスル教育組織ノ得失ヲ論ゼヨ

第廿八回 (大正三年)

豫備試驗 (四時間)

- 一 決意ヲ生ズル心理的過程ヲ説明セヨ
- 二 量ト質トニ由リテ命題ヲ區別シ其對當 (Opposition)ヲ説明セヨ
- 三 青年期ニ於ケル心身發達ノ特徵ヲ述ベヨ
- 四 社會的教育學說ノ由來並ニ要點ヲ明ニシ其實際ノ教育ニ及ボシタル影響ヲ述ベヨ
- 五 公民教育ノ意義及ビ價值ヲ論ジテ其方法ニ及ベニ
- 六 教授ノ段階ニ關スル主要ナル說ヲ舉ゲテ之ヲ批評セヨ

本 試 驗 (四時間)

- 一 發表運動ノ種類ヲ舉ゲ其心意發達ニ及ボス影響ヲ述ベヨ
- 二 個性 (Individuality) ト人格 (Personality) トノ意義ヲ説明シ、其關係ヲ論ゼヨ
- 三 直觀教授ニ關スル思想ノ變遷ヲ明ニシ、且之ヲ批評セヨ
- 四 近世ニ於ケル技能科教授ノ發達ヲ略叙シ、現時ノ狀況ニ及ベ
- 五 自治的訓練ニ關スル現時ノ思潮ヲ舉ゲテ之ニ對スル意見ヲ述ベヨ
- 六 如何ニシテ補習教育ヲ最モ有効ナラシムベキカヲ論ゼヨ

第廿九回 (大正四年)

豫備試驗 (四時間)

- 一 注意ノ性質ヲ説明シ、其心意發達上ニ及ボス影響ヲ述ベヨ
- 二 概念發達ノ過程ヲ述ベ論理的概念ノ特質ヲ示セ
- 三 フレーベルノ教育說ヲ舉ゲテ其現時ノ教育思潮ニ關係セル點ヲ明ニセヨ

- 四 現今ノ「個人的教育思想」ノ要點ヲ舉ゲテ批評セヨ
- 五 訓練上服従ト自由トノ關係ヲ論ゼヨ
- 六 能力薄弱ナル兒童ニ對スル特別ナル教育の施設ニツイテ知レル所ヲ記セ

本 試 驗 (四時間)

- 一 教育學ノ性質ニ關スル諸說ヲ舉ゲテ之ヲ批評セヨ
- 二 疲勞ニ關スル近時ノ研究ノ結果ニ就イテ教育上參考スベキ事項ヲ舉ゲヨ
- 三 近世ニ於ケル國家主義ノ教育思潮ヲ述ベ其實際ニ及ボシタル影響ヲ示セ
- 四 教式ノ主ナル種類ヲ舉ゲテ之ヲ説明セヨ
- 五 教授上教科書ノ價值ヲ論ジ其使用上ノ注意ニ及ベ
- 六 男女ノ別ニヨリテ訓練上特ニ注意スベキ事項ヲ説明セヨ

第卅回 (大正五年)

豫備試驗 (四時間)

- 一 神經系統ト心意作用トノ關係ヲ説明セヨ

- 二 兒童ニ於ケル想像ノ發達ヲ述ベテ教育上ノ注意ニ及ベ
- 三 契合法 (The Method of Agreement) 及差異法 (The Method of Difference) ヲ説明シテ其例ヲ示セ
- 四 明治年間ニ於ケル本邦女子教育ノ變遷ヲ略說セヨ
- 五 フイヒテ (Fichte) ノ教育說ノ大要ヲ舉ゲテ之ヲ論評セヨ
- 六 實驗教育學ノ性質ヲ述ベ、其價值ヲ論ゼヨ
- 七 實質的陶冶、形式的陶冶ノ意義ヲ明ニシ兩者ノ關係ヲ論ゼヨ
- 八 體罰ニ關スル思想ノ變遷ヲ說キ、之ニツイテ意見ヲ述ベヨ

本 試 驗 (四時間)

- 一 知能測定ノ意義ヲ明ニシ、其主ナル方法ヲ述ベヨ
- 二 實科主義 Realism ノ變遷ヲ述ベ其實際教育ニ及ボシタル影響ヲ記セ
- 三 教育學研究ノ方法ヲ論ゼヨ
- 四 共同作業ノ教育上ノ價值ヲ論ゼヨ
- 五 習慣形成ノ原理ヲ述ベテ教育上ノ注意ニ及ベ

- 第三十一、三十二回
- 六 身體薄弱ナル兒童ニ對スル教育上ノ施設ヲ舉ゲテ之ヲ説明セヨ
- 七 實地授業ヲ批評スルニ當リ注意スベキ事項ヲ舉
- 八 校地選定上考慮スベキ條件ヲ舉ゲテ其理由ヲ説明セヨ

第三十一回 (大正六年)

豫備試験

- 一 觀念(表象)と感情との性質を明かにし其關係を述べよ
- 一 假説(臆説)の性質を述べ、これに必要な條件を挙げよ
- 三 コメニウスとペスタロッチーとの教育説の異同を論ぜよ
- 四 教育學と哲學との關係を論ぜよ
- 五 國家主義の教育の意義を述べて之を論評せよ
- 六 體育の沿革を述べ、且其教育上の價值を論ぜよ
- 七 ペルバルト派の形式的段階の根據を明かにして之を批評せよ
- 八 兒童の性行上の主なる缺陷を挙げ、之に對する

訓練の方法を述べよ
右四時三十分

本 試 験

- 一 模倣と創作との關係を論ぜよ
- 二 遺傳と境遇との教育に及ぼす影響を述べよ
- 三 普通教育と職業教育との關係についての思想の變遷を述べて之を評論せよ
- 四 寺子屋教育の沿革及び狀況を略述せよ
- 五 明治年間の本邦教育に及ぼしたる歐米教育説の影響を概説せよ
- 六 書方練習に於て大字を主とすると細字を主とするとの得失を論ぜよ
- 七 訓練上名譽心を鼓舞することの利害を論ぜよ

第三十二回 (大正七年度)

豫備試験

- 一 推論式(Syllogism)の第四格(Figuro)に於て前提は特稱否定たるを得ず、又結論は全稱肯定たるを得ざる理由を説明せよ
- 二 情緒と其身體的表出との關係を説明せよ
- 三 兒童心身の發達を主なる時期に分ち其各時期に

- 於ける特徴を述べよ
- 四 すべんさーの教育説の概要を挙げ本邦の教育に及ぼしたる影響を述べよ
- 五 學校教育と社會教育との關係を論ぜよ
- 六 教授上生徒の自學を重んずる思想の根據を明にせよ
- 七 遊戯と作業との異同を辯じ、且其關係を明にせよ
- 八 學校生活に於て共同精神を養成する方法を述べよ

(右四時三十分)

本 試 験

- 一 教育上練習を必要とする所以を心理的に説明せよ
- 二 兒童の藝術心について其特徴を挙げ、且養成の方法を述べよ
- 三 教育學と論理學との關係を述べよ
- 四 教育の理論並に實際に及ぼしたる進化論の影響を述べよ
- 五 奈良、平安時代に於ける教育の狀況を述べよ
- 六 幼兒教育に關するフレーベルとモンテッソーリ

第三十三回

との説の異同を明かにせよ。

修身教授と訓練との關係を論ぜよ。

七 知能の優秀なる兒童の爲に特別の學級を編制することの可否を論ぜよ

(右四時三十分)

第三十三回 (大正八年度)

豫備試験

- 一 歸納推理の根據を明かにせよ
- 二 心理學上の主意説(Voluntarism)を説明せよ
- 三 忘却の心理を述べて教育上の注意に及べ
- 四 歐洲に於ける文藝復興が教育の發達に及ぼしたる影響を述べよ
- 五 徳川時代の藩學に於ける訓練の狀況を述べよ
- 六 美育の價值を論ぜよ
- 七 理科教授と品性陶冶との關係を論ぜよ
- 八 教育上試験の利害を論ぜよ

(右四時間)

本 試 験

- 一 實用主義(Pragmatism)の思潮が教育學説に及ぼしたる影響を述べて之を論評せよ

第三十四回

- 二 思考作用の本質を明かにし、其發達の有様を述べよ
- 三 讀方の際に働く心理作用を説明せよ
- 四 鎌倉時代に於ける武士教育と歐洲中世の騎士教育とを比較せよ
- 五 ルソーの教育説が現今の教育思想に及ぼしたる影響を述べて之を論評せよ
- 六 開化史的段階説を述べて之を批評せよ
- 七 訓練上探るべき主義を論じ被教育者の發達階段に應ずる之が適用上の注意を述べよ
- 八 本邦女子高等普通教育の制度を叙し、之に關する意見を述べよ

(右四十分間)

第二十四回 (大正九年度)

豫備試験

- 一 推論式の各の格 (Figure) に於て小前提否定ならば大前提全稱なるべき理由を説明せよ。
- 二 或人と兒童に於ける記憶作用の差異を述べよ
- 三 自學主義の教育説を批評せよ。
- 四 ロックの教育説を擧げ、其教育の理論及び實際

- 五 に及ぼしたる影響を述べよ。
- 六 一教科に於ける陶冶が他の教科の學習に及ぼす効果如何
- 七 訓練の效力を論ぜよ。

(右四時間)

本 試 験

- 一 學習上運動感覺の價值を評論せよ
- 二 教育上心理的見地と社會的見地の關係を論ぜよ
- 三 左について知れる所を記せ
足利學校。細井平洲
イグナチオ・ロヨラ (Ignatio Loyola)
コンドルセー (Condorcet) ヘルランカスター
法 (Bell Lancaster System)
- 四 歐米に於ける公民科 (Civics) 教授の状況を述べて之を批評せよ。
- 五 教授に於ける豫備段階の學理的根據並に其實施上の方法を述べよ
- 六 校風の意義を説明し其訓練上大切なる所以を詳論せよ。

(右四時間)

- 1. 教育及教授の目的及び方法に關する理論の變遷
- 2. 現時の主なる教育思潮
- 3. 現時に於ける教育及び教授上の實際問題
- 4. 訓育及び教授に關する實驗及研究
- 5. 教育學研究の動機及び方法

第二十五回 (大正十年度)

豫備試験

- 一 教育に於ける心理的基礎と論理的基礎との關係を述べよ
- 二 空間の觀念の發達する心理的過程を説明せよ
- 三 教育上の個人主義の哲學的基礎を述べて之を論評せよ
- 四 歐洲に於ける義務教育發達の状況を略述せよ
- 五 教授と學習の動機を起さしむることの必要なる所以を論じ、且其方法を述べよ。
- 六 訓練の可能と限界とを論述せよ。

(右四時間)

本 試 験

- 一 讀み方と綴り方とに於ける心理作用の異同を説

第三十五、三十六回

明せよ

- 二 教育に於ける根本觀念としての自由の意義を明かにせよ
- 三 形式的陶冶の意義及び價值を詳述せよ
- 四 人文主義 (Humanism) の教育思潮の變遷を述べよ
- 五 作業の訓育的價值を論ぜよ。
- 六 圖書館の社會教育上の價值を論じ、且之と學校教育との連絡を圖る方法を擧げよ。

(右四時間)

第二十六回 (大正十一年一次)

豫備試験

- 一 推論式に於て結論が全稱命題なるときは中名辭は一回のみ周行せらるゝことを要す其理由如何
- 二 抽象作用の發達を心理的に説明せよ
- 三 兒童の自己活動を重んずる教育説を述べて之を論評せよ。
- 四 ベスタロッチの教育事業を述べよ
- 五 技能教科の教育的價值を述べ、之を發揮せしむる方法を論ぜよ

第三十七、三十八回

六 訓練上に於ける教権の位置を述べよ

(右四時間)

第二十七回 (大正十一年二次)

本 試 験

一 カント哲學が教育學說上に及ぼせる影響を論ぜよ

二 晩近に於ける藝術教育運動の由來を説き之に對する意見を述べよ。

三 伊藤仁齋の教育事業を挙げ、併せて其訓育上の思想を評論せよ

四 學習上試行錯誤 (Trial and Error) の價值を論ぜよ

五 「プロジェクト、メソッド」 (Project Method) の意義及び證據を示して之を批評せよ。

(右四時間)

第二十八回 (大正十二年一次)

豫 備 試 験

一 ゴクレンニウス連鎖論式 (Goleman Series) の規則を舉げて之を説明せよ。

二 時間の觀念の發達する心理的過程を説明せよ

三 主意説 (Voluntarism) が教育の理論及び實際に及ぼしたる影響を論述せよ

四 左について知れる所を記せ
吉田松陰、ホレス・マン、パゼドゥ

五 教育と生活との關係については思想を舉げて之を論評せよ

六 教育上競技の利害を論ぜよ
(右四時間)

本 試 験

一 社會的教育學說の證據を舉げて之を批評せよ

二 美的情操の發達を述べて其陶冶の方法を記せ
左について知れる所を記せ

三 庭訓往來。世界圖會 (Orbis pictus)
フエロン (Fenlon) トマス・アーノルド (Thomas Arnold)

四 教授論に關するモイマン (Meumann) の業績を略述せよ

五 學校教育の効果を調査する必要と其方法を論ぜよ

六 公共心養成の方法を述べよ
(右四時間)

第四十二回 (大正十四年一次)

豫 備 試 験

一 推論式の第四格に於て小前提告定なるときは兩全提は共に全稱なるべき理由を説明せよ

二 兒童に於ける想像の作用の發達を述べて教育上の注意に及べ

三 教育學の性質を論ぜよ

四 石門心學の教育説及教育法を述べて之を評論せよ

五 教育上勤勞作業を重んずる思想の發達を略述せよ

六 學校教育に於て生徒の責任感を養成する方法について所見を述べよ
(右四時間)

本 試 験

一 人格と個性との關係を論じて教育上の注意に及べ

二 學校教育に於ける教師の位置及び職能を論ぜよ
ベスタロッチの教育思想が我國に傳來したる

三 徑路を明にし其影響を述べよ

第四十回 (大正十三年一次)

豫 備 試 験

一 演繹推理と歸納推理との關係を論ぜよ

二 機能心理説の意義を明にし、之が教育に及ぼしたる影響を述べよ

三 貝原益軒とジョン・ロックとの教育説を比較せよ

四 教育と遺傳及び環境との關係を論ぜよ

五 學習の原理を述べよ

六 作業の訓練的價值を明にせよ
(右四時間)

本 試 験

一 暗示の心理を述べよ

二 教育學と社會學との關係を論ぜよ

三 遊戲の教育的價值を説明せよ

四 教育史に於ける歐洲の文藝復興の意義を述べよ

五 學級教授と個別教授との長短を論評せよ

六 兒童に於ける意志發達の順序を述べて訓練上の注意に及べ
(右四時間)

第四十、四十二回

第四十二回

- 四 数の觀念の發達を述べて算術教授上の注意に及べ
 - 五 ドルトン・プラン(Dalton Plan)を説明し且之を批評せよ
 - 六 子弟の相互關係が訓練上に及ぼす影響を述べ其指導の方法を示せ
- 右 四時間
- 述 試 驗
- 一 教育の理論及び實際の諸問題
 - 二 教育の主要思潮の變遷
 - 三 教育及び教授上の新方法についての批判
 - 四 時勢と教育との關係

法制經濟科

第廿七回(大正二年)

豫 備 試 驗 (三時間)

- 一 帝國議會の目的と其職務とを説明すべし
- 二 法律上家の觀念を説明すべし
- 三 分業の經濟上に於ける利害を論ずべし
- 四 地代と地價との關係を説明すべし

本 試 驗

- 一 物權と債權との差異を説明すべし
- 二 條約及法律の意義を述べ且兩者の關係を説明すべし
- 三 賃金高低の原因を論ず
- 四 私人經濟と財政と異なる諸點を論ずべし

第廿八回(大正三年)

豫 備 試 驗 (三時間)

- 一 地方自治の觀念を説明すべし
- 二 契約の意義並に要素を説明すべし
- 三 企業の性質並に種類を説明すべし

第廿七、廿八、廿九回

四 利子存在の理由を述べ其高低の原因を論ずべし

本 試 驗 (三時間)

- 一 豫算の性質並に効力を説明すべし
 - 二 民法上に於ける物の意義を述べ且其類別を擧げて之を説明すべし
 - 三 外國貿易の利益と弊害とを論ずべし
 - 四 利潤の本質及其利子と其の關係とを述べよべし
- 法制及經濟口述試驗
- 地代の性質及其決定の原則關稅及關係等

第廿九回(大正四年)

豫 備 試 驗 (三時間)

- 一 帝國憲法の保障したる臣民の權利を略説すべし
- 二 左の語の意義を説明すべし
 - 1 法人 2 所有權 3 不當利得 4 正當防衛
 - 5 手數料
- 三 過剰生産の意義及其實在如何
- 四 分配の公正を論ずべし

本 試 驗 (四時間)

- 一 營造物の觀念を説明すべし
- 二 公權と私權との區別を述べ且私權の分類を擧げ

第卅一回

- て之を簡単に説明すべし
- 三、戦費の支戦は租税と公債との何れに依るを可とするや
- 四、恐慌とは何ぞや

法 制

- 一 官吏の觀念
- 二 戸主權と親權

經 濟

- 一 貨銀の所以に依て異なる所に就て
- 二 貨銀に關する學說其他に就て

第卅一回(大正五年)

豫 備 試 驗 (三時間)

- 一 立憲政體の要件及効力を述べし
- 二 左の語の意義を説明すべし

- 1 地上權 2 相續 3 會社 4 不能犯 5 條約

- 三 資本の本質及種類を述べし
- 四 國民生活上に於ける必要品の供給を外國に仰ぐの利害如何

本 試 驗 (四時間)

- 一 租税の意義を述べ且直接税と間接税との區別を説明すべし
- 二 抵當權の意義及効力を説明すべし
- 三 企業合同の行はるゝ所以を論じ其の各種の形式を述べし
- 四 勞働爭議の原因並に其の救濟策如何

法 制

- 一 選舉の要件及び方法
- 二 婚姻の要件及び効力

經 濟

- 一 交通發達の經濟上に及ぼす影響如何 (種々の點を問ふものなり)

第卅一回(大正六年)

豫 備 試 驗

- 一 帝國議會の豫算議定權を説明すべし
- 二 法律行爲の意義を説明すべし
- 三 貨幣數量説を説明論評すべし
- 四 重農學派の主張を叙説すべし

右 三時間

(注意) 各問の答書は二枚以上あるものは之を綴り且第一第二問の分を一綴第三第四問の分を一綴となし置くべし

本 試 驗

- 一 市町村公民の要件及其の權利義務を述べし
- 二 左の語の意義を説明すべし

- 1 質權 2 親權 3 收賄罪 4 未遂犯 5 株式會社

- 三 資本の本質及種類に就きて説明すべし
- 四 銀價高低の我國貿易上に及ぼす影響如何

第卅二回(大正七年)

豫 備 試 驗

- 一 市町村自治制度の概要を説明すべし
- 二 左の語の意義を説明すべし

- イ、不當利得 ロ、封鎖 ハ、未遂犯 ニ、株式會社

- 三 歐米諸國が戦時金の輸出を禁止するは重金主義の信念に基くものなりや又此の主義に基くもの

第卅二、卅三回

にあらずとすれば他に如何なる論據を有するや、

三、金利と企業との關係を説述すべし

右 三時間

(注意) 第一問及第二問を一綴、第三問及第四問を一綴として提出すべし

本 試 驗

- 一 内閣制度を概説して國務大臣の憲法上の責任論及すべし
- 二 民法に於ける代理の意義及効力を説明すべし
- 三 所得とは何ぞ
- 四 所得に累進法を適用する理由如何

- 投機取引の本質を明かにし其の經濟上に於ける利弊を論ずべし

右 四時間

第卅三回(大正八年)

豫 備 試 驗

- 一 法人の意義並に公法人と私法人との區別を述べし
- 二 條約の意義並に條約と法律との關係を述べし
- 三 兌換禁止の物價に及ぼす影響を論ずべし

第卅四、卅五回

四 地代の全廢は農産物の價格を抵落せしむるや否や

右 三時間

注意 第一問及第二問の答書を一綴、第三問及び第四問の答書を一綴として提出すべし

本 試 験

一 條約の性質及効力を述べ且つ我國にては條約は如何にして締結せられ且つ何時成立するかを説くべし

二 左の語の意義を説明すべし

- イ、地上權
- ロ、無能力者
- ハ、親族
- ニ、刑の執行猶豫
- ホ、支配人

三 貨銀と生活程度との關係を論じて最低貨銀制度に及ぶべし

四 國際貸借の内容及内の均衡 就て論ずべし

右 四時間

第卅四回(大正九年)

豫 備 試 験

一 法律行為の意義を述べ且つ其の成立要件に付説明すべし

二 條約と法律との關係を述べ且つ國際聯盟の何たるやを説明すべし

三 報酬漸減の法則は商工業にも行はるゝや否や

四 利子と利潤との區別を説明すべし

右 三時間

本 試 験

一 營造物の一例を挙げて其の如何なるものなるかを説明し且つ其の使用料と租税と異なる點を述べし

二 左の語の意義を説明すべし

- イ、代理
- ロ、請負
- ハ、教唆犯
- ニ、合資會社

三 恐慌に關する諸學説を解説せよ

四 「労働は商品にあらず」との原則に付て論述すべし

右 四時間

口 述 試 験

- 一 國家及町村の豫算に付て
- 二 法人及組合の性質、能力、設立の手續に付て

第卅五回(大正十年一次)

豫 備 試 験

一 意思表示の何たるかを説明し法律行為との關係を論ずべし

二 憲法法律及勅令の區別を論ずべし

三 私經濟と公經濟との異なる點を説明すべし

四 不景氣の本質及原因如何

右 三時間

第卅六回(大正十一年一次)

豫 備 試 験

一 法人の性質及種類を論ずべし

二 國務大臣の地位及職責を論ずべし

三 グレシャム法則の本位貨幣と補助貨幣との間に
行はるゝや否やを論ずべし

四 一般的過剰生産の可能なるや否やを論ずべし

右 三時間

本 試 験

一 債權の特質を論じ其の物權と効力を異にする點を明示すべし

三 我國自治體の一例を挙げて其の行政組織の概要を説述すべし

三 我國に於て卸直段と小賣直段との差異著しき理

第卅六、卅八回

四 由を説明すべし
時間賃銀と簡數賃銀との別を明にし兩者の得失を論ずべし

右 三時間

第卅八回(大正十二年一次)

豫 備 試 験

一 帝國議會の職務權限を述べ且つ帝國議會と國務大臣との關係を説明すべし

二 行為能力を説明し無能力者とは何たるかを辯明すべし

三 所謂「資本主義」とは何ぞ、其本質を説明批評すべし

四 賃銀高低の原因を説明すべし

右 四時間

本 試 験

一 行政訴訟の目的及要件並に行政訴訟と異なる點を略説すべし

二 法律行為が完全に成立する爲めの要件
三 地代と穀價との關係を説明すべし

四 信用の本質及種類如何

第四十二、四十三回

右 一時間

第卅八回(大正十三年二次)

豫 備 試 験

- 一 帝國憲法と國體との關係を説明すべし
- 二 法律行為とは如何なるものなるかを説明すべし
- 三 地代發生の原因を説明すべし
- 四 貨幣と物價との關係如何

右 三時間

本 試 験

- 一 市町村と小學校との關係及小學校教員の法律上の地位を説明すべし
- 二 左の語につき説明すべし
 - イ、財産權
 - ロ、家族制度
- 三 爲替相場變動の原因を問ふ
- 四 金利の性質を述べて其高低を生ずる所以を説明すべし
- 五 労働者の團結は賃銀の決定に如何なる關係を有するや又右の團結は賃銀基金説より見て價値ありと考へられたりや

右 四時間

口 述 試 験

- 一 行政官廳の行為に依り損害を受けたる時賠償の請求を爲し得るや

▲經濟科

- 一 手形割引とは何ぞや
- 二 割引歩合と貸付歩合との關係
- 三 中央銀行の金利歩合と市中銀行の金利歩合との關係
- 四 右關係に付き日英兩國の實例等

第四十三回(大正十四年二次)

豫 備 試 験

- 一 我國に於て官吏が不法行為に因り人民に損害を與へたる時は其官吏若くは國庫が之を賠償することを要するや
- 二 法人とは如何なるものなるかを説明すべし
- 三 效用と價値との關係を説明すべし
- 四 資本の本質及種類如何
- 五 貿易の均衡と國際貸借との關係を説明すべし

右 四時間
本 試 験

- 一 帝國議會の組織及權限を説明すべし
- 二 損害賠償の性質を説明し之と罰金及過料との異同を明らかにすべし
- 三 利息成立の理由を説明すべし
- 四 獨占價格及競争價格に就て説明すべし
- 五 租稅負擔の公正とは何ぞや、如何なる標準に據り、又如何なる方法を以て課稅すれば負擔の公正を期圖するを得るか

右 四時間

口 述 試 験

- 一 會社の種類
- 二 各會社の特徴
- 三 株式會社の經濟上重要な所以
- 四 株式會社の資金調達方法
- 五 株主と社會所會者との利害の差違

第四十三回

國語及漢文科

第二十六回 (大正元年)

豫備試驗

設問

- (一) 國文學ニ於ケル韻文ノ形式ヲ説明セヨ
- (二) 釋契沖ノ假名遣ニ關スル意見ヲ述ベヨ
- (三) 左ノ動詞ノ活用ヲ示セ
考報 堪用 榮 悶 据 教 抑 誣
- (四) 左ノ語ヲ略解セヨ
申文 節折 采女 頭陀 胡散 搦手 官憲
法人 人爲 淘汰 群衆 心理
- (五) 左ノ年號ハ何朝何帝ノ時ナルカ
萬曆 慶曆 建安 開元
- (六) 左ニ就キテ知レル所ヲ記セ
姚江學 桐城派

第二十六回

(一) 普通文 作文

(二) 復文 圖書館

(イ) 好ミテ人ノ短長ヲ議論シ安リニ正法ヲ是非スルハコレ吾ガ大ニ惡ムトコロナリ
(原文十七字)

(ロ) 人ニ君タルモノハマサニ禍ヲコレ務メテ去ラントス而ルニコレヲ速クハスナハチ不可ナルナカランカ(原文十六字)

(ハ) 細大カラ盡シ敢ヘテ怠荒セズ(原文八字)
(ニ) 敢ヘテ股肱ノカラ竭シ忠貞ノ節ヲ效シコレニ繼グニ死ヲ以テセザランヤ(原文十六字)

(注意) 設問及作文ヲ通ジテ四時間トス

答案ハ毛筆ニテ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ
本科ノ問題ハ兩日ノ分共總テ第一種第二種共通トス

(二) 沖ノ方ヨリ尋常ニ飾ツタル小船ヲ一艘汀ヘ向ツ

第二十六回

テ漕ギ寄セサセ渚七八段ニモナリシカバ船ヲ横ザマニテスアレハ如何ニト見ル所ニ船ノ中ヨリ年ノ齡十八九バカリニナル女房ノ柳ノ五衣ニ紅ノ袴キタルガ皆紅ノ扇ノ日出イタルヲ船ノセガイニハミタテ陸ヘ向ツテゾ招ギケレ判官後藤兵衛實基ヲ召シテアレハ如何ニト宣ヘバ射ヨトニコソ候フメレ但シ大將軍ノ矢面ニ進ミテ傾城ヲ御覽セラレン所ヲ手垂ニヌラウテ射落サントノ謀トコソ存ジ候ヘサリナガラ扇ヲバ射サセラルベウモヤ候フラント申シケレバ判官御方ニ射ツベキヤ仁ハ誰カアルト宣ヘバ上手ドモ多ウ候フ中ニ下野國住人那須太郎資高ガ子ニ與一宗高トテ小兵デハ候ヘドモ手ハキイテ候フト申ス判官證據ハ如何ト宣ヘバサシ候フカケ鳥ナドヲ争ウテ三ツニツハ必ズ射落シ候フト申シケレバ判官サラバ與一召セト召サレケリ(平家物語)

(一) (イ) ホト、ギスナガ鳴ク里ノアマタアレバナホ
ウトマレヌオモフモノカラ
(ロ) 夏草ヤツハモノドモガ夢ノ跡
(ハ) 物言ヘバ唇寒シ秋ノ風
(注意) 漢文ノ解釋讀方ト通ジテ四時間トス
答案ハ毛筆ニテ問題毎ニ別紙ニ認ムベ

讀方及解釋
(一) (イ) 子路從而後遇丈人以杖荷篠子路問曰子見夫
人乎丈人曰四體不勤五穀不分孰爲夫子植其杖
而芸子路拱而立止子路宿殺雞爲黍而食之見其
二子焉明日子路行以告子曰隱者也使子路反見
之至則行矣子路曰不仕無義長幼之節不可廢也
君臣之義如之何其廢之欲潔其身而亂大倫君子
之仕也行其義也道之不行路已知之矣(論語)
(ロ) 無爲其得不爲無欲其所不欲如此而已矣
(孟子)

與公孫述同縣少相善臣前至蜀述陸載而後進臣今遠來陛下何知非刺客姦人而簡易若是帝笑曰卿非刺客願說客耳援曰天下反覆盜名字者不可勝數今見陛下恢廓大度同符高祖乃知帝王自有真也
注意 本紙ニ句讀、返點送假名ヲ附シ傍線ヲ施シタル語句ノミヲ別紙ニ解釋スベシ
讀方及解釋

(二) 芙蓉樓送辛漸 王昌齡
寒雨連江夜入吳 平明送客楚山孤 洛陽親友如有問 一片冰心在玉壺(唐詩選)
注意 本紙ニ句讀、返點、送假名ヲ附シ別紙ニ解釋ヲナスベシ

本 試 験
解 釋
(一) 法皇ノトコロ、修行セサセ給ヒテ宮瀧御覽ゼシホドコソイミジウ侍リシカソノヲリ菅原ノオトノアソバシタリシ歌
水ヒキノシラ絲ハヘテオルハタハ旅ノ衣ニダチヤ重ネン
大井ノ行幸モ侍リシゾカシサテ又ミユキアリヌベキトコロト申サセ給フコトノ由奏セントテ一條ノオホ

第二十六回

イマウチギミゾカシ
ヲグラ山紅葉ノ色モ心アラバ今一度ノミユキマ
タナン
アハレイフニモサフライシカナサテ行幸ニアマタノ
題タマハリテヤマト歌ツカウマツリシナカニ猿叫喚
躬恒
ワビシラニマシラナナキン足引ノ山ノカヒアル
今日ニヤハアラヌ

(二) 心モトナキモノ人ノモトニトミノモノヌヒニヤ
リテ待ツホド物見ニ急ギ出デテ今ヤ今ヤトクルシウ
居イリツ、アナタヲマモラヘタル心地子生ム人ノ釋
過グルマデサルケシキノナキ遠キ所ヨリオモウ人ノ
文ヲ得テカタクフンシタルソクヒナドハナチアタル
心モトナシ物見ニ急ギ出デテ事ナリニケリ白キシモ
トナド見付ケタルニ近クヤリヨスルホドワビシウオ
リテモイヌベキ心地コソスレシラレシト思フ人ノア
ルニ前ナル人ニ教ヘテ物イハセタルイツシカトマチ
出デタルチゴノ五十日百日ナドノホドニナリタル行
末イト心モトナシ……何事ニモアレ急ギテ物ヘ

第二十六回

ユクヲリマヅワガサルベキ所ヘユクトテ唯今オコホ
セントテ出デヌル車マツ程コソ心モトナケレオホヂ
イキケルヲキナリケルト喜ビタレバ外ザマニヌル
イト口ヲシ(枕草子)

(注意)

漢文ノ解釋讀方ト通ジテ四時間トス
問題毎ニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ

(一)讀方

近來各處關於祀孔子事紛紛致電本部各持一議竊以崇祀
孔子問題及祀禮如何訂定事關民國前途至鉅非俟將來正
式國會議決後不能草率從事現本部規定各學校於孔子誕
日舉行紀念會以表誠敬希查照(支那教育部致各省都督
民政長電)

本紙ニ句讀、返點、送假名ヲ施スベシ

(二)讀方

孔子曰導之以政齊之以刑民免而無恥導之以德齊之以禮
有恥且格老氏稱上德不德是以有德下德不失德是以無德
法令滋章盜賊多有太史公曰信哉是言也法令者治之具而
非制治清濁之源也昔天下之網嘗密矣然姦僞萌起其極也
上下相遁至於不振當是之時吏治若救火揚沸非式健嚴酷
惡能勝其任而愉快乎言道德者溺其職矣故曰聽訟吾猶人
也必也使無訟乎下士聞道大笑之非虛言也漢興破觚而爲

圓斲駭而爲朴網漏於吞舟之魚而吏治烝烝不至於姦黎民
艾安由是觀之在彼不在此(史記)

本紙ニ句讀、返點、送假名ヲ附シ傍線ヲ施シタ
ル句ハ別紙ニ解釋スベシ

(三)讀方及解釋

穆叔如晉范宣子逆之間焉曰古人有言曰死而不朽何謂也
穆叔未對宣子曰昔何之祖自虞以上爲陶唐氏在夏爲御龍
氏在商爲豕韋氏在周爲唐杜氏晉主夏盟爲范氏其是之謂
乎穆叔曰以豹所聞此之謂世祿非不朽也魯有先大夫曰臧
文仲既沒其言立其是之謂乎豹聞之大有立德其次有立
功言雖久不廢此之謂不朽若夫保姓受氏以守宗祊世不絕
祀無國無之祿之大者不可謂不朽(左傳)

本紙ニ句讀返點送假名ヲ施シ別紙ニ解釋スベシ

本 試 驗

設 問

- (一) 明治時代ニ致セシ文學者二三ノ名ヲ舉ゲテ其ノ事業ヲ略叙セヨ
- (二) 祝詞ト宣命トヲ比較評論セヨ
- (三) 左ノ場合ニ於ケル品詞轉成ノ例ヲ示セ
 - (イ) 名詞ヨリ動詞ニ
 - (ロ) 動詞ヨリ副詞ニ

(ハ) 名詞ヨリ形容詞ニ

(四) 左ノ事項ニ就キテ知レル所ヲ記セ

漢代ニ於ケル國郡縣ノ區別 唐代ノ節度使

(五) 文章上ノ隻關法ヲ説明セヨ

作 文

(一) 普通文 我ガ私淑スル人物

(二) 國文漢譯

乃木大將ノ遺言中ニハ未ダ世間ニ知ラレザル貴重ノ珍書多クアリ和漢洋書總計一萬餘冊ニ及ビ其ノ中既ニ畏キアタリニ獻上シタルモノアリ又大將自ラ指定シテ沙々貴神社遊就館學習院帝國大學等ニ寄附スベキモノモアリ親族ノ人々ハ之ガ處理中ナリトイフ

(注意) 設問及作文ヲ通ジテ四時間トス

答案ハ毛筆ニテ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

本科ノ問題ハ兩日ノ分トモ總テ第一種

第二種學校教員志願者共通トス

國語ノ免許狀又ハ證明書ヲ有スル者ハ

設問ノ(一)(二)(三)ニ漢文ノ免許狀又ハ證明書ヲ有スル者ハ設問ノ(四)(五)

第二十六第二十七回

ニ答フルヲ要セズ

口頭質問：國語之部

古今著聞集花園左大臣ノ一節(十一月廿五日)

十訓抄行成大納言ノ一節(十一月廿六日)

十訓抄亭子院鳥養院御遊ノ一節(十一月廿七日)

同 上：漢文之部

會文正公經史百家簡編序目中一節(自六籍燬於秦火後世遺拾殘遺微：：：點句之例蓋猶古者章句之遺意マデ)——十一月廿五日

吳定海峰文集序ノ一節(嗚呼道德者文章之寶也三代盛時：：：：秦以還天之之生材大抵然也マデ)——十一月廿六日

宗史道學傳叙ノ一節(道學之名古無是也三代盛時：：：：故曰夫子賢於堯舜遠矣マデ)——十一月廿七日

(41)

第二十七回 (大正二年)

豫 備 試 驗

設 問 (八月廿二日分)

(一) 謠曲ニ就イテ知レル所ヲ記セ

(二) 歐洲語ヨリ轉化シテ我ガ國ノ通用語トナレルモノ若干ヲ舉ゲヨ

第二十七回

(三) 左ノ文ノ縦線ヲ施シタル部分ヲ品詞上ヨリ解剖セヨ

萬里ノ長城未ダ全ク成ラズシテ山東既ニ亂レ坑灰ナホ温ニシテ咸陽ノ宮殿三月紅ナリアハレ萬世無窮ト期セシ始皇ガ遺圖モ忽チ二世ニシテ盡キヌ盛ナル者豈竟ニ久シカラシヤ

(四) 左ノ語ヲ解釋セヨ

起請 怠狀 命婦 家司 優婆塞 聯想 對照 暗示 本能 不文法

(五) 絶ト律トノ特質ヲ問フ

(六) 十八史略ノ名稱ノ由來ヲ説明シ併セテ書中秦以後ノ國號ヲ列記セヨ

作 文

(一) 普通文

我が郷里

(二) 復 文

(イ) 子曰ク憤セザレバ啓セズ排セザレバ發セズ一隅ヲ舉ゲテ三隅ヲ以テ反セザレバスナハチ復ビセザルナリ(原文二十二字)

(ロ) 孫策東江ヲ渡リテ轉鬪ス向フトコロ敢テソノ鋒ニ當ルモノナシ百姓孫郎至ルト聞キ皆

魂魄ヲ失フ至ルトコロ一モ犯ストコロナシ民皆大ニ悦ブ(原文三十五字)

(注意) 設問及作文ヲ通ジテ四時間トス

答案ハ毛筆ニテ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

解 釋 (八月二十三日分)

(一) 海ヅラヨリハ少シ入リタル國分寺トイフ寺ヲヨロシキサマニトリ拂ヒテオハシマシ所ニ定ム今ハサハカクテアルベキ御身ゾカシトオボシシヅマル程猶夢ノココチシテイハム方ナシソコラ參リシツハモノドモモカヅレバカイシメリノドヤカニナリヌルイトド心細シ昔コソ受領ドモモ任ノ程ソノ國ヲシタタメ行ヒシカ此ノ頃ハ唯名バカリニテイヅクニモ守護トイフ者ノ目代ヨリハオゾマシキラスエタレバ武家ノマビキニテノミオホヤケザマノ事ハヨロゾオロンカニゾシケル葛城ノ王ヲ陸奥ノ國ヘ遣シタリケムモカクヤトアハレナリ(マス鏡)

(二) (イ) 世ノ中ニサラヌワカレノナクモガナチヨモトイノル人ノ子ノタメ
(ロ) トメコカシ梅サカリナルワガヤドヲウトキモ人ハワリニコソヨレ

(ハ) 白梅ヤ墨芳シキ鴻臚館

(ニ) 面白ウテヤガテ悲シキ鶺鴒舟カナ

(注意) 漢文ノ解釋讀方ト通シテ四時間トス問題毎ニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ

讀 方

臣以謂陛下雖欲改易更革天下之事合於先王之意其勢必不能者何也以方今天下之人才不足故也臣嘗試竊觀天下在位之人未有乏於此時者也夫人才乏於上則有沈廢伏匿在下而不爲當時所知者矣臣又求之於閭巷草野之間而亦未見其多焉豈非陶冶而成之者非其道而然乎(唐宋八大家文讀本)

(注意) 本紙ニ句讀、返點、送假名ヲ施スベシ讀方及解釋

宋太祖仁孝豁達有大度陳橋之變迫於衆心泊入京師市不易肆嘗一日罷朝坐便殿不樂者久之左右請其故上曰爾謂爲天子容易邪適乘快指揮一事而誤故不樂耳嘗宴近臣紫雲樓下因論及民事謂宰相曰愚下之民雖不分菽麥藤侯不爲撫養務行苛虐朕斷不容之開寶初修京城及大內營繕畢上坐寢殿令洞開諸門皆端直軒豁無有壅蔽因謂左右曰此如我心少有邪曲人皆之矣(十八史略)

(注意) 本紙ニ句讀、返點、送假名ヲ施シ別紙

第二十七回

ニ解釋ナスベシ

讀方及解釋

徐子曰仲尼丞稱於水曰水哉水哉何取於水也孟子曰源泉混混不舍晝夜盈科而後進放乎四海有本者如是是之取爾苟爲無本七八月之間雨集溝澮皆盈其涸也可立而待也故聲聞過情君子恥之(孟子)

(注意) 本紙ニ句讀、返點、送假名ヲ施シ別紙ニ解釋ヲナスベシ

讀方及解釋

望天門山

李 白

天門中斷楚江開碧水東流至北迴兩岸青山相對出孤帆一片日邊來(唐詩選)

(注意) 本紙ニ句讀、返點、送假名ヲ施シ別紙ニ解釋ヲナスベシ

本 試 驗

設 問 (十一月二十一日施行)

(一) 左ノ書ニ就キテ知レル所ヲ記セ

群書一覽 玉葉集 新葉集 金槐集 俚言集覽

詞ノ通路

(二) 左ノ人物ニ就キテ知レル所ヲ記セ

松永貞徳 伊勢貞丈 出口延佳 石川雅望

第二十七回

源順 阿佛尼

(三) 左ノ文ヲ文章法上ヨリ解剖セヨ

夕サリ大納言斬ラレ候ハンニ於テハ成經生キテモ何ニカハシ候フベキナレバ唯一所デ如何ニモナルヤウニ申シテタハセ給フベウモヤ候フラン

(四) 三禮ニ就キテ知レル所ヲ記セ

(五) 類書ノ性質ヲ略述シ併セテ其ノ二三ノ書名ヲ擧

(六) 二三ノ例ヲ擧ゲテ簡單ニ反切ノ法ヲ説明セヨ

普通文

(一) 菊ヲ觀ル

(三) 國文漢譯

謙信信玄ト和平ヲ結バントセラレシ時長遠寺ノ僧ヲ使ニセラル此ノ僧ハ遊説ノ人ナリ謙信カノ僧ニ甲斐ノ士ニ向井與左衛門トイフ者ヤアルト問ハルニコレ有リト申ス又創ノ痕ヤ有ルト問ハルニ面ニ刀瘡有リト申ス謙信ノイハク川中島ノ戰ニ名乗リカケテワレテ後ヨリツキ通ス處ヲフリカヘリテ一刀斬リタリシゾカシヨモタスカラジト思ヒツルニナガラヘタルヨナトテ萌黃ノ胸肩表ニ鎗ノアト有ルヲトリ出シ

書簡ヲ添ヘテ向井ニオクラケリ此ヲ世ニ反リ感狀トイフ(常山紀談)

(注意)

設問作文ヲ通ジテ四時間トス
答案ハ毛筆ニテ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

國語ノ免許狀又ハ證明書ヲ有スルモノハ設問ノ(一)(二)(三)及作文ノ(一)ニ漢文ノ免許狀又ハ證明書ヲ有スルノハ設問ノ(四)(五)(六)及作文ノ(二)ニ答フルヲ要セズ

解 釋 (十一月二十二日施行)

(一) 御前ニイト人ズクナニテウチヤスミワタレルニ一人目ヲサマシテ枕ヲソバタテ、四方ノ嵐ヲ聞キ給フニ波ダ、ゴ、モトニ立チ來ルコ、チシテ涙落ツトモ覺エヌニ枕ウクバカリニナリニケンヲ少シカキ鳴シ給ヘルガワレナガラヨイトスゴウ聞ユレバヒキサシ給ヒテ
「戀ヒワビテナクネニマガフ浦波ハ思フ方ヨリ風ヤ吹クラム」ト詠ヒ給ヘルニ人々オドロキテメダウ覺ユルニ忍バレテアイナウ起キキツ、鼻ヲ忍ビヤカニカミワタスゲニイカニ思フラン我が身一ツニヨリ

親ハラカラ片時立チハナレ難ク程ニツケツ、思フラム家ヲ別レテ惑ヒアヘルトオボスニイミジクテイトカク思ヒ沈ムサマヲ心細シト思フラムトオボセバ晝ハ何クレト戯レゴトウチノタマヒマギラハシツレ々々ナルマ、ニ色々ノ紙ヲツギツ、手習ヲシ給フ珍シキサマナルカラノ綾ナドニサマ、ノ繪ドモヲカキスサビ給ヘル屏風ノオモテドモナドイトメダク見所アリ人々ノ語リ聞エシ海山ノ有様ヲ遙ニオボシヤリシヲ御目ニ近クテハゲニ及バヌ礎ノタ、ズマヒニナクカキ集メ給ヘリ(源氏物語)

(二) 安ミシ、吾ガ大王神ナガラ神サビセスト芳野川タギツ河内ニ高殿ヲ高知リマシテノボリ立チ國見ヲスレバタ、ナハル青垣山ノ山ツミノマツルミツギト春ベハ花カザシモチ秋タタバモミチカザセリユフ川ノ神モ大ミケニ仕ヘ奉ルト上ツ瀬ニ鶴川ヲ立テ下ツ瀬ニサデサシワタス山川モヨリテツカフル神ノ御世カモ(萬葉集)

(注意)

漢文ノ解釋及讀方ト通ジテ四時間トス
答案ハ毛筆ニテ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

(一) 讀方解釋 (十一月二十二日施行)

第二十七回

晋郤缺言于趙宣子曰日衛不睦故取其地今已睦矣可以歸之叛而不討何以示威服而不桑何以示懷非威非懷何以示德無德何以主盟子爲正卿以主諸侯而不務德將若之何夏書曰戒之用休董之用威勸之以九歌勿使壞九功之德皆可歌也謂之九歌六府三事謂之九功水火金木土穀謂之六府正德利用厚生謂之三事義而行之謂之德禮無禮不樂所由叛也若吾子之德莫可歌也其誰來之盍使睦者歌吾子乎宣子說之(左傳)

本紙ニ句讀、返點、送假名ヲ施シ別紙ニ解釋スベシ

(二) 讀 方

太公望封於營丘地瀋鹵人民寡於是太公勸其女功極技巧通魚鹽則人物歸之繼至而輻湊故齊冠帶衣履天下海岱之間斂袂而往朝焉其後齊中衰管子修之誤輕重九府則桓公以霸九合諸侯一匡天下而管子亦有三歸位在陪臣富於列國之君是以齊富強至於威宣也故曰倉廩實而知禮節衣食足而知榮辱禮生於有而廢於無故君子富好行其德小人富以適其力淵深而漁生之山深而獸往之人富而仁義附焉富者得勢益彰失勢則客無所之夷狄益甚諺曰千金之子不死於市此非空言也故曰天下熙熙皆爲利來天下壤壤皆爲利往夫千乘之王萬家之侯百室之君尙有患貧而況匹夫

第十二回 之民乎(史記貨殖傳)

本紙二句讀、返點、送假名ヲ施スベシ

(二)讀 方

頃聞京津報載孔教會代表陳煥章等上書請願於憲法上用定孔教爲國教傳聞之下不勝駭異夫孔子之教不足完全宗

器量ナリ。賞罰勳功ヲ別チ。政務ヲキリトホシニシテ。上下ノ善惡ヲ糾サレケレバ。時ノ人惡左大臣トゾ申シケル。諸

宇治左大臣頼長ト申スハ。知足院禪閣殿下忠實公ノ二男ニシテオハシマス。入道殿ノ公ダチノ御中ニ殊更愛子

大將軍小松權亮少將維盛ハ生年廿三容儀帶佩繪ニカクトモ筆ニモ及ビ難シ重代ノキセナガ唐草トイフ鎧ヲバ

(十一月二十七日口述)

本紙二句讀、返點、送假名ヲ施スベシ

(二)

昔ハ朝敵ヲ平ゲニ外土ヘ向フ將軍ハマツ參内シテ節刀ヲ賜ハル宸儀南殿ニ出御シテ近衛階下ニ陣ヲ布キ内辨

斥之至於學詩學易學禮與夫志在春秋行在孝經之說拳々爲其子及門人言之晚而歸魯刪定繫作其功至賢於堯舜則

第二十八回 (大正三年)

豫備試驗 (二時間)

作文及復文

一作・文

讀書法(普通文體)

二復文

漢土之有詩猶本朝之有歌彼用其辭道其情宜其易也然雅鄭雜陳情文升互其可傳者猶渺矣況本朝之詩捨我辭用彼

(四)

自文籍既生學者固不可不讀書子路有何必讀書之說夫子

第二十七第二十八回

イ 孝子ノ至ハ親ヲ尊ブヨリ大ナルハナシ親ヲ尊ブノ至ハ天下ヲ以テ養フヨリ大ナルハナシ

(注意) 答案ハ毛筆ニテ問題毎ニ別紙ニ認ムベ

第二十八回

設 問 (三時間)

一 左ノ語ニ就キテ知レル所ヲ記セ

東鑑 悅目抄 草庵集 文藝類纂 詞ノ玉緒

二 左ノ語ノ讀方ヲ記シ簡單ニ其ノ意義ヲ説ケ

律令格式 公卿 法會 精進 前栽 上薦

續松

三 左ノ助動詞、助詞ノ意義用法ヲ例ヲ舉ゲテ説明セ

ヨ

イ、ツ

ロ、ラン

ハ、ヌベシ

ニ、ケラシ

ホ、ハ

ヘ、ガ

四 左ノ人ニ就キテ其ノ時代及文學上特別ノ事蹟ヲ記

セ

李夢陽 劉歆

五 左ノ書ニ就キテ知レル所ヲ記セ

近思錄 唐宋詩醇

(注意) 答案ハ毛筆ニテ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

解 釋

一 世ニ語リ傳フルコト誠ハアイナキニヤ多クハ皆ソ

ラゴトナリアルニモ過ギテ人ハ物ヲイヒナスニマシ

テ年月スギ境モヘダタリヌレバイヒタキマ、ニ語リ

ナシテ筆ニモ書キトドメヌレバヤガテ定リヌ、：

且アラハルルモ願ミズ口ニマカセテイヒチラスハヤ

ガテウキタルコトト聞ユ又我モマコトシカラズハ思

ヒナガラ人ノイヒシママニ鼻ノホトオゴメキテイフ

ハ其ノ人ノソラゴトニハアラズゲニグニシク所々ウ

チオボメキヨク知ラヌヨシシテサリナガラツマツマ

アハセテ語ルソラゴトハ恐ロシキ事ナリワガタメ面

目アルヤウニイハレヌルソラゴトハ人イタクアラガ

ハズ皆人ノ興ズルソラゴトハ一人サモナカリシモノ

ヲトイハムモセンナクテ聞キキタルホドニ證人ニサ

ヘナサレテイトド定リヌ

二 心アテニソラバヤヲラム初霜ノオキマドハセル白

菊ノ花

甲斐ガネヲネコシ山コシフク風ヲ人ニモガモヤコト

ヅテヤラム

オホケナクウキ世ノ民ニオモフカナ我タツ袖ニヌミ

染ノ袖

(注意) 問題毎ニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ

漢文ノ讀方及解釋ト通ジテ四時間トス

一 讀 方

昔者先王之爲天下必使天下欣欣然常有無窮之心力行不
倦而無自棄之意夫惟自棄之人則其爲惡也甚毒而不可解
是以聖人畏之設爲高位重祿以待能者使天下皆得踴躍目
奮援援而來惟其才之不逮力之不足是以終不能至於其間
而非聖人塞其門絕其塗也夫然故一介之賤吏閭閻之匹夫
莫不奔走於善至於死老而不知休息此聖人以術驅之也

(唐宋八家文)

(注意) 本紙ニ句讀、返點、假名ヲ施スベシ

二 讀方及解釋

孟子曰廣土衆民君子欲之所樂不存焉中天下而立定四海
之民君子樂之所性不存焉君子所性雖大行不加焉雖窮居
不損焉分定故也君子所性仁義禮智根於心其生色也皤然
見於面盎於背施於四體四體不言而喻

(注意) 本紙ニ句讀、返點、送假名ヲ施シ別紙

ニ解釋スベシ

三 讀方及解釋

從 軍 行 王 昌 齡

秦時明月漢時關萬里長征人未還但使龍城飛將在不教胡
馬度陰山(唐詩選)

(注意) 本紙ニ句讀、返點、送假名ヲ施シ別紙

第二十八回

ニ 解釋スベシ

本 試 驗

(一) 俳文ニ就キテ知レル所ヲ記セ

(二) 左ノ語句ノ意義ヲ解ケ

六日ノ菖蒲 イサカヒ果テテノチギリキ 横紙

破リ 祕事ハマツゲ エテニ帆ヲアグル

(三) 文章ノ上ヨリ左ノ歌ヲ解剖セヨ

世トトモニ峰ヘ麓ヘオリノボリ行ク雲ノ身ハ我

ニゾアリケル

(四) 正史編年史紀事本末ノ三史ノ區別ヲ略述シテ各

一ニノ例ヲ舉ゲヨ

(五) 漢學ト宋學トノ特色ヲ概説シ代表的學者ノ名ヲ

舉ゲヨ

(一) 普通文

歐洲ノ戰亂ニ就キテ

(二) 國文漢譯

日露戰役ニ於ケル我が國ノ俘虜待遇ハ何故博愛的ニ

シテ且人道的ナリシカトイフニ吾人ノ所見ニ依レバ

西洋傳來ノ國際法ノ教訓ニ出デタリト言ハンヨリハ

寧ロ我が國固有ノ武士道ニ胚胎セリトイフベシ即チ

第二十八回

強ヲ挫キ弱ヲ憐ム大和民族ノ任俠心ヨリ出デタルコト疑ヲ容レズ而シテ我が國ハ實ニ此武士道ニ依リテ世界ノ國際法ニ多大ナル貢獻ヲナシタルナリ

(注意)

設問作文ヲ通ジテ四時間トス

答案ハ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

國語ノ免許狀又ハ證明書ヲ有スルモノ

ハ設問ノ(一)(二)(三)及ビ作文ノ(一)

ニ漢文ノ免許狀又ハ證明書ヲ有スルモノ

ノハ設問ノ(四)(五)及ビ作文ノ(二)ニ

答フルヲ要セズ

讀方及解釋

宋皇國父爲大宰爲平公築臺於農收子罕請俟農功之畢公弗許築者謳曰澤門之哲實與我役邑中之黔實慰我心子罕聞之親執朴以行築者而扶其不勉者曰吾儕小人皆有闔廬以辟燥濕寒暑今君爲一臺而不速成何以爲何以爲後謳者乃止或問其故子罕曰宋國區而有詛有祝禍之本也(左傳)

本紙ニ句讀、返點、送假名ヲ施シ別紙ニ解釋スベシ

讀 方 (一)

臣聞明月之珠夜光之璧以闇投人於道路人無不按劍相問者何則無因而至前也蟠木根抵輪困離詭而爲萬乘器者何

則以左右先爲之容也故無因至前雖出隋侯之珠夜光之璧猶結怨而不見德故有人先談則以枯木朽株樹功而不忘今夫天下布衣窮居之士身在貧賤雖包堯舜之術挾伊管之辯懷龍逢比干之意欲盡忠當世之君而素無根柢之容雖竭精思欲開忠信輔人主之治則人主必有按劍相問之跡是使布衣不得爲枯木朽株之資也(史記魯仲連鄒陽列傳)

本紙ニ句讀、返點、送假名ヲ施スベシ

讀 方 (二)

「中國數年來立國根本在於道德凡國家政治家庭倫紀社會風俗無一非先聖學說發皇流行是以國有治亂運有隆污惟此孔子之道亙古常新與天無極經明於漢祀定於唐俎豆馨香爲萬世師表國紀民彝賴以不墜(中略)環球各國各有所以立國之精神秉諸先民蒸爲特性中國服膺聖道自齊家治國平天下無不本於修身語其小者不過庸德之行庸言之謹皆日用倫常所莫能外如布帛菽粟之不可離語其大者則可以位天地育萬物爲往聖繼絕學爲萬世開太平苟有心知血氣之倫胥在範圍曲成之內故尊崇至聖出於億兆景仰之誠絕非提倡宗教可比」前經政六會議議決祀孔典禮業已公布施行九月二十八日爲舊曆仲秋上丁本大總統謹率百官舉行祀孔典禮各地方孔廟由各該長官主祭用以表示人民俾知國家以道德爲重羣相與感潛移默化治進大同本大

總統有厚望焉(支那大總統告令)

「内ノ文ニ句讀、返點、送假名ヲ施スベシ

解 釋

(一) 八幡ノ臨時祭ノナゴリコソイトツレノナレナドテカヘリテ又舞ヲワザラセザリケムサラバヤカシカラマシ祿ヲ得テウシロヨリマカヅルコソクチヲシケレナドイフヲ上ノ御前ニ聞シメシテアスカヘリタラム召シテ舞ハセムナド仰セラル、誠ニヤサフアララムサラバイカニメデタカラムナド申ス嬉シガリテ宮ノ御前ニモ猶ソレ舞ハセサセ給ヘト集マリテ申シマドヒシカバ其ノ度カヘリテ舞ヒシハウレシカリシモノカナサシモヤアラザラムトウチタユミツルニ舞人御前ニ召スヲ聞キツケタルコ、チ物ニアタルバカリ騒グモイト物狂ハシク下ニアル人々惑ヒノボルナマコノ人ノズサ殿上人ナドノ見ルラムモ知ラズ裳ヲ頭ニウチカヅキテノボルヲ笑フモコトワリナリ(枕草子)

(二) 速須佐之男命ヨサシタマヘル國ヲ知ラサズシテ八拳鬚ムナサキニ至ルマデ泣キイサチ其ノ泣キタマフサマハ青山ヲ枯山ナス泣キカラシ海河ハコトゴトニ泣キ乾シキコ、ヲモテアラブル神ノオトナヒサバヘナス皆ワキ萬ノ物ノワザハヒコト、ニオコリ

第二十八回

キ(古事記)

(注意) 漢文 解釋及ビ讀方ト通ジテ四時間トス

答案ハ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

漢 文 科 (口述)

詩三百五篇於典觀羣怨之旨下逮鳥獸草木之名無弗備矣獨無刻畫山水者間亦有之亦不過數語篇不過數語漢魏間詩人之作亦與山水了不相及迨永嘉間謝康樂出始搆爲刻畫山水之詞務躬幽極涉挾山谷水泉之情狀宋齊以下率以康樂爲宗至唐王摩詰孟浩然杜子美韓退之之流正變互出而山水之奇怪靈闕刻露殆盡若其濫觴於康樂則一而已矣西漢之初儒學雖萌芽于世然九流之說猶未盡淪賈生傳春秋三禮之學然過秦論上編以仲尼與墨翟並言(其言曰陳涉才能不及中庸非仲尼墨翟之賢)而史書復稱其明申韓之術(如言削諸侯抑商賈皆近于法家言姚姬傳有賈生明申韓論則賈生非僅治儒術矣司馬遷受易於唐何問尚書于孔安國復仿春秋之義以作史記(皆見太史公自序中)然幼時曾習黃老家言(亦見太史公自序)故班氏稱其先黃老而後六經則史遷亦非僅治儒術矣當乾隆中葉海內魁儒疇士崇尚鴻博繁稱旁證考覆一字累數千言不能休別立職志名曰漢學深摺有宋諸子義理之說

以爲不足復存其爲文尤蕪雜寡要姚姬傳獨排衆議以爲義
理考據詞章三者不可偏廢必義理爲質而後文有所附考據
所有歸一編之內惟此尤兢兢當時孤立無助傳之

第二十九回 (大正四年)

豫備試驗

解 釋

(一) カノ島(隱岐國)ニ(後醍醐帝)オハシマシツ
キヌ昔ノ御跡ハソレトバカリシルシナク人ノスミカ
モマレニオノヅカラ海人ノ鹽ヤク里バカリハルカニ
イトアハレナルヲ御覽ズルニモ御身ノ上ハサシオカ
レテマヅカノイニシヘノ事オボシイヅカ、ル所ニ世
ヲツクシ給ヒケム御心ノ中イカバカリナリケムトア
ハレニ辱クオボサル、ニモ今ハタ更ニカクサスラヘ
ヌルモ何ニヨリ思ヒ立チシ事ゾカノ御心ノスエヤ果
シ遂グルト思ヒシ故ナリ若ノ下ニモアハレトオボサ
ルムラムカシトヨロヅニカキアツメツキセズナム
(増鏡)

(二) 殿上人一同ニ申サレケルハ夫レ雄劔ヲ帶シテ公
宴ニ列シ兵仗ヲ給ハリテ宮中ニ出入スルハ皆格式ノ
例ヲ守ル命由アル先規ナリ然ルニ忠盛朝臣或ハ相

傳ノ郎從ト號シ布衣ノ兵ヲ殿上ノ小庭ニ召置キ或ハ
腰ノ刀ヲ横ヘサイテ節會ノ座ニ列ル兩條希代未聞
狼籍ナリ事既ニ重疊セリ罪科尤モ難適早ク御フダヲ
削ツテ解官停任セラルベキ由各訴ヘ申サレケレバ上
皇大ニ驚キ思シメシ忠盛ヲ召テ御尋アリ陳ジ申シケ
ルハ先ヅ郎從小庭ニ祇候ノ由全ク覺悟仕ラズ但シ近
日人々被ニ相巧ニ子細アルカノ間年來ノ家人事ヲ傳ヘ
聞クカニ依テ其恥ヲ扶ケムガ爲ニ忠盛ニ知ラセズシ
テ竊ニ參候ノ條力不レ及次第ナリ若シ獨其答アルベ
クハ彼身ヲ可ニ召進ニ候フカ次ニ刀ノ事主殿司ニ預置
キ畢リヌ之ヲ被ニ召出ニ刀ノ實否ニ付テ答ノ左右可レ
在歟ト被申ケリ(平家物語)

(注意) 漢文ノ解釋讀方ヲ通ジテ四時間トス

問題毎ニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ

讀 方

上聰察強記管密令學士章澳纂次州縣境土風物及諸利害
爲一書號曰處分語刺史有入謝而出者曰上處分本州事驚
人建州刺史入辭上問建州去京師幾何曰八千里上曰卿到
彼爲政朕皆知之勿謂遠此階前則萬里也令狐綯奏李擬遠
杭州刺史上曰吾聞遠詩云長日惟消一局碁安能理人綯曰
詩人托此高興未必實然(十八史略)

本紙ニ句讀、返リ點、送假名ヲ施シ別紙ニ傍線

ノ句ヲ解釋スベシ

(注意) 漢文及國語ノ解釋ト通ジテ四時間トス

作 文

一 普通作文

學校卒業式祝辭

二 復 文

湯ノ伊尹ニ於ケル桓公ノ管仲ニ於ケル則チアヘ

ヲ召サズ管仲スラナホ召スベカラズシカルヲ況

ヤ管仲タラザルモノヲヤ(原文三十字)

右二時間 注意 問題毎ニ毛筆ニテ別紙ニ認ム

解 釋

甲

(一) 子曰莫我知也夫子貢曰何爲其莫知子也子曰不怨

天不尤人下學而上達知我者其天乎(論語)

(二) 子夏曰大德不踰閑小德出入可也(論語)

(三) 詩曰衣錦尚絀惡其文之著也故君子之道闇然而日

章小人之道然而日亡君子之道淡而不厭簡而文溫而

理知遠之近知風之自知微之顯可與入德矣(中庸)

解 釋

乙

杜少府之任蜀州

王 勃

第二十九回

(四) 城闕輔三秦風烟望五津與君離別意同是宦遊人海

內存知已天涯若比隣無爲在岐路兒女共沾巾(唐詩選)

甲乙共本紙ニ句讀、返リ點、送リ假名ヲ施シ別

紙ニ解釋ヲ書スベシ

(注意) 漢文ノ讀方及國語ノ解釋ト通ジテ四時

間トス

設 問

(一) 左ノ人々ニ就キテ知レル所ヲ記セ

安藤年山 屋代弘賢 藤井貞幹 四方赤良

清原元輔

(二) 左ノ語ノ讀方ヲ記シ簡單ニ之ヲ説明セヨ

內舍人 門跡 廻立殿 白酒黒酒 五節

准三宮、

(三) 左ノ文中ノ用言ヲ抽出シソノ活用ヲ示セ

タトシヘナクナガメシヲレサセ給ヘル夕グレニ

沖ノ方ニイトチヒサキ木ノ葉ノ浮ベルト見エテ

漕ギクルヲアマノ釣舟カト御覽ズルホドニ都ヨ

リノ御消息ナリケリ

(四) 大學中庸ノ表章セラレタルコトニ就キテ知レル

所ヲ記セ

(五) 刑名學ノ意義ヲ述ベテ其ノ著名ナル人ヲ擧ゲヨ

第二十九回

(六) 漢文ノ假裝法ノ例ヲ舉ゲヨ
右三時間 注意 問題毎ニ毛筆ニテ別紙ニ認ム

本 試 験

ベシ

設 問

(一) 平安文學ト漢文學トノ關係ニ就キテ知レル所ヲ

記セ

(二) 新井白石ノ著書ノ主ナルモノヲ舉ゲヨ

(三) 左ノ文章ヲ文法上ヨリ解剖セヨ

此ノ者サシテ猛キ者トハ見エズ思フニ狐狸ノシ

ワザニテゾアルランコレヲ射モ殺シ斬リモ止メ

タランハムゲニ念ナカラマシ同ジクハ生擒ニセ

ン

(四) 主格ヲアラハス種々ノ助詞ヲ文例ニヨリ示セ

(五) 詩ノ六義ヲ略説セヨ

(六) 樂府ノ起源及ビ其ノ體裁ヲ略述セヨ

(七) 濂洛關閩ノ學トハ何人ノ學ヲ稱スルカ

作 文

(一) 普通文 秋

(二) 國文漢譯 師長ノ任ハ人ニ信ゼラル、ニアリ人ニ信ゼラル

ルハ己ガ守リノ堅固ナルニ在リ己ガ守リノ堅固
ナルトイフハイツマデモ同ジ事ヲ退屈セズ人ノ
信不信ヲ問ハズ勤メ行フコトナリ久シク怠ラザ
レバ人ノ信ハ其ノ中ヨリ生ズ

(注意) 設問作文ヲ通ジテ五時間トス國語若ハ

漢文ノ教員免許狀又ハ證明書ヲ有スル

者一在テハ二時間三十分間ヲ限ル

問題毎ニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ

國語ノ免許狀又ハ證明書ヲ有スルモノ

ハ設問ノ(一)(二)(三)(四)及作文ノ

(一)ニ漢文ノ免許狀又ハ證明書ヲ有ス

ルモノハ設問ノ(五)(六)(七)及作文ノ

(二)ニ答フルヲ要セズ

解 釋

(一) 朱雀院ノ行幸ハ神無月ノ十日アマリナリ世ノ常
ナラズオモシロカルベキタビノ事ナリケレバ御カタ
ハ物見給ハヌ事ヲクチヲシガリ給フ上モ藤壺ノ見
給ハザラムヲアカズ思サルレバ試樂ヲ御前ニテセサ
セ給フ源氏ノ中將ハ青海波ヲ舞ヒケルカタニハ
大殿ノ頭中將カタチ用意人ニハコトナルヲ立チナラ
ビテハ花ノカタハラノ深山木ナリ入り方ノ日影サヤ

(注意)

漢文ノ解釋讀方ト通ジテ四時間トス但
シ國語若クハ漢文ノ教員免許狀又ハ證

明書ヲ有スル者ニ在リテハ二時三十分

間ヲ限ル

問題毎ニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ

讀方及解釋

(一) 范宣子爲政諸侯之幣鄭人病之二月鄭伯如晋子產
寓書於子西以告宣子曰子爲晋國四隣諸侯不聞令德而
聞重幣僑也惑之僑聞君子長國家者非無賄之患而無令
名之難夫諸侯之賄聚於公室則諸侯貳若吾子頼之則晋
國貳諸侯則晋國壞晋國貳則子之家壞何沒沒也將焉用
賄夫令名德之興也德國家之基也有基無壞無亦是務乎
有德則樂樂則能久詩云樂只君子邦家之基有令德也夫
上帝臨女無貳爾心有令名也夫恕思以明德則令名載而
行之是以遠至邇安母寧使人謂子子實生我而謂子浚我
以生乎象有齒以焚其身賄也宣子說乃輕幣。(左傳)

(注意)

國文ノ解釋ト通ジテ四時間トス但シ國
語若クハ漢文ノ教員免許狀又ハ證明書

ヲ有スル者ニ在リテハ二時三十分間ヲ

限ル

問題ニ返リ點句讀送假名ヲ施シ別紙ニ

(一) 速須佐之男命乃チ其ノ童女ヲ湯津瓜櫛ニ取リナ
シテ御ミヅラニサシテ其ノ足名稚手名稚ノ神ニノリ

タマハク「汝等八鹽折ノ酒ヲ釀ミマタ垣ヲ作りモト

ナシ其ノ垣ニ八ツノ門ヲ作り門毎ニ八ツノサズキヲ

ユヒ其ノサズキ毎ニ酒船ヲオキテ船毎ニ其ノ八鹽折

ノ酒ヲモリテ待テヨ」トノリタマヒキカレノリタマ

ヘルマニ「カクマケツナヘテ待ツトキニカノ八俣

蛇マコトニ言ヒシガゴト來ツ(古事記)

(二) ムサ、ヒハ木ヌレモトムト足引ノ

山ノサツヲニアヒニケルカナ(萬葉集)

ウスキリノマカキノ花ノ朝シメリ

秋ハユフヘトタレカイヒケム(新古今集)

第二十九回

第二十九第三十回

解釋スベシ
別紙ノ解釋ハ毛筆ニテ認ムベシ

讀 方

(一) 匹夫而能動天亦必有道矣非至誠一德其孰能使之記曰惟天下之至誠爲能盡其性能盡其性則能盡人之性能盡人之性則能盡物之性能盡物之性則可以贊天地之化育矣書曰惟尹躬暨湯咸有一德克享天心又曰德惟一動罔不吉德二三動罔不凶或以千金與人而人不喜或以一言使人而人死之者誠與不誠與不誠故也稽天之潦不能終朝而一澣之溜可以達石者一與不一故也誠而一古之聖人不能毫末於此矣而況公乎故臣論公之德至於感人心動天地巍巍如此而蔽之以二言曰誠曰一(蘇軾司馬溫公神道碑)

(注意) 國文ノ解釋ト通ジテ四時間トス但シ國語若クハ漢文ノ教員免許狀又ハ證明書ヲ有スル者ニ在リテハ二時三十分間ヲ限ル

問題ニ返リ點句讀送假名ヲ施スベシ

(三) 本埠正學會前日假西門省教育會開經學講演大會是日天氣酷熱而紳學各界來賓及該會同志到者甚衆梁天柱君講演經一題略謂經學一道本實用非虛用如吾

國士夫國子舍實務虛尊道蔑藝徒尙理想之空談而輕物質之實驗此物質所以無進步而中國所以獨困窮也即如本題已言明道器並重體用兼賅而學者重上半輕下半只務空言而忽實事以致一部有用之易學目爲一種卜筮之小技及其他十三經典要亦不過供文人作文之資料而已云云(申報)

(注意) 國文ノ解釋ト通ジテ四時間トス但シ國語若クハ漢文ノ教員免許狀ヲ有スル者ニ在リテハ二時三十分間ヲ限ル
問題ニ返リ點句讀送假名ヲ施スベシ

第三十回 (大正五年)

豫備試驗

(一) 源大納言通方ノ預リ奉ラレル阿波院(土御門帝)ノ宮(邦仁)ハオトナビ給フママニ御心バヘモイトキヤウサクニ御カタチモイト美ハシクケダカクヤンゴトナキ御有様ナレバナベテ世ノ人モイトアタラシキ事ニ思ヒ聞エケリ大納言サヘ曆仁ノ頃ウセニシカバイヨク(真心ニ仕ウマツル人モナク心ボソグニテ何ヲ待ツトシモナクカカツラヒテオハシマスマ人ヲ

ベシ
漢文ノ讀方、讀方及解釋ト通ジ四時間トス

設 問

ロクアチキナウ思サルベシ御母ハ土御門ノ内大臣通親ノ御子ニ宰相ノ中將通宗トテ若クテウセニシ人ノ御ムスメナリソレサヘカクレ給ヒニシカバ宰相ノハラカラノ姫君ゾ御乳母ヤウニテ橋邊彌ノ釋迦佛養ヒ奉リケムココナシテオハシケル(増鏡)

(二) 去ル程ニ態野ノ別當定遍此ノ事ヲ聞キテ……其ノ邊ノ鄉民ドモノ欲心ヲ勸メテ宮ヲ他所ヘオビキ出シ奉ラムト相謀リテ道路ノ辻ニ札ヲ書キテ立テケルハ「大塔ノ宮ヲ討チ奉リタラム者ニハ非職凡下ヲイハズ伊勢ノ車間ノ社ヲ恩賞ニ充テ行ハルベキ由關東ノ御教書コレアリ其ノ上ニ定遍マツ三日ガ中ニ六萬貫ヲ與フベシ御内祇候ノ人御手ノ人ヲウチタラム者ニハ五百貫降人ニ出デタラム輩ニハ三百貫何レモ其ノ日ノ中ニ必ズ沙汰シ與フベシ」ト定メテ奥ニ起請文ノ詞ヲ載セテ嚴密ノ法ヲゾ出シケルソレ移木ノ信ハ約ヲ堅ウセシガタメ献芹ノ賂ハ心ヲ奪ハンガ爲ナレバ欲心強盛ノ八咫司ドモ此ノ札ヲ見テケレバイツシカ心變シ色替リテ怪シキ振舞ドモニゾ聞ヘケル(太平記)

- 一 左ノ人名ニ就キテ知レル所ヲ記セ
大安萬侶 西山宗因 上田秋成 一條兼良 高崎正風
- 二 左ノ書籍ノ主ナル註釋書ノ書名ト著者トヲ記セ
萬葉集 源氏物語 枕草子 古今和歌集 徒然草
- 三 左ノ文中ノ動詞助動詞ヲ摘出シテ其ノ活用ヲ示セ
三位討タレニシト聞キシカドモ今朝マデハ誠トモ思ハデアリツルガ此ノ暮程ヨリゲニサモアラント思ヒ定メテアルゾトヨ
- 四 左ノ事項ニ就キテ知レル所ヲ記セ
寛政三博士
- 五 支邦ニ於ケル論語ノ註釋書三種以上ト著者トヲ記セ

本題ハ傍線ヲ施セル所ノミヲ解釋スベシ
(注意) 答案ハ問題毎ニ毛筆ニテ別紙ニ解釋ス

第三十回

一 普通文
旅行

作文

二復文

第三十回

イ 子貢問ヒテ曰ク一言ニシテ以テ身ヲ終フル
マデコレヲ行フビキモノアルカ子曰クソレ恕
カ己レノ欲セザルトコロハ人ニ施スナカレ

(論語衛靈公) (原文二十九字)

ロ 才ノ難キニアラズ自ラ用フル所以ノモノ實
ニ難シ惜イカナ買生ハ王者ノ佐ニシテ自ラソ
ノ才ヲ用フル能ハザルヤ(唐宋八大家文蘇軾
賈誼論)(原文二十七字)

(注意) 設問作文ヲ通ジテ四時間トス

答案ハ問題毎ニ毛筆ニテ別紙ニ認ムベシ

(一) 讀方

自瑤黃以來三公如楊秉劉寵皆人望寵管守會稽郡大治被
徵有五老叟自山谷間出入資百錢送之曰明府下車以來
狗不夜吠民不見吏今聞當見棄去故自扶奉送寵曰吾政何
能及公言邪勤苦父老爲人選一大錢受之後入爲司空秉立
朝正直爲河南尹時嘗以忤宦官得罪後爲太尉以卒

(十八史略東漢孝桓紀)

(注意) 本紙ニ毛筆ニテ句讀返點送假名ヲ施ス
ベシ

國語ノ解釋ト通ジテ四時間トス

(二) 讀方及解釋

六月廿六日愈白李生足下生之書辭甚高而其問何下而恭
也能如是誰不欲告生以其道德之歸也有日矣况其外之
文乎抑愈所謂望孔子之門牆而不入於其宮者焉足以如是
且非邪雖然不可不爲生言之生所謂立言者是也生所爲者
與所期者似而幾矣不知生之主蕪勝於人而取於人邪將蕪
至於古之立言者邪蕪勝於人而取於人則固勝於人而可取
於人矣將蕪至於古之立言者則無望其速成無誘於勢利養
其根而竣其實加其膏而希其光根之茂者其實遂膏之沃者
其光暉仁義之人其言藹如也(唐宋八大家文韓愈答李翊書)

(注意) 本紙ニ毛筆ニテ句讀返點送假名ヲ施シ
傍線アル所ノミヲ別紙ニ解釋スベシ

國語ノ解釋ト通ジテ四時間トス

(三) 讀方及解釋

公都子問曰鈞是人也或爲大人或爲小人何也孟子曰從其
大體爲大人從其小體爲小人曰鈞是人也或從其大體或從
其小體何也曰耳目之官不思而蔽於物物交物則引之而已
矣心之官則思思則得之不思則不得也此天之所與我者先
立乎其大者則其小者不能奪也此爲大人而已矣

(孟子告子上)

漢將承恩西戎捷書先奏未央宮天子預開麟閣待祗今誰數
貳師功(唐詩選)

封大夫破播仙凱歌

岑參

(注意) 本紙ニ毛筆ニテ句讀返點送假名ヲ施シ

別紙ニ解釋スベシ

國語ノ解釋ト通ジテ四時間トス

(四) 讀方及解釋

和漢混淆文 擬古文 俳文 狂文
右ノ發句ノ修辭上ノ技巧ヲ説明セヨ
舟トナリ帆トナル風ノ芭蕉カナ
木枯ニ二日ノ月ノ吹キ散ルカ
行ク秋ヤ手ヲ廣ゲタル栗ノイガ
左ノ文ヲ文章法上ヨリ解剖セヨ
上モ御涙ノ隙ナク流レオハシマス

(注意) 本紙ニ毛筆ニテ句讀返點送假名ヲ施シ
別紙ニ解釋スベシ

國語ノ解釋ト通ジテ四時間トス

本試 驗

設問

(一) 徳川時代ニ於ケル左ノ各種ノ文章ノ性質ヲ述ベ

(二) 和漢混淆文 擬古文 俳文 狂文
右ノ發句ノ修辭上ノ技巧ヲ説明セヨ

(三) 左ノ文ヲ文章法上ヨリ解剖セヨ
上モ御涙ノ隙ナク流レオハシマス

第三十回

優ナリト覺ユバカリスグレタルト取ル方ナク口

惜シキキハトハ數ヒトシクコソ侍ラメ

(四) 左ノ事項ヲ説明セヨ

孟子ノ四端說

詩ノ古體ト近體トノ別

(五) 左ノ事項ニ就キ知レル所ヲ記セ

陸象山ノ學說ノ梗概

伊藤東涯ノ著書

作文

(一) 普通文

秋ノ田舎

(二) 國文漢譯

本年十一月三日立太子式ヲ行ハセラルルニ付キ當日
各學校ニ於テハ職員生徒兒童ヲ參集セシメテ君ガ代
ヲ合唱シ 天皇陛下 皇后陛下 皇太子殿下ノ御眞
影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行ハシメ學校長ハ教育ニ關ス
ル勅語ヲ奉讀シ立太子ノ禮ニ關スル訓話ヲ爲スベシ
(文部大臣訓示ノ概要)

(注意) 設問及ビ作文ヲ通ジテ四時間トス但シ
國語若クハ漢文ノ教員免許狀又ハ證明
書ヲ有スル者ニ在リテハ二時三十分間

第三十回

ヲ限ル

答案ハ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

國語ノ教員免許狀又ハ證明書ヲ有スル者ハ設問ノ(一)(二)(三)及作文ノ(一)ニ、漢文ノ教員免許狀又ハ證明書ヲ有スル者ハ設問ノ(四)(五)及作文ノ(一)(二)ニ答フルヲ要セズ

解 釋

(一) 五日ノアシタ宮ヅカサ車ノコトイヒテ北ノ陣ヨリサミダレハトガメナキモノゾトテサシヨセテ四人バカリゾ乘リテ行クウラヤマシガリテ今一ツシテオナジクハナドイヘバイナトオホセラルレバ聞キモイレズナサケナキサマニテ行クニウマバトイフ所ニテ人多クサワグ何事スルゾト問ヘバテツガヒニテマユミ射ルナリシバシ御ランジテオハシマセトテ車トハメタリ左近ノ中將皆ツキ給ヘルトイヘドサル人モ見エズ六位ナドノタチサマヨヘバユカシカラヌ事ゾハヤク過ギヨトテユキモテユケバ道モ祭ノコロ思ヒ出デラレテヲカシ(枕草子)

ルウラミモキコエズサレ石ノイハホトナルヨロコビノミゾアルベキ臣等詞ハ春ノ花匂スクナクシテ空ツキ名ノミ秋ノ夜ノ長キヲカコテレバカツハ人ノ耳ニオソリカツハ歌ノ心ニハデ思ヘドタナビク雲ノタチキ鳴ク鹿ノオキフシハ貫之ヲガコノ世ニオナジク生レテコノ事ノ時ニアヘルヲナンヨロコビヌル

(古今和歌集序)

(注意) 漢文ノ讀方及ビ解釋ト通ジテ四時間ト

ス但シ國語若クハ漢文ノ教員免許狀又ハ證明書ヲ有スル者ニ在リテハ二時三十分ヲ限ル

答案ハ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

一 讀方及解釋

孟僖子病不能相禮乃講學之苟能禮者從之及其將死也召其大夫曰禮人之幹也無禮無以立吾聞將有達者曰孔丘聖人之後也而滅於宋其祖弗父何以有宋而授厲公及正考父佐載武宣三命茲益共故其鼎銘云一命而僂再命而偃三命而俯循牆而走亦莫余敢侮釁於是鬻於是是以嗣余口其共也如是滅孫紇有言曰聖人有明德者若不當世其後必有達人今其將在孔丘乎(左傳昭公七年)

(注意) 本紙ニ句讀返點送假名ヲ施シ別紙ニ解

報功之至意此令(黎中華民國大總統申令)

(注意) 本紙ニ句讀返點送假名ヲ施スベシ

國語ノ解釋ト通ジテ四時間トス但シ國語若クハ漢文ノ教員免許狀又ハ證明書ヲ有スル者ニ在リテハ二時三十分間ヲ限ル

口頭試驗

第一日施行

自六經焚於秦而復出於漢其師傳之道中絕而簡編脫亂訛缺學者莫得其本真於是諸章句之學興焉其後傳注箋解義疏之流轉相講述而聖道益明然其為說固已不勝其繁矣至於上言三皇五帝以來世次國家興滅終始僭竊偽亂史官備矣而傳記小說外暨方言地理職官氏族皆出於史官之流也(歐陽修唐書藝文志序)

ナリノボレドモモトヨリサルベキスデナラヌハ世ノ人ノ思ヘルコトモサハイヘドナホ異ナリマタモトハヤ

ゴトナキスデナレド世ニフルタツキスクナク時世ウツロヒテオボエ衰ヘヌレバ心ハ心トシテ事足ラズワロビタルコトモ出デ來ルワザナンメレバトリノニコトワリテ中ノ品ニゾオクベキ受領ト言ヒテ他ノ國ノ事ニカ

釋スベシ 國語ノ解釋ト通ジテ四時間トス但シ國語若クハ漢文ノ教員免許狀又ハ證明書ヲ有スル者ニ在リテハ二時三十分間ヲ限ル

二 讀 方

大抵名器爵祿人所奔趨必使積勞而後遷以明持久而難得則人各安其分不敢躁求今若多開驟進之門使有意外之得公卿侍從跬步可圖其得者既不肯以僥倖自名則不得者必皆以沈淪為恨使天下常調舉生妄心恥不若人何所不至欲望風俗之厚豈可得哉(唐宋八大家文粹上神宗皇帝書)

(注意) 本紙ニ句讀返點送假名ヲ施スベシ

國語ノ解釋ト通ジテ四時間トス但シ國語若クハ漢文ノ教員免許狀又ハ證明書ヲ有スル者ニ在リテハ二時三十分間ヲ限ル

三 讀 方

民國肇興由於辛亥之役前大總統贊成共和奠定大局苦心擘畫昕夕勤勞天下不假年邁疾長逝追憶首續薄海同悲本大總統患難周旋尤深愴痛所有喪葬典禮應由國務院轉飾辦理人員參酌中外典章詳加擬議務極優隆用符國家崇德

第三十回

第三十回

オモヒ申シ、ホドニ院ウセサセ給ヒテノチ二年バカリカヅラヒイトナミテ品定リタル中ニモマタキザミキザアリテイカバオボシメシケン宮タチトマヲシシヲリヨミ有テ中ノ品ノケシウハアラヌエリイデツベキ頃ホヒロヅニアソビナラハセ給ヒテウルハシキ御アリサマイナリナマノ上達部ヨリモ非參議ノ三四位ドモノ世トクルシクイカデカカラデモアラバヤトオボシナラレノオボエ口惜シカラズモトノ根ザシ賤シカラヌガ安ラテ皇后宮ニカクナンオボエ侍ルト申サセ給フヲイカデカニ身ヲモテナシフルマヒタルイトカハラカナリヤ家カハゲニサモトハオボサンズルステアサマシクアルノ内ニ足ラヌコトナドハタナカンメルママニハブカズマジキコト、ノミイサメ申サセ給フニオボシアマリテマバユキマデモテカシヅケル女ナドノ貶シメ難クオビ入道殿ニ御消息アリケレバマキラセ給ヘルニ御物ガタ出ヅルモ數多アルベシ宮仕ニ出デ立チテ思ヒガケヌ幸リコマヤカニテ此ノ位サリテタマハ心ヤスクテアラントトリ出ヅル例ドモ多カリカシ(源氏物語卷本ノ卷一節)

ナン思ヒ侍ルト聞エサセケレバアラニウケタマハラジサハ三條院ノ御スエハタエネトオボシメシオキテサセ給フガイトアサマシクカナシキ御事ナリカ、ル御心ノツカセ給フハコト事ナラジタマハ冷泉院ノ御モノノケナドノオモハセタマツルナリサラノオボシメシソト啓シタマフニサラバタマハ本意モアリ出家ニコソハアンナレトノタマハスルニサマデオボシメス事ナラバイカバハトモカクモ申サン内ニ奏シ侍リテヲト申サセ給フヲリニゾ御氣色イトヨクナラセ給ヒニケル(大鏡卷ノ三節尹ノ一節)

第三日施行

古之王者世有史官君舉必書所以慎言行昭法式也左史記

第二日施行

昔秦燔經籍而獨存醫藥卜筮種樹之書學者抱恨終古然以今考之易與春秋二經首未具存詩亡其六篇或以爲笙詩元無其辭是詩亦未嘗亡也禮本無成書載記雜出漢儒所編儀禮十七篇及六典最晚出六典僅亡冬官然其書純駁相半其存亡未足爲經之疵也獨虞夏商周之書亡其四十六篇耳然則秦所燔除書之外俱未嘗亡也(文獻通考經籍考序)

コノ宮ノ御ハラノ一ノミコ敦明親王トテ式部卿ノ宮トゾ申シ、程ニ長和五年正月二十九日三條院オリサセ給ヘバタウダイ位ニツカセ給ヒテコノ式部卿ノ宮東宮ニタ、セ給ヒニキ御年二十三タマシ道理アルコト、皆人

第三十回

言古史記事爲春秋言爲尙書帝王靡不同之周室既微載籍殘缺仲尼思存前聖之業以魯周公之國禮文備物史官有法故與左邱明觀其史記據行事有所褒諱貶損不可書見口授弟子弟子退而異言邱明恐弟子各安其意以失其真故論本事而作傳明夫子不以空言說經也(經史百家抄)

ウチフシ給ヘルニ僧都ノ御弟子惟光ヲ呼ビ出デサス程ナキ所ナレバ君モヤガテ聞キ給フヨギリオハシマシケル由唯今ナム人申スニ驚キナガラ侍フベキヲナニガシ此寺ニコモリ侍ルトハシロシメシナガラシノビサセ給ヘルヲウレハシク思ヒ給ヘテナム草ノ御ムシロモ此坊ニコソ設ケ侍ルベケレイトホイナキ事ト申シ給ヘリイヌル十日餘リノ程ヨリワラハヤミニワツラヒ侍ルヲ度重ナリテ堪ヘ難ウ侍レバ人ノ教ヘノマ、ニ俄ニ尋ネ入リ侍リツレドカヤウナル人ノシルシアラハサヌ時ハシタナカルベキモ唯ナルヨリハイトホシウ思ヒ給ヘツ、ミテナムイタウシノビ侍リツル今ソナタニモトノタマヘリスナハチ僧都參リ給ヘリ法師ナレドイト心耻カシク人カラモヤムゴトナク世ニ思ハレ給ヘル人ナレバ輕々シキ御有様ヲハシタナウオモホスカク籠レル程ノ御物語ナド聞エ給ヒテ同ジ柴ノイホリナレド少シ涼シキ

第三十一回 (大正六年)

豫備試驗

設 文

- (一) 韻文の價值を判斷すべき標準に就きて述べよ。
- (二) 議論文と説明文との區別及其の關係を述べよ。
- (三) 左の文中の動詞助動詞を摘出して其の活用を示せ
栗田殿の「いかにおぼしめしならせおはしましぬるぞ只今過ぎさせ給はばおのづから障りもいでまうできなむ」とそらなきし給へしはこの時ぞかし。
- (四) 左の文に誤あらば之を正し且其の理由を略記せよ
孔子周に行き禮を老子に問ふて大いに得る所ありしと云ふ。
- (五) 儒教に於ける義利の辨につき意見を述べよ。

第三十一回

六、桐城派の主要なる人名を挙げよ。

作文

(一) 普通文。

わが母校。

(二) 復文。

イ、子貢曰く我れ人のこれを我れに加ふるを欲せざるなり吾れもまたこれに人に加ふるなからんことを欲す子曰く賜や爾の及ぶところにあらざるなり(原文二十八字)

ロ、欲するところ生より甚しきものあり惡むところ死より甚しきものあり獨り賢者この心あるのみにあらざるなり人皆これあり賢者よく喪ふなきのみ(原文三十二字)

(注意) 設問作文を通じて四時間とす。

答案は問題毎に別紙に認むべし。

解釋

(一) 延喜の世間の作法したゝめさせ給ひしかど過差をばえしづめさせ給はざりしにこの殿制を破りたる御装束の殊の外にめでたきをして内に參り給ひて殿上さぶらひ給ふをみかど小菰より御覽じて御けしきい

とあしくならせ給ひて職事をめして世間の過差の制きびしきころ左のおどゞの一人といひながら美麗ことの外にたまはれる便なきことなりはやくまかり出づべき由おほせよとおほせられればうけたまはる職事はいかなる事にかと恐れ思ひけれど參りてわななくくしかんの事と申しければいみじくおどろきかしこまりうけたまはりて御隨身のみさきまゐるも制し給ひていそぎまかり出で給へば御前ども、はやしと思ひけり (大鏡)

(二) 昔は朝敵を平げんとて外土へ向ふ將軍は先づ參内して節刀を賜はる宸儀南殿に出御して近衛階下に陣を布き内辨外辨の公卿參列して中儀の節會を行はる大將軍副將軍各禮儀を正しうして之をたまはる承平天慶の蹤跡も年久しうなつて准へ難しとて今度は讃岐守正盛が前對馬守源義親追討の爲に出雲國へ下向せし例とて鈴ばかり賜つて革の袋に入れて雑色の首

子張問行子曰言忠信行篤敬雖蠻貊之邦行矣言不忠信行

一、讀方及解釋

漢文の讀方及解釋を通じて四時間とす

線の句を解釋すべし。

國語の解釋を通じて四時間とす。

四、讀方及解釋

罷相作 李適之

避賢初罷相樂聖且銜杯爲問門前客今朝幾箇來

少年行 王維

出身仕漢羽林郎初隨驃騎戰漁陽執知不向邊庭苦縱死猶

聞俠骨香。(唐詩選)

(注意) 本紙に句讀返點送假名を施し別紙に解釋すべし。

國語の解釋を通じて四時間とす。

本試 驗

設問 國語の解釋を通じて四時間とす。

三、讀方及解釋

公相人也世有令德爲時名卿自公少時己擢高科登顯仕海

內之士聞下風而望餘光者蓋亦有年矣所謂將相而富貴皆

公所宣素有非如窮阮之人僥倖得志於一時出於庸夫愚婦

之不意以驚駭而夸耀之也然則高牙大纛不足爲公榮桓圭

袞裳不足爲公貴惟德被生民而功施社稷勒之金石播之聲

詩以耀後世而垂無窮此公之志而士以此望於公也豈止夸

一時榮一鄉哉。(歐陽修 韓魏公畫錦堂記)

(注意) 本紙に句讀返點送假名を施し別紙に傍

第三十一回

不篤敬雖州里行乎哉立則見其參於前也在與則見其倚於

(論語)

(注意) 本紙に句讀返點送假名を施し別紙に解釋すべし。

國語の解釋を通じて四時間とす。

二、讀方及解釋

孟子曰君子之所以教者五有如時雨化之者有成德者有達

財者(財與材同)有答問者有私淑艾者此五者君子之所以

教也。(孟子)

(注意) 本紙に句讀返點送假名を施し別紙に解釋すべし。

國語の解釋を通じて四時間とす。

三、讀方及解釋

公相人也世有令德爲時名卿自公少時己擢高科登顯仕海

內之士聞下風而望餘光者蓋亦有年矣所謂將相而富貴皆

公所宣素有非如窮阮之人僥倖得志於一時出於庸夫愚婦

之不意以驚駭而夸耀之也然則高牙大纛不足爲公榮桓圭

袞裳不足爲公貴惟德被生民而功施社稷勒之金石播之聲

詩以耀後世而垂無窮此公之志而士以此望於公也豈止夸

一時榮一鄉哉。(歐陽修 韓魏公畫錦堂記)

(注意) 本紙に句讀返點送假名を施し別紙に傍

第三十一回

う愛敬づきたるいみじう心あくがれせんかたなし。
(四) 格物致知の意義を問ふ。
(五) 白樂天に就きて知れる所を記せ。

作 文

(一) 普通文

わが友

(二) 漢文(字數は百字内外とす)

光陰可惜

(注意)

一、設問及作文を通じて四時間とす但し國語の教員免許狀又は證明書を有する者は設問の(一)(二)(三)及作文の(一)に漢文の教員免許狀又は證明書を有する者は設問の(四)(五)及作文の(二)に答ふるを要せず而して時間は何れも二時三十分間を限る。
二、答案は問題毎に別紙に認むべし。

第二日施行

(注意)

一、國語・漢文を通じて四時間を限る二國語の教員免許狀又は證明書を有する者は國語の各問に、漢文の教員免許狀又は證明書を有する者は漢文の

各問に答ふるを要せず。
三、前項に該當する者は二時三十分間を限る。

國語

解 釋

(一) つれづれなるまゝにいろ／＼の紙をつぎつゝ手ならひをし給ふめづらしきさまなる唐の綾などにさま／＼の繪どもをかきすさび給へる屏風のおもてどもなどいとめでたく見所あり人々の語り聞えし海山の有様をはるかにおぼしやりしを御目に近くてはげに及ばぬ磯のたゞすまひになくかき集め給へり此頃の上手にすめる千枝常則など召して作り繪をつかうまつらせばやと心もとながりあへりなつかしうめでたき御有様に世の物思ひ忘れて近うなれ仕うまつるをうれしきことにて四五人ばかりぞつとさぶらひける前栽の花色々咲きみだれおもしろき夕暮に海見やらるゝ廊に出で給ひてたゞすみ給ふ御さまのゆゑしうきよなる事所がらはまして此の世のものとも見え給はず。(源氏物語、須磨)
(二) をす國のみかどに改等がかくまかりなば平らけ

くわれは遊ばむたむだきてわれはいまさすむめらわがうづの御手もてかき撫でそねぎ給ふうち撫でぞれぎ給ふかへらむ日相飲まむ酒ぞこの豊御酒は。
丈夫のゆくとも道ぞおほろかに思ひて行くを丈夫の伴。
(右萬葉集、聖武天皇賜酒節度使等御歌)
(注意) 答案は問題毎に別紙に認むべし。

漢文

(一) 讀方解釋

在下位不獲乎上民不可得而治矣獲乎上有道不信乎朋友不獲乎上矣信乎朋友有道不順乎親不信乎朋友矣順乎親有道反諸身不誠不順乎親矣誠身有道不明乎善不誠乎身矣。(中庸)

(注意)

本紙に句讀返點送假名を施し傍線を施せる句を別紙に解釋すべし。

(二) 讀方解釋

子玉怒從晉師晉師退軍吏曰以君避臣辱也且楚師老矣何故退子犯日師直爲壯曲爲老豈在久乎微楚之惠不及此退三舍避之所以報也背惠食言以亢其驕我曲楚直其衆素飽不可謂老我退而楚還我將何求若其不還君退臣犯曲在彼矣退三舍楚衆欲止子玉不可。(左傳僖公二十八年)

第三十二回

(注意) 本紙に句讀返點送假名を施し別紙に解釋すべし。

(三) 讀方解釋

周公曰冬日之閉凍也不固則春夏之長草木也不茂天地不能常修常費而況於人乎故萬物必有盛衰萬事必有弛張國家必有文武官治必有賞罰是以智士儉用其財則家富聖人愛寶其神則精盛人君重戰其卒則民衆民衆則國廣是以舉之曰儉故能廣。(韓非子解老)

(注意)

本紙に句讀返點送假名を施し傍線を施せる句を別紙に解釋すべし。

(四) 讀方

中國以君主立國越四千年而三綱五常乃君主立國之本蓋積家爲國造端倫常天倫有兄弟而序其長幼必先繫子於父人倫有朋友而析及男女必別繫婦於夫納五常於三綱之中即以君綱揭其領大綱既振小綱皆舉斯亂萌無自而生。(支那內閣官報)

(注意)

本紙に句讀返點送假名を施すべし。

第三十二回 (大正七年)

豫備試驗

設問

第三十二回

一、徒然草の所説に矛盾ありと云ふは如何なる點なるか、又其の矛盾は如何に之を解釋すべきか

(注意) 設問、作文を通じて四時間を限る。答案は問題毎に別紙に認むべし

二、左の語に就きて説明せよ
縁語 切字 黄表紙 合卷
平面描寫 印象 批評

國語解釋

三、左の助動詞及助詞の種々の用法を例を擧げて説明せよ
ぬ まし らる
しか(欲望) な(禁止)

一、能をつかむとする人よくせざらむほどはなまじひに人に知られじうちうちよくならひえてさし出でたらむこそいと心にくからめと常にいふめれどかくいふ人一藝も習ひ得ることなしはまだ堅固かたはなるより上手の中にまじりてそしり笑はるるにも恥ぢずつれなくすぎたしなむ入天性その骨なけれども道になづますみだりにせずして年をおくれば堪能のたしなまざるよりはつひに上手の位にいたし徳たけ人にゆるされてさうなき名を得ることなり天下のものの上手といへども始めは不堪のきこえもありむげの瑕瑾もありきされどもその人道のおきて正しくこれを重くして放埒せざれば世の博士にて萬人の師となる事諸道かはるべからず(徒然草)

四、王陽明の良知説に就きて知れる所を記せ
五、青苗法を略説せよ
一、普通文(文語體)
體 育
二、復 文
イ、子曰ク人ノ己ヲ知ラザルヲ患ヘズ人ヲ知ラザルヲ患フルナリ(原文十四字)(論語)
ロ、智識特達度量人ニ過グルニアラザルヨリハ未ダ能ク奮發ノ中ニ勇ミ己ヲ舍テテ人ニ從ヒ惟ダ義ニ是レ聽クモノアラザルナリ(原文二十九字)(蘇軾代張方平諫用兵書)

二、こよろぎの礎立ならしいそ菜つむ
めざしぬらすな沖にをれ波
甲妻がねをさやにも見しがけけれなく
よこほりふせるさやのなかな山
(古今和歌集)

涼しさは秋やかへりてはつせがは
ふる河のべの杉の下かけ
(新古今和歌集)

通じて四時間を限る

(注意) 國語解釋、漢文讀方及解釋を通じて四時間を限る。答案は問題毎に別紙に認むべし

(一)漢文讀方及解釋

甲、庸德之行庸言之謹有所不足不敢不勉有餘不敢盡言
顧行行願言君子胡不慥慥爾(中庸)

知者創物能者述焉非一人成也君子之於學百工之於技自三代歷漢至唐而備矣故詩至於杜子美文至於韓退之書至於顏魯公書至於吳道子而古今之變天下之能事畢矣「道子畫人物如以燈取影逆來順往傍見側出橫邪平直各相乘除得自然之數不差毫末出新意於法度之中寄妙理於豪放之外所謂游刃 地運斤成風蓋古今一人而已」
(蘇軾 書吳道子畫後)

乙、君子之所不可及者其唯人之所不見乎詩云相在爾室
尙不愧於屋漏(中庸)

(注意) 本紙に句讀返點送假名を施し括弧内の句を別紙に解釋すべし國語解釋漢文讀方及解釋を通じて四時間を限る

(注意) 本紙に句讀返點送假名を施し別紙に解釋すべし國語解釋、漢文讀方及解釋を通じて四時間を限る

(四)漢文讀方及解釋

銀燭朝天紫長禁城春色曉蒼蒼千條弱柳垂青瑣百轉流鶯
遠建章劍佩聲隨玉墀步衣冠身惹御爐香共沐恩波鳳池上
朝朝染翰侍君王(賈至 早朝大明宮呈兩省僚友)

(二)漢文讀方及解釋

公孫丑曰道則高矣美矣宜若天然似不可及也何不使彼爲可幾及而日孳孳也孟子曰大匠不爲拙工改廢繩墨羿不爲拙射變其彀率君子引而不發躍如也中道而立能者從之
(孟子)

(注意) 本紙に句讀返點送假名を施し別紙に解釋すべし國語解釋、漢文讀方及解釋を通じて四時間を限る

(注意) 本紙に句讀返點送假名を施し別紙に解釋すべし國語解釋、漢文讀方及解釋を通じて四時間を限る

(注意) 一、設問及作文を通じて四時間とす、

第三十二回

但し國語の教員免許狀又は證明書を有する者は設問の(一)(二)(三)及作文の、(一)に漢文の教員免許狀又は證明書を有する者は設問の(四)(五)及作文の(二)に答ふるを要せず其の時間は何れも二時三十分を限る

我が家
漢文(字數二百字以内)
養氣説

國語解釋

(注意)

- 一、尊皇精神を内容とせる我が國の文學に就いて知れる所を記せ
- 二、叙事詩叙情詩劇詩の區別並に其の關係を説明せよ
- 三、左の文を文章法上より解剖せよ

設問
二、答案は問題毎に別紙に認むべし

- 一、國語漢文を通じて四時間を限る
- 二、國語の教員免許狀又は證明書を有する者は國語の各問に、漢文の教員免許狀又は證明書を有する者は漢文の各問に答ふるを要せず
- 三、前項に該當する者は二時三十分を限る

乳母のうまの命婦「翁九いづら命婦のおもと來すばくへ」と云ふにまことかとしてしれもの走りかゝりたればおびえまどひて御簾のうちに入りぬ

四、左の語の意義を問ふ

居敬窮理

五、楚辭に就いて知れる所を記せ

作文

一、普通文(文語體)

- 一、大國主神答へまつらくあが子ども二神の白せるまに、あれも達はじこの葦原の中つ國は命のまにまに既に獻らむ唯あがすみかをば天つ神の御子の天津日繼しろしめさむとだる天の御巢なして底津石根に宮柱太知り高天の原に氷木高知りて治め給はばあは百足らず八十隈手に隠りて侍ひなむまたあが子ども百八十神は八重事代主神の御尾前となりて仕へまつらば違ふ神はあらじ(古事記)
- 二、こころもとなきもの

遠き所より思ふ人の文をえてかたくふんじたるそく

ひなどはなちあくる心もとなし(中略)とみの物ぬふにくらき折はりに糸つくるされどわれはさるものにてありぬべき所をとらへて人につけさるにそれはいそげばにやあらむとみにもえさしいれぬをいで唯なすげそといへどさすがになどてかはと思ひがほにえさらぬはにくささへそひぬ何事にもあれいそぎて物へゆくをりまづわがさるべき所へゆくとて只今おこせんとて出でぬる車まつほどこそ心もとなけれおほちいきけるをさなりけるとよろこびたれば外さまにいぬるいとくちをしまして物見にいでもとてあるに事はなりぬらむなどいふをさくこそわびしけれ

(枕草子)

(注意) 答案は問題毎に別紙に認むべし

漢文(一)

讀方及解釋

小人間居爲不善無所不至見君子而后厭然揜其不善而善著其善人之視己加見其肺肝然則何益矣此謂誠於中形於外故君子必慎其獨也(大學)

(注意) 本紙に句讀返點送假名を施し別紙に解釋すべし

漢文(二)

第三十二回

新築人仲叔于奚救孫桓子桓子是以免既術人賞之以邑辭請曲縣繁纓以朝許之仲尼聞之曰「惜也不如多與之邑唯器與名不可以假人君之所司也名以出信信以守器器以藏禮禮以行義義以生利利以平民政之大節也若以假與人政也亡則國家從之弗可止也已」(左傳成公二年)

(注意)

本紙に句讀返點送假名を施し括弧内の文を別紙に解釋すべし

漢文(三)

讀方及解釋

智術之士必遠見而明察不能燭私能法之士必強毅而勁直不勁直不能矯姦人臣循令而從事案法而治官非謂重人也重人也者無令而擅爲虧法以利私耗國以便家力能得其君此所謂重人也「智術之士明察聽用且燭重人之陰情能法之士勁直聽用且矯重人之姦行故智術能法之士用則貴重之臣必在繩之外矣是智法之士與當塗之人不可兩存之仇也」(韓非子孤憤)

(注意)

本紙に句讀返點送假名を施し括弧内の文を別紙に解釋すべし

漢文(四)

讀方

國會成立國璋會以統一和平之心理望於榮膺大選之人通電布告在案茲准大總統選舉會來咨徐公世昌以四百二十五票之多數當選大總統元良有屬遐邇騰歡徐公德量淵涵軍界同袍皆其後進飽經世變匡濟時艱其渴望和平較國璋尤爲切至將來實行統一造福蒼生否極泰來時機已至國璋得免罪戾幸釋仔肩公誼私情尤爲慶（支那大總統馮國璋致各省督軍省長等電文節錄）

（注意）本紙に句讀返點送假名を施すべし（口述之部）

第一日

花園左大臣家に始めて参りたりける侍の名簿のはしがきに能は歌よみと書きたりけりおとど秋のはじめに南殿に出でてはたおりのなくを受しておはしましけるに暮れければ下格子に人まゐれと仰せられけるに藏人五位たがひて人も候はぬと申して此侍参りたるにたださらば汝おろせと仰せられければ参りたるに汝は歌讀なとありければかしこまりて御格子おろしして候ふに此はたおりをばさくや一首つかうまつれと仰せられければあをやぎのとはじめの句を申出したるをさぶらひける女房達折にあはずと思ひたりげにて笑ひ出したりければ物を聞きはてずして笑ふやうやあると仰せられ

第二日

ころは彌生の半にもありけむ庭の櫻もやう／＼さかりなるに鶯さへ友をもとむる聲に打啼きて渡るめれば今日こすばあすは雪とぞとひとりごちて人待がほなる折しも豊然たる音して五六輩折つれて問來りぬあるも共の花のもとにまとゐしてなむ數獻に及びてかたりくらしつる中にひとりのまらうと春の花ばかりめでたき物はあらし花紅葉といへど紅葉は花なき時に見ればこそあれ花には及びがたしといへば又ひとり紅葉もさのみいひたく注ぐからげ秋ざりの晴間に千林萬壑さなが

ら錦をささす如くたるは春の山も忘れつべし今花にむかひてかくいふは義山が殺風景の譏もあるべけれど我は紅葉に心をよするといふに又ひとり山有木工則度之寶有禮止則擇之とあれば所詮主の心にまかすべしといふ

楠正成之用兵決機制勝髣髴孫吳而忠勇壯烈殆與唐張巡相似也巡出雍丘守陽睢正成去赤阪據干劍破皆嬰孤塘鯁賊喉牙韓愈所謂以千百就盡之卒戰百萬日滋之師者也以寡擊衆出奇無窮至如藁人誘敵其緒餘耳巡城陷而死正成奉迎變輿

推獎斯則爲異而廟謨不臧元兇接踵主驕臣諛不用老成持重之計自壞萬里長城以成強敵之勢中中興興業自此去矣可勝歎哉（楠正成論贊）

第三日

西行いみじくかしこまりて（中略）いにしへの代々の帝は馬は鞍おき弓矢みとらして軍にたせ給ひし其おほん歌をよみ見奉ればたけく直々しくしらべもいと高しとこそ打聞き侍れいでや歌よまんとてはますらを心をとりにかくしあてになよひかにのみよみつすべくするこそ此道のいみじき煩ひなれ君がさとくたけき御心の

第三十三回（大正八年）

豫備試験

設問

一、左の文を品詞上より解剖せよ（用言には活用及法（形段）をも記せ）

かくあやなき業の出で來ぬるはこの世一つの事に
もあらざらめども迷のおろかなる前にはなほいと
あやしかし

二、口語の主格助詞がの別及動詞あるをるの別を舉
げて説明せよ

三、左の修辭學上の名稱を例を舉げて説明せよ

隱喻 調和 擬人 漸層

四、孟子の知言養氣説を略述せよ

五、物徂徠の文學に就きて知れる所を記せ

作 文

一、口語文

わが郷の秋

二、復文

一、勇者は必ずしも仁あらず(六字)

二、堯舜の道にあらざれば敢へて以て王の前に陳べ
ず(十二字)

三、人に治めらるるものは人を食ひ人を治むるもの
は人に食はる(十二字)

(注意) 一、設問、作文を通じて四時間を限る

二、答案は問題毎に用紙を別にすべし

▲國語解釋

一、帝(後醍醐天皇)はかの島(隱岐)におはしましつき

の昔の御跡はそれとばかりのしるしだになく人のす
みかもまれにおのづから海人の鹽やく里ばかりはる
かにていとあはれなるを御覽するにも御身の上はさ
しおかれて先づかの古の事おぼし出づかかる所に世
をつくし給ひけむ御心の中いかばかりなりけむとあ
はれに辱くおほさるるにも今はた更にかくさすらへ
ぬるも何により思ひ立ちし事ぞかの御心のするや果
たし遂ぐると思ひしゆゑなり昔の下にもあはれとお
ぼさるらむかしとよろづにかきあつめつきせすなむ
(増鏡)

二、イ、吉野山やがて出でじと思ふ身を

花ちりなどと人やまつらむ。

ロ、川舟ののぼりわづらふ綱手繩

くるしくてのみ世を渡るかな。

ハ、年たげてまたこゆべしと思ひきや

命なりけり小夜の中山。

(注意) 一、漢文の讀方及解釋と通じて四時間

を限る

二、答案は問題毎に別紙に解釋すべし

(一)漢文讀方及解釋

解釋すべし

(四)漢文讀方

王且居位十一年當李沆爲相時且甫參政沆喜讀論語嘗曰
爲宰相如論語中節用而愛人使民以時兩句尙不能行聖人
之言終身誦之可也沆日取四方水旱盜賊奏之且謂細事不
足煩上職沆曰人生少年當使知人間疾苦不然血氣方剛不
留意聲色犬馬則土木甲兵禱祠之事作矣吾老不及見此參
政他日之憂也及太中祥符封禪祠祀土木並興且乃歎曰李
文靖眞聖人也(十八史略)

本 試 驗

注意 一、設問及び作文を通じて四時間とす、

但し國語の教員免許狀又は證明書を有

する者は設問の(一)(二)(三)及作文の

(二)に、漢文の教員免許狀又は證明書

を有する者は設問の(四)(五)及作文の

(二)に答ふるを要せず、其の時間は何

れも二時三十分を限る

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

設 問

一、源氏物語と枕草子とに就て比較評論せよ

二、京傳と馬琴とに就きて記せ

子貢曰如有博施於民而能濟衆何如可謂仁乎子曰何事於
仁必也聖乎堯舜其猶病諸夫仁者己欲立而立人己欲達而
達人能近取譬可謂仁之方也已(論語)

注意 一、國語の解釋と通じて四時間を限る

二、本紙に句讀返點送假名を施し別紙に

解釋すべし

(二)漢文讀方及解釋

木在山馬在肆過之而不顧者雖日累千萬人未爲不材與下
乘也及至匠石過之而不睨伯樂遇之而不顧然後知其非棟
梁之材超逸之足也以某在公之字下非一日而又辱居姻姬
之後是生于匠石之園長于伯樂之厩者也於是而不得知假
有見知者千萬人何足亦云耳(古文眞寶 韓愈 爲人求
薦書)

注意 一、國語の解釋と通じて四時間を限る

二、本紙に句讀返點送假名を施し別紙に

解釋すべし

(三)漢文讀方及解釋

朔雪瓢瓢開雁門平沙歷亂捲蓬根功名恥計擒主數直斬樓
蘭報國恩(唐詩選 張仲素 塞下曲)

注意 一、國語の解釋と通じて四時間を限る

二、本紙に句讀返點送假名を施し別紙に

第三十三回

三、左の文を文章法上より解釋せよ
なき跡まで人の胸あくまじかりける人の御おぼえ
かなとぞ弘徽殿などには猶ゆるしなうのたまひけ
る

四、左の語の意義を問ふ
博文約禮

五、文選に就きて知れる所を記せ
作 文

一、普通文(文語文)
講和大使を迎ふ

二、漢文(字數二百字以内)
力行説

注意 一、國語漢文を通じて四時間とす但し國語教員免許狀又は證明書を有する者は國語の各問に、漢文の教員免許狀又は證明書を有する者は漢文の各問に答ふるを要せず其の時間は何れも二時三十分を限る

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

國語解釋

一、近き所には播磨の明石の浦こそなほことに侍れ何のいたり深き隈はなけれど唯海の面を見渡したるほどなむ怪しくこと所に似ずゆほびかなる所侍にるか
の國の前守のしほちの女かしづきたる家いたし
かし大臣の後にて出でたちもすべかりける人の世の
ひがものにてまじらひもせず近衛の中將を捨てて申
し給はれりける司なれどかの國の人にも少しあなづ
られて何の面目にてかまた都にも還らむと言ひて頭
もおろし侍りにけるを少し奥まりたる山すみもせで
さる海づらに出でゐたるひがしきやうなれどげ
にかの國の中にさも人のこもり居ぬべき所々もあり
ながら深き里は人ばなれ心すこく若き妻子の思ひわ
びぬべきによりかつは心をやれるすまひになむ侍る
さいつ頃まかりるりて侍りしついでに有様見たまへ
によりて侍りしかば京にてこそ所得ぬやうな下けれ
そこら遙にいかめしうしめて造れりさまさはいへど
國の司にてしおきける事なれば殘の齡ゆたかにふべ
き心がまへもなくしたりけり後の世の勤もいとよく
してなかく法師まさりしたる人になむ侍りける
(源氏物語)

二、なまよみの甲斐の國うちよする駿河の國とこちこ

ちの國のみなかゆ出でたて不盡の高嶺は天雲もい
ゆきはゞかり飛鳥も飛びも上らずもゆる火を雪もて
けち降る雪を火もてけちつひもえず名づけけもし
らにあやしきもいます神かもせの海と名づけてある
もその山のつゝめる海ぞ不盡河と人の渡るもその山
の水のたざちぞ日の本のやまとの國のしづめともい
ます神かも寶ともなれる山かも駿河なる不盡の高嶺
は見れどあかぬかも(萬葉集、詠不盡山歌)

漢文(一)

讀方及解釋

郷伯如晉子大叔相見范獻子曰若王室何對曰老夫其
國家不能恤敢及王室抑人亦有言曰黎不恤其緯而憂宗周
之隕爲將及焉今王室實蠢蠢焉吾小國懼矣然大國之憂也
吾儕何知焉吾子其早圖之詩曰餅之馨矣惟馨之恥王室之
不寧馨之恥也獻子懼而與宣子圖之左傳昭公二十四年

注意 本紙に句讀返點送假名を施し別紙に解釋すべし

漢文(二)

讀方及解釋

堂谿公謂昭侯曰今有千金之玉卮通而無當可以盛水乎昭
侯曰不可有瓦器而不漏以可盛酒乎昭侯曰可對曰夫瓦器

三十三回

至賤也不漏可以盛酒雖有千金之玉卮至貴而無當漏不可
盛水則人孰注漿哉今爲人之主而漏其群臣之語是猶無當
之玉卮也雖存聖智莫盡其術爲其漏也昭侯曰然昭侯聞堂
谿公之言自此之後欲發天下之大事未嘗不獨寢恐夢言而
使人知其謀也(韓非子外儲說右)

漢文(三)

讀方

仁兄足下遠適異國昔人所悲而近世學子則往往萬里從師
不辭跋涉何其壯耶即而足下此次前往凡在友朋莫不相賀
而弟尤欣羨弗置者蓋去年思得公費出洋屢謀不遂爲之懷
喪不謂足下無意之間睡手得之務望此後發憤爲學輸入歐
化以餉國人則不特不虛此行亦可以傲古人而詔來者矣明
晚擬在渭城精舍一叙離別千萬勿却爲幸此布即頌文安
(饒人遊學外國)

注意 本紙に句讀返點送假名を施すべし

口述問題

さしたる事なくて人のがり行くはよからぬ事なり用あ
りて行きたりとも其事はてなばとくかへるべし久しく
ゐたるといむつかし人と對ひたればことは多く身も

くたびれ心も静ならず萬の事はりて時をうつす互のため益なしとはしげに言はむもわろし心づきなん事あらん折はなか／＼そのよしをも言ひてむ同じ心にかはまじき人のつれ／＼にて今しはし今日は心静になどいはむは此のかざりにはあらざるべし元籍が青き眼誰もあるべき事なりその事となきに人の來りてのどかに物がたりしてかへりぬるいとよし又文も久しく聞えさせむばなどばかり言ひおこせたるいとうれし(徒然草)

淺朝高文典冊莫若明史其剪裁太嚴其論贊視宋元史亦太謹敕然可雁行不知專出何人手其次爲四庫解題則紀曉嵐文筆也綜核經史揚核藝文無閑冗語首尾爛然足光前垂後舉覺羅一代文論其可傳者恐無出此右已(讀四庫全書提要 賴襄)

かの立上の中務宮文つくらせ給ふ道など優れておはしましければ齊名以言などいふ博士常に参りて文作らせ給ふ御供になんありける大内記保胤とて中に優れたる博士御師にて文は習はせ給ひけるその保胤にはこれらが文作り得たる所得ぬ所の有様問はせ給なければ答へ申しけることこそ唐の言の葉は知らぬことなれど面白く聞え侍りしかいづれも／＼とり／＼に侍るを譬にて

申し侍らんとて齊名が文作り侍るさまは月の冴えたるに半ふりたる檜皮葺の家の御簾と／＼はづれたるうちに女の箏のことひきすましたる様はなん侍る以言の詩は砂子白く散じたる庭の上に櫻の花散りしきたる陵王舞ひたるになん似てぞ侍る匡衡がやうは武士のあけの草して緋緘のかゞやきたるきてえならぬ駒の足ときに乗りて逢坂の關を越ゆる景色なりとぞ申しけるさて宮そこはいかゞと仰せられければ既に檳榔毛にのり侍りにたりとぞ申し侍りけるとなん(今鏡)

武藏の國大城の東駿臺のもとに草の庵むすびて住みける一人の翁ありけりそのかみ北國より爰に來て家居せしがもとより深山木の花にあらはるべき材もなければ其の梢と知る人もなくしてたゞ學の窓にふみを廣げ見ぬ世の人を友とし老の至るをも忘れつゝ昨日といひ今日とくらしてはや二十年あまりに及べり爰に此翁につきてもの學ぶ輩ありて書を講じ文を論じおの／＼虚に史贊載後 賴襄)

して往き實にして歸らぬはなしその外花の晨月の夕には必ず訪ひ來てなにくれと世にあらゆる事ども語りつゞけつゝ日を暮し僕を更ふれどもやむ事なし昔より良辰を失ひ易く嘉會は得がたければいつも賓主ともに唐錦たゞまくをしくぞ見えし(駿臺雜話)

第二十四回 大正九年

豫備試験

設問

一、左の文章を口語に譯し相對照し口語法との異なる所を説明せよ

勝海舟壯時西洋式の兵術を學びけるが、一書肆の店頭を過ぎしに船載の兵書あり當時得難き良書なり其の價を問へば「五十兩なり」と云ふ。海舟之を購はむと欲すれども、家貧にして直ちにその金を辨すること能はず。

二、我が國に於ける甲冑裝束及び官職に就きて参考書

を示せ

三、人心道心の意義を述べよ
四、三蘇に就いて知れる所を記せ

▲作文(文體隨意)

夏の夕

復文

欲する所生より甚しきものあり惡む所死より甚しきものあり獨り賢者是の心あるのみにあらざるなり人皆これあり賢者能く喪ふなきのみ(原文三十二字)

注意 一、設問作文復文を通じて四時間を限る
二、答案は問題毎に別紙に認むべし

▲國語解釋

一、左の文を解釋せよ

元弘二年の春にもなりぬ新しき御代の年の始は思ひなしさへ花やかなり上も若う清らにおはしませばとろづめでたく百敷の内何事も變らずさるべき公事のをりをりさらでも院内同じ陣の中なれば一つに立ちこみたる馬車隙なく賑しげれど見し世の人は一人も交ろはけ参り罷出る顔のみぞかはれる先帝はいまだ六波羅にあはします二月の頃空の氣色のどやかにかすみわたりてゆるらかに吹く春風に軒の梅なつかし

第三十四回

くかをり来て鶯の聲うらゝかなるもうれはしき御こ
うちにはもの憂かる音にのみ聞し召しなざることや
うなれどかの上陽人の宮の中思ひよそへらる永き日
影もいと暮し難き御慰めにとや聞え給ひけ中む宮
より御琵琶奉らせ給ふついでにいさゝかなる物のほ
しに

思ひやれちりのみつるも四の絃に

はらひもあへずかゝる涙を(増鏡)

二、左の文に就き要旨を擧げて簡単に説明せよ

悲劇は喜劇より偉大である。之を説明して死は萬障
を封するが故に偉大だと云ふものがある。取り返し
がつかぬ運命の底に陥つて出て来ぬから偉大だと云
ふのは流るゝ水が逝いて歸らぬ故に偉大だと云ふと
一般である。運命は單に最終結を告ぐるが爲にのみ
偉大にはならぬ。忽然として生を變じて死となすが
故に偉大なのである。忘れたる死を不用意の際に點
出するから偉大なのである。ふざけたるものが急に
襟を正すから偉大なのである。襟を正して道義の必
要を今更の如く感ずるから偉大なのである。人生の
第一義は道義にありとの命題を腦裏に樹立するが故
に偉大なのである。道義の運行は悲劇に際會して始

めて澁滞せざるが故に偉大なのである。道義の實踐
はこれを人に望む事切なるにも拘はらず、われの最
も難しとする所である。悲劇は個人をして此の實踐
を敢てせしむるが爲に偉大である。道義の實踐は他
人に最も便宜にして、自己に最も不利益である。人
々力を茲に致す時一般の幸福を促がして、社會を眞
正の文明に、導くが故に悲劇は偉大である。

(漱石全集)

注意 一、漢文の讀方及び解釋と通じて四時間
を限る

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

▲漢文讀方及び解釋(一)

丘也聞有國有家者不患寡而患不均不患貧而患不安蓋均
無貧和無寡安無傾夫如是故遠人不服則脩文德以來之既
來之則安之今由與求也相夫子遠人不服而不能來也邦分
崩離析而不能守也而謀動干戈於邦内吾恐季孫之憂不在
顯與而在蕭牆之内也(論語)

右問題に句讀返點送假名を附し全文を解釋すべし

注意 一、國語の解釋と通じて四時間を限る

二、本紙に句讀返點送假名を施し別紙に
解釋すべし

▲漢文讀方及び解釋(二)

方今天下風俗尙有未及於古者邊境尙有被甲執兵者主上
不得怡而宰相以爲憂僕雖不賢亦且潛究其得失致之乎吾
相薦之乎吾君上希卿大夫之位下猶取一障而乘之若都不可
得(猶將耕於寬閑之野釣於寂寞之濱求國家之遺事考
賢人哲士之終始作唐之一經垂之於無窮誅奸之於既死發
潛德之幽光二者將必有一可(唐宋八大家文讀本韓愈
答崔立之書)

右問題に句讀返點送假名を附し括弧内の文を解釋す
べし

注意 一、國語の解釋と通じて四時間を限る

二、本紙に句讀返點送假名を施し別紙に
解釋すべし

▲漢文讀方及び解釋(三)

朝聞遊子唱離歌昨夜微霜初度河鴻雁不堪愁裏聽雲山况
是客中過關城曙色催寒近御苑砧聲向晚多莫是長安行樂
處空今歲月易蹉跎(唐詩選李頎送魏萬之京)

右問題に句讀返點送假名を附し全文を解釋すべし

注意 一、國語の解釋と通じて四時間を限る

二、本紙に句讀返點送假名を施し別紙に
解釋すべし

本 試 驗

解 釋

一、五月ばかりに月もなくいとくらき夜女房やさぶら
ひたまふと聲聲していへば出でて見よ例ならすいふ
は誰そと仰せらるれば出でてこは誰をおどろおどろ
しうきはやかなるはといふに物もいはでみすをもた
げてそよるとさし入るるは吳竹の枝なりけりおいこ
の君にこそといひたるを聞きていざやこれ殿上に行
きて語らむとて中將新中將六位どもなどありけるは
いぬ頭辨はとまりたまひて怪しくいぬるものどもか
な御前の竹を折りて歌よまむとしつるを職にまゐり
て同じくは女房などよびいでてをといひて來つるを
吳竹の名をいとくいはれていぬるこそをかしけれ
誰が教をしりて人のなべて知るべくもあらぬ事をば
いふぞなどのたまへば竹の名とも知らぬものをなま
ねたしとやおぼしつらむといへばまことぞえ知らじ
などのたまふ(枕草紙)

二、やすみししわが大君たかひかるわが日のみこの馬
並めて御獵たたせる若菰を獵路の小野にししこそは
いはひをろがめ鶉こそいはひもとほれしじものいは
ひをろがみ鶉なすいはひもとほり畏みとつかへまつ

りてひさかたの天見る如くましかがみ仰ぎて見れど
春草のいやめづらしきわが大君かも(萬葉集長皇子
遊獵獵路池之時柿本人麻呂作)

注意 一、國語、漢文を通じて四時間とす但し
國語の教員免許状又は証明書を有する
者は國語の各問に、漢文の教員免許状
又は證明書を有する者は漢文の各問に
答ふるを要せず其の時間は何れも二時
三十分を限る

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

▲漢文(一)

讀方及解釋

今世之學士語治者多曰與貧窮地以實無資今夫與人相若
也無豐年旁人之利而獨以完給者非力則儉也與人相若也
無饑饉疾疫禍罪之殃獨以貧窮者非侈則情也侈而情者貧
而力而儉者富今上徵歛於富人以布施於貧家是奪力儉而
與侈情也而欲索民之疾作而節用不可得也(韓非子顯學)

右問題に句讀返點送假名を附し全文を解釋すべし

注意 一、國語の解釋と通じて四時間を限る
二、本紙に句讀返點送假名を施し別紙に
解釋すべし

▲漢文(二)

讀方及解釋

晏平仲嬰者萊之夷維人也事齊靈公莊公景公顯名於諸侯
越石父賢在繯縲中晏子出遭之塗解左驂贖之載歸弗謝入
聞久之越石父請絕晏子懼然攝衣冠謝曰嬰雖不仁免子於
厄何子求絕之速也石父曰不然「吾聞君子詘於不知己而
信於知己者方吾在繯縲中彼不知我也夫子既以感寤而贖
我是知己而已而無禮固不如在繯縲之中」晏子於是延入
爲上客(史記管晏列傳)

右問題に句讀返點送假名を附し括弧内の字句を解釋
すべし

注意 一、國語の解釋と通じて四時間とす

二、本紙に句讀返點送假名を施し別紙に

解釋すべし

▲漢文(三)

讀方

本埠旅滬廣東小學校近在開北寶源路自建洋房一所自春
開遷入新校以來學子益形發達聞下期於各學科整頓益力
並推廣學額以期教育之普及高等尋常兩科定九月三號開
學幼稚定九月四號開學云(上海時報)

注意 一、國語の解釋と通じて四時間とす

▲設問

二、本紙に句讀返點送假名を施すべし

一、八代集の書名を撰集の年代順に列記せよ

二、新井白石谷川士清本居春庭の語學上に於る事蹟を
記せ

三、我が國現代の文學にあらはれたる思想上の傾向に
就いて述べよ。

四、支那に於る性の説の梗概を記せ。

五、陶淵明に就いて知れる所を記せ。

▲作文

一、普通文(文語文)
現代の時勢に鑑みて青年に諭す。

二、漢文(字數二百字以内)
愛國説

注意 一、設問及作文を通じて四時間とす、但
し國語の教員免許状又は證明書を有す
る者は設問の (一)(二)(三) 及作文の
(一)に漢文の教員免許状又は證明書を
有する者は設問の(四)(五) 及作文の
(二)に答ふるを要せず、其の時間は何
れも二時三十分を限る

▲口述問題

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

客冬接書羅々數百言推獎之殷至於以山陽賴氏并論僕豈
敢當賴氏文章不特如來論所謂巨擘於京師求諸天下指難
多屈僕以累世之好提挈周旋商文量詩得益不少但至於學
術則尚有異僕出百家而入於程朱賴氏則欲自成一家史
論經說所著既多非僕輩可企及然亦不肯阿從其說也
(篠崎小竹)

▲口述問題

山崎にて出家せしめたまひて都遠くなるままにあはれ
に心ぼそくおぼされて
君がすむやどの梢をゆくゆくとかくるるまでもかへ
りみしはや
又播磨の國におはしましたつきて明石のうまやといふ所
に御やどりせしめたまひて驛の長のいみじう思へるけ
しきを御覽じてつくらせたまへる詩いとかなし
驛長無驚時變改 一策一落是春秋
かくて筑紫におはしましたつきてものあはれに心ぼそく
おぼさるるゆふべをちかたに所々烟たつを御覽して
夕されば野にも山にもたつけぶりなげきよりこそも
えはじめけれ

第三十四回

又雲のうきてただよふを御覽しても
山わかれとびゆく雲のかへりくるかげみるときはな
はたのまれぬ

凡論人必察其心與跡察於心而不察於跡則徐偃之得民可
以擬於太王之仁察於跡而不察於心則子噲之讓位可以比
於堯舜之義雖然心之善而跡之不善不害爲君子跡之善而
心之不善是後世小人之所以徼倖私也(坂井虎山)

あはれなることはおりおはしましける夜は藤壺のうへ
の御局の小戸よりいでさせたまひけるに有明の月のい
みじうあかかりければ顯證にこそありけれいかかすべ
からむと仰せられたるをさりとてとまらせたまふべき
やうは侍らす神璽寶劔わたりたまひぬるにはと粟田殿
のさわがし申したまひけるはまだ帝出でさせおはしま
さざるさきに手づからとりて東宮の御方に渡し奉りた
まひてければ歸りいらせたまはむことはあるまじくお
ぼしてしか申させたまひけるとぞさやけき影をまばゆ
くおぼしめしつるはほどに月のかほにむら雲のかかり
てすこしくらがりゆきければわが出家は成就するなり
けりと仰せられて歩み出でさせたまふほどに弘徽殿の
女御の御ふみの日頃破りのこして御目もえはなたす御
覽じけるをおぼしいでてしばしとてとりに入らせたま

ひけるほどぞかし粟田殿のいかにおぼしめしならせお
はしましぬるぞただ今すぎさせたまはばおのづから障
もいでまうで來なむとそらなきしたまひけるは

福原の島より宮は御船にたてまつる御門は和田岬刈藻
川をうちこして須磨關にかからせ給ふかの行平中納言
關ふきこゆるといひけんは浦より遠方なるべし哀に御
覽じ渡さる源氏の大将のなく音にまがふと宣ひけん浦
浪今もげに御袖にかゝる心地するもさまふ御涙のも
よほしなり播磨國へ著かせ給ひて鹽屋垂水といふ所を
かしきを問はせたまへばなんと奏するに名を聞くよ
りからき道にこそと宣はせてさしのぞかせ給へる御さ
まかたちふりがたくなまめかしけ近きかざりはあはれ
にめでたうもと思ひ聞ゆべし大くら谷といふ所少し過
ぐる程にぞ人磨の塚は有りける明石浦を過ぎさせ給ふ
に鳥隠れ行く船どもほのかに見えてあはれなり

水の泡のきえてうき世を渡る身のうらやましきはあ
まの釣船

詩之爲教溫柔敦厚近之事父遠之事君亦可以成就忠臣孝
子也世所謂道學先生者不知之甚惡詩詞以爲無用間言語
其學甚陋以嚴勵待人口含瓦礫面目可憎此輩皆誦法朱子
朱子何曾如此乎朱子好賦詩得韋柳園與故自持雖嚴正待

人未嘗不恕也(齋藤拙堂)

第三十五回 (大正十年)

豫備試驗

(第一日の分)

設問

一、左の文の誤を正し其の理由を略記せよ

口は食物を入る關門にして之を掩う唇堅き齒柔き

舌等はいはゆる發音機關なり。

吾人は之によりて自在に思想を語ることを得る。

言語は思想を通ずる大切なるものなれど妄に用ゆ

れば不測の禍を招くことあり。

二、左の動詞助動詞の活用を示せ。

肥 堪 支 率 戀 恨

らる ぬ べし まじ

三、左の名稱を説明せよ

今様 落首 俳諧 物名 歌枕

四、克己復禮の意義を述べよ。

五、司馬遷班固に就いて知れる所を記せ。

作 文 (文體隨意)

わが愛讀の書

第三十五回

復文

(イ) 敢て後れたるにあらざるなり。馬進まざればな
り。(八字)

(ロ) 人能く道を弘む。道人を弘むるにあらず。(八字)
(ハ) 天地の道は一言にして盡すべきなり。(十字)

注意 一、設問作文復文を通じて四時間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし但し

復文は(イ)(ロ)(ハ)を通じて一問題と
なす

(第二日の分)

國語解釋

一、左の文を解釋せよ。

人のもを問ひたるに知らずしもあらじありのま
まにいはむはをこがましとにや心まどはすやうに
返事したるよからの事なり知りたる事もなほさだ
かにと思ひてや問ふらむ又まことに知らぬ人もな
どか無からむうららかに言ひきかせたらむはおと
なしく聞えなまし人はいまだ聞き及ばぬ事をわが
知りたるままにさてもその人の事のあさましさを
どばかり言ひやりたればいかななる事のあるにかと
推し返し問ひにやるこそこころづきなけれ世にふ

第三十五回

りぬる事をもおのづから聞きもらす事もあればおぼつかかなからぬやうに告げやりたらしむ悪しかるべきことかはかやうの事はものなれぬ人のあることなり(徒然草)

(二)左の文の要旨を擧げて簡単に説明せよ。

無限に自分は生を渴望する。自分は人生に興味を失ひたく無い。人生の諸現象に興味を失つた人間には至上の藝術も何も語らず何も示すまい。自然も彼等には冷たく人も彼等には胸を閉ぢるだらういかにその人の生涯は寂しく狭苦しく冷たく過ぎるだらう。自分はさういふ人を多く見る。希望も愛も要求も無く老衰してゆく人を。彼等の行手には只死と暗黒との深淵があるのみああ哀れな人よ。ああこれ等の此世を捨てて去る人にも今一度足を停めさせてこの人生をふり返らせそこに無限に盡さない生の豊かな恵を味はせ感じさせるのは詩人の力ではなからうか。(現代詩人選集)

注意 一、國語解釋漢文解釋を通じて四時間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

漢文讀方及び解釋

一 子曰鄙夫可與事君也與哉其未得之也患得之既得之患失之苟患失之無所不至矣(論語)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を記すべし

注意 一、國語解釋漢文解釋を通じて四時間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

士窮不失義達不離道窮不失義故士得己焉達不離道故民不失望焉古之人得志澤加於民不得志脩見於世窮則獨善其身達則兼善天下(孟子)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を記すべし

注意 一、國語解釋漢文解釋を通じて四時間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

三

後趙石勒稱天王尋稱帝嘗大饗群臣問曰朕可方古何主或曰過於漢高勒笑曰人豈不自知卿言太過若遇高帝當北面事之與韓彭比肩耳若遇光武當並驅中原未知鹿死誰手大

丈夫行事當確々落落如日月皎然終不效曹孟德司馬仲達欺人孤兒寡婦狐媚以取天下也(十八史略)

右本紙に句讀返點送假名を附し括弧内の文を別紙に解釋すべし

(注意) 一、國語解釋漢文解釋を通じて四時間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

四

鳳皇臺上鳳皇遊鳳去臺空江自流吳宮花草埋幽徑晉代衣冠成古丘三山半落青天外二水中分白鷺洲總爲浮雲能蔽日長安不見使人愁(李白登金陵鳳皇臺)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を記すべし

(注意) 一、國語解釋漢文解釋を通じて四時間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

第三十六回 (大正十一年)

豫備試驗

(第一日の分)

設問

第三十六回

一、左の文中の動詞形容詞助動詞を抽出して其の活用を法(段)に當て、表示せよ。

其の子家繼は父には似ず大剛の者にて敵數多擊取つて引きけるが父が馬は射られて伏しぬ主はなし生捕られにけりと思ひて無念なれば只一人取つて返し多くの敵を斬伏せて或兵と引組んで落ち刺違へて死しけり

二、左の人々の年代を示しその著作物の名を知れる限り擧げよ。

一條兼良 尾崎紅葉 紀貫之 加茂真淵 北村季吟

三、左の名稱に就いて知れる所を記せ。

(イ) 道家 名家 法家 (ロ) 四六文

作文

わが勉學の狀況を友人に知らする文(口語文)

復文

(イ) 足らざる所あり、敢て勉めずんばならず、餘あり、敢て盡さず。十三字(中庸)

(ロ) 苟も其の養を得れば、物として長せざるなく、苟も其の養を失へば、物として消せざるなし。十六

第三十六回

字(孟子)

(ハ) 與に言ふべくして之と言はざれば、人を失ふ、與に言ふべからずして之を言へば、言を失ふ。二十

字(論語)

(注意) 一、設問作文を通じて四時間とす。

二、答案は問題毎に別紙に認むべし。

但し設問(三)は(イ)(ロ)復文は(イ)

(ロ)(ハ)を通じて各一問題とす。

(第二日の分)

國語解釋

一、左の文を解釋せよ。

さしたる事なくして人のがり行くはよからぬことなり用ありて行きたりともその事はなくば疾く歸るべし久しく居たるいとむつかし人と對ひたれば詞おほく身もくたびれ心もしづかならず萬の事ははりて時をうつす互のため益なし厭はしげにいほむもわろし心づきな事あらむをりはなかなかの由をもいひてむおなじ心に對はまほしく思はむ人のつれづれにて今しばし今日は心静かになどいはむはこの限にはあらざるべし阮籍が青き眼誰もあるべきことなりその事となき人にの來りてのど

かに物語して歸りぬるとよしまた文も久しく聞えさせねばなどばかり言ひおこせたるいと嬉し

(徒然草)

二、左の文の要旨を挙げて簡単に説明せよ。

藝術の尊いところは、絶えず魂を深め行くところにある、絶えず人間性そのものを大きくして行くところにある、新しくして行くところにある。魂の更に深いがたが發見せられない時。私たちの藝術に倦意が生れる。魂の更に新しい力が創造せられない時、藝術が通俗的なものとなつて来る。藝術家にとつて最も恐ろしいことは、世間の要求を知らないことではなくて、自分自身の魂のすがたを見失ふことである。魂を更に深くして行く創造の苦惱を忘れる事である。藝術はいつも藝術家自身の魂のために存在するものでなければならぬ。新しい藝術を造り出すといふことは新しい魂を見出すといふことである、更に新しい魂を、更に新しい人間性を創造するといふことである。(小鳥の來る日)

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時間とす。

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

漢文讀方及び解釋

一

子曰舜其大知也與舜好問而好察邇言隱惡而揚善執其兩端用其中於民其斯以爲舜乎(中庸)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を記すべし。

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時間とす。

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

二

顏淵喟然歎曰仰之彌高鑽之彌堅瞻之在前忽焉在後天子循循然善誘人博我以文約我以禮欲罷不能既竭吾才如有所立卓爾雖欲從之末由也已(論語)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を記すべし。

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時間とす。

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

三

夫沿河而下苟下止雖有遲疾必主於海如不得其道也雖疾

第三十六回

不止終莫幸而至焉故學者必慎其所道道於楊墨老莊佛之學而欲之聖人之道猶航斷港絕潢以望至於海也故求觀聖人之道必自孟子始今頃之所由既幾於知道如又得其船與檝知沿而不止嗚呼其可量也哉(韓愈送王墳序)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に全文の大意を簡単に記すべし

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

四

尙有綈袍贈應憐范叔寒不知天下士猶作布衣看(高適詠史)

青海長雲暗雪山孤城遙望玉門關黃沙百戰穿金甲不破樓蘭終不還(王昌齡從軍行)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を記すべし。

(注意) (一)國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時間とす。

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

本 試 驗

△ 解 釋

第三十六回

一、うへの御つぼねのみすのまへにて殿上人日ひと日
 琴ふえふきあそびくらしてまかでわかるるほどまだ
 かうしをまゐらぬにおほとなぶらをさし出でたれば
 とのあきたるがあらはなれば琵琶の御琴をたたざま
 にもたせたまへりくれなぬの御衣のいふもよのつね
 なるうちき又はりたるもあまた奉りていとくろくつ
 ややかなる御琵琶に御衣の袖をうちかけてとらへさ
 せたまへるめでたきにそばより御ひたひのほどしろ
 くげざやかにてわづかに見えさせたまへるはたとふ
 べきかたなくめでたしちかくのよりたまへる人にさ
 しよりてなかばかくしたりけむもえかうはあらざり
 けむかしそれはただ人にこそありけめといふをきき
 てみちもなきをわりなくわけいりて啓すればわらは
 せたまひてわれは知りたりやとなむおほせらるると
 つたふるもをかし(枕草子)

二、あまとぶやかろのみちはわぎもこがさとにしあれ
 ばねもごろにみまくほしけどやますゆかばひとめを
 おほみまねくゆかばひとしりぬべみさねかづらのち
 もあはむとおほぶねのおもひたのみでかざろひのい
 はがきぶちのこもりのみこひつつあるにわたるひの
 くれぬるがごととるつきのくもがくるごとおきつも

のなびきしいもはもちぢばのすぎでいにしとたまづ
 さのつかひのいへばあづさゆみおとにききていはむ
 すせむすべしらにおとのみをききてありえねばわ
 がこふるちへのひとへもなぐさもるころもあれや
 とわぎもこがやますいでみしかるのいちにわがたち
 きけばたまたすきうねびのやまになくとりのおとも
 きこえずたまほこのみちゆくひとひとりだにて
 しゆかねばすべをなみいもがなよびてそでぞふりつ
 る。(萬葉集柿本朝臣人麻呂妻死之後泣血哀慟作歌)

△設 問

一、源氏物語と枕草子とを比較評論せよ。
 二、左の文を文章法上より解剖せよ。

未成年者が其の飲用に供する目的を以て所有し又
 は所持する酒類及其の器具は行政の處分を以て之
 を沒收し又は廢棄其の他の必要なる處置を爲さし
 むることを得

△作 文 (文語體)

(注意) (一) 解釋設問作文を通じて四時三十分
 間とす。

(二) 答案は問題毎に別紙に認むべし

△問 題

(一) かの島には春來てもなほ浦風さえて浪あらく渚の
 氷もとけがたき世のけしきにいとおぼしむすぼる
 る事つきせすかすかに心ぼそき御すまひに年さへ隔
 りぬるよとあさましくおぼさる心ならずもまどろま
 せたまへる曉方夢うつつともわかぬほどに後宇多院
 ありしながらの御面影さやかに見えたまひて聞えし
 らせたまふことおほかりけりうちおどろきて夢なり
 けりとおぼすほどいはむ方なくなごりかなし御涙も
 せきあへずさめざらましとおほすもかひなし源氏
 の大將須磨の浦にて父御門見奉りけむ夢のこころし
 たまふもいとあはれにたのもしういよいよ御心強さ
 まさりてかの新發意が御迎のやうなる釣舟もたより
 いできなむやと待たるるこころしたまふに大塔の宮
 よりもあまびとのたよりにつけて聞えたまふにと絶
 えす

(二) こや野より出でさせたまひて武庫川神崎難波住吉
 など過ぎさせたまふとて御心のうちにおぼすすぢあ
 るべし廣田の宮のわたりにて御輿とどめて拜み奉ら
 せたまふあしやの里すすめの松原布引の瀧など御覽
 じやらるるもふるき御幸ども思しいでらる生田の森

第三十六回

をばとはで過ぎさせたまひぬめり湊川の宿につかせ
 たまへるに中務官はこやの宿におはしますほど間近
 く聞き奉らせたまふもいみじうあはれに悲し宮
 いとせめてうき人やりの道ながら
 同じとまりと聞くぞうれしき
 福原の島より宮は御船にたてまつる御門は和田のみ
 さき荻藻川をうちこして須るの關にかゝらせ給ふか
 の行平の中納言關ふきこゆるといひけむは浦よりを
 ちなるべしあはれに御覽じわたさる源氏の大將のな
 くれにまがふとの給ひけむうらなみ今もげに御袖に
 かゝる心ちするもさま／＼御涙のもよほしなり
 (三) 安福殿に釣殿にしやうしたて、東面におはします
 上達部は簀子の勾欄にせなかおしあてつゝ殿上人は
 庭に候ひあへるもいとえんなり池の御船さしよせて
 左右の請師たかすけ爲冷のせらる御みきなどまゐる
 さまもうるはしきことよりは艶になまめかし人々の
 歌いたくけしきばみてとみにも奉らすいと心もとな
 し照る月なみも曇りなき池のかゞみにいはねどしる
 き秋のななかはげにいとことなる空のけしきに月も
 かたぶきぬ明け方近うなりけりうへの御製
 鐘の音もかたふく月にかこたれて

第三十六回

をしと思ふ夜はこよひなりけり
と講じあげたるほど景陽の鐘もひびきをそなへたる
をりからいみじうなむいづれもけしうはあらぬ歌ど
も多く聞こえしかど御製の鐘の音にまされるはな
かりしにや。

▲漢文科

一 讀方及解釋

『析父謂子革吾子楚國之望也今與王言如響國其若之何
子革曰摩厲以須王出吾乃將斬矣』王出復語左史倚相趨
過王曰是良史也子善視之是能讀三墳五典八索九丘對曰
臣嘗問焉昔穆王欲肆其心周行天下將皆必有車轍馬跡焉
祭公謀父作祈招之詩以止王心王是以獲沒於祗宮臣問其
詩而不知也若問遠焉其焉能知之王曰子能乎對曰能『其
詩曰祈招之愔愔式昭德音思我王度式如玉式如金形民之
力而無醉飽之心王揖而入不食寢不寐數日不能自克以及
於難仲尼曰古也有志克己復禮仁也信善哉楚靈王若能如
是豈其辱於乾谿』(左傳昭公十二年)

- (注意) (一)本紙に句讀返點送假名を附し別紙に括弧内の語句を解釋すべし
- (二)答案は問題毎に別紙に認むべし
- (三)解釋讀方設問作文を通じて四時間

三十分とす

二 讀方及解釋

人皆寐則盲者不知皆默則暗者不知覺而使之視問而使
之對則暗者窮矣不聽其言也則無術者不知不任其身也
則不肖者不知聽其言而求其當任其身而責其功則無術不
肖者窮矣夫欲得力士而聽其自言雖庸人與鳥獲不可別也
授之以鼎俎則罷健效矣故官職者能士之鼎俎也任之以事
而愚智分矣(韓非子六反)

(注意)

- (一)本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋すべし
- (二)答案は問題毎に別紙に認むべし
- (三)解釋讀方設問作文を通じて四時間三十分間とす

三 讀方

據間島電訊二十八日午前四時許忽有馬賊襲擊頭道溝大
肆搶掠當時槍彈如雨日本領事館亦抵波及嗣有馬賊數人
闖入日本領事館館員竭力被禦加之匪賊各處縱火黑烟
天日爲暗日本領事館爲火所迫情況極形凄慘局子街之
日本官憲得報後立即遣派應摩隊前往援救以期出館員干
危難中

- (注意) (一)本紙に句讀返點送假名を附すべし

(一)讀方 (二)解釋 (三)文法

但中學校第四學年の教材として取扱ふものとす

四 設問

解釋を要せず

- (一)解釋讀方設問作文を通じて四時三十分間とす

左の事項に就きて知れる所を記せよ。

- (イ)王霸の別
- (ロ)江西詩派

五 作文 (漢文)

廉恥説(三百字以内)

- (注意) (一)設問の答案と作文とは各別紙に認むべし

- (二)解釋讀方設問作文を通じて四時三十分間とす

△問題

(一)太宗嘗問侍臣創業守成孰難房玄齡曰草昧之初羣雄並起角力而後臣之創業難矣魏徵曰自古帝王莫不得不於艱艱之失之於安逸守成難矣上曰玄齡與吾共取天下出百死得一生故知創業之難徵與吾共安天下常恐驕奢生於富貴禍亂生於忽故知守成之難然創業之難往矣守成之難方與諸公慎之(十八史略)

- (注意) 右の問題は左項に就いて試問す

第三十六回

右の問題は左項に就いて試問す

- (一)讀方 (二)解釋 (三)文法

但し中學校第四學年の教材として取扱ふものとす

第三十七回 (大正十一年)

豫備試験

(第一日の分)

設問

- 一、左の文を品詞に區別せよ。
まささんそんなうちにばかりゐないでちつとそとへおいでなさいいつしよにあそびませう。
- 二、(イ)左の歌集の著者を挙げよ。
金槐集 山家集 うけらが花 桂園一枝
- (ロ)左の名數について説明せよ。
四鏡 六國史 國學四大人 六歌仙
- 三、左に就きて知れる所を記すべし。

- (イ) 文選
- (ロ) 唐詩選
- (ハ) 人心道心

作文(口語體)

大正十一年を送る

復文

(イ)民の仁に於けるや水火よりも甚し。水火は吾蹈みて死するものを見たり。未だ仁を蹈みて死するものを

見ざるなり。(論語、原文二十六字)

(ロ)仁言は仁聲の人に入ることの深きにしかざるなり。善政は善教の民を得るにしかざるなり。(孟子原文二十一字)

(注意) 設問作文復文を通じて四時三十分間とす

答案は問題毎に別紙に認むべし但設問
二は(イ)(ロ)三は(イ)(ロ)(ハ)復文は
(イ)(ロ)を通じて各一問題とす

(第二日の分)

國語解釋

(一)すべて庶人の振舞は重らかに詞すくないて人をもならさず人にもならされず戯好まずおとなしくさしふるまひて居たれば心の中はしらすよきものかなと見えて人にも恥ぢられ所をもおかるるなりかかれどもこれは懐しく思はしき方にあらすただみだるべきところにはみだれをりにしたがひてたはぶれをもしをかしき事をも笑ひ人のなごりをも惜しみ友にしたがふ心ありてわりなく思はれぬるは徳多かるとぞふるき人おほく定められける又人は用意ふかくて出仕の時など心おくれなきをよしとす公事につけて失禮

をもしうちあるふるまひにも越度の出で來ぬるはくちをしき事なり(十訓抄)

(二)みちのくにに下り侍りける人に

紀貫之

見てだにもあかぬころを玉鉾の道のおくまで人の行くらむ

八十に多くあまりて後百首の歌めししによみて奉りし

藤原 俊成

しめおきていまやおもふ秋山の蓬がもとにまつむしの鳴く(新古今和歌集)

(三)左の文の内容を説明せよ。

私は大きな水流を心に描く。私はその流が何所に源を發し、何所に流れ去るのかを知らない。然しその河は濛々として無邊際から無邊際へと流れて行く。私はまたその河の兩岸をなす土壤の何物であるかをも知らない。然しそれはこの河が億劫の年所をかけて自己の中から築き上げたものではなからうか。私の個性も亦その河の水の一滴だその水の押流れる力は私を拉して何處かに押流して行く。ある時に私は岸邊近く流れて行く。而して岸邊との摩擦によつて

私を圍む水も私自身も中流の水にはおくれがちに流れ下る。更にある時は、人がよく實際の河流で觀察し得るやうに、中流に近い水の速力の爲めにけおされて逆流することさへある。かかる時に私は不幸だ私は新たな展望から展望へと進み行くことが出來ない。然し私が一たび河の中流に持來されるなら、もう私は極めて安全で且つ自由だ私は河自身の速力で流れる。河水の凡てを押し流すその力によつて私は走つてゐるのだけれども、私はこの事實をすら感じない。私は自分の欲求の凡てに於て流れ下る。何故ならば河の有する最大の流速は私の欲求そのものに外ならないから。だから私は絶對に自由なのだ。而して兩岸の摩擦の影響を受けねばならぬ流域に近づくと従つて、私は自分の自由が制限せられて來るのを苦苦しく感じなければならぬ。そこに始めて私自身の外に嚴存する運命の手が現れ出る。私はそこでは否む可からざる宿命の感じにおびえねばならぬ

(惜みなく愛は奪ふ)

(注意) (一)國語解釋漢文讀方及び解釋と通じて四時三十分間とす

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

第三十七回

漢文讀方及解釋

一

曾子有疾孟敬子問之曾子曰鳥之將死其鳴也哀人之將死其言也善君子所貴乎道者三動容貌斯遠暴慢矣正顏色斯近信矣出辭氣斯遠鄙倍矣邊豆之事則有司存(論語) 右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)字解全文釋義を記すべし

(注意) (一)國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時三十分間とす

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

二

孟子曰禹惡旨酒而好善言湯執中立賢無方文王視民如傷望道而未之見武王不泄邇不忘遠周公思兼三王以施四事其有不合者仰而思之夜以繼日幸而得之坐以待旦(孟子) 右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)字解全文釋義を記すべし

(注意) (一)國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時三十分間とす

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

三

陸生時前說稱詩書高帝罵之曰乃公居馬上而得上安事詩書陸生曰居馬上得之寧可以馬上治之乎且湯武逆取而以順守之文武並用長久之術也鄉使秦已并天下行仁義法先聖陛下安得而有之高帝不憚而有慙色乃謂陸生曰試爲我著秦所以失天下吾所以得之者何及古成敗之國陸生乃麤述存亡之徵凡著十二篇號曰新語(史記陸賈傳) 右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)を記すべし

(注意) (一)國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時三十分間とす

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

四

伏劔行千里微軀敢一言曾爲大梁客不負信陵恩(王昌齡答武陸田太守) 承恩借獵小平津使氣常遊中貴人一擲千金渾是膽家無四壁不知貧(吳象之少年行) 右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)字解全文釋義を記すべし

(注意) (一)國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時三十分間とす

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

本試 驗

▲漢文 科

一 讀方及解釋

白季使過冀見冀缺稱其妻饁之敬相待如賓與之歸言諸文公曰敬德之聚也能敬必有德德以治民君請用之臣聞之出門如賓承事如祭仁之則也公曰其父有罪可乎對曰舜之罪也殛鯀其舉也與禹管敬仲桓之賊也實相以濟康誥曰父不慈子不祗兄不友弟不共不相及也詩曰采芣非無以下體君取節焉可也(左傳僖公三十三年)

(注意) (一)本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋すべし

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

(三)解釋讀方設問作文を通じて四時三十分とす

二 讀方及解釋

人主者非目若離婁乃爲明也非耳若師曠乃爲聰也不任其數而待目以爲明所見者少矣非不蔽之術也不因其勢而待耳以爲聰所聞者寡矣非不欺之道也明主者天下得不爲己視天下不得不爲己聽故身在深宮之中而明照四海之內而天下弗能蔽弗能欺者何也關亂之道廢而聰明之勢興也

第三十七回

(韓非子姦劫弑臣)

(注意) (一)本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋すべし

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

(三)解釋讀方設問作文を通じて四時三十分間とす

三 讀方

由北京至濟南之航空線業已開始搭客航行郵遞信件間航空處復擬辦理航空廣告裨益商家茲已規定三項辦法一由空中散佈廣告傳單二在航站樹立廣告牌三在機內粘貼廣告期使搭客觸目注意以上辦法不日即可施行

(注意) (一)本紙に句讀返點送假名を附すべし解釋を要せず

(二)解釋讀方設問作文を通じて四時三十分間とす

四 設問

左の事項に就きて知れる所を記せよ

(イ)孟荀の性説

(ロ)陸游 王世貞 顧炎武

五 作文(漢文) 大勇文(三百字以内)

第三十七回

(注意) 一、設問の答案と作文とは各別紙に認むべし

(二) 解釋讀方設問作文を通じて四時三十分間とす

▲國語科

解 釋

(一) 大貳の乳母のいたくわづらひて尼になりけるとぶらはむとて五條わたりなる家たづねておはしたり惟光が兄の阿闍梨婿の三河の守むすめなどわたりつどひたるほどにてかくおはしましたるよろこびをまたなきことにかしこまる尼君もおきあがりて惜しげなき身なれどすてがたく思ひたまへつることはただかく御前に侍ひ御覽せらるることのかはり侍りなむことをくちをしう思ひたまへたゆたひしかど忌むこととしるしによみがへりてなむかくわたりおはしませを見たまへはべりぬれば今なむ阿彌陀佛の御光も心清く待たれ待るべきなど聞えてよわげに泣く日ごろおこたりがたくものしたまへばいとあはれにくちをしうなむ命ながくてなほ位高くなどもみなしたまへさてこそ九品の上にもさはりなく生れたまはめこの世にすこしうらみのこるはわろきわざとなむ聞く

など涙ぐみてのたまふ(源氏物語)
(一) 父母をみればたふとし妻子みればめぐしうつくし世の中はかくぞことわりもちどりのかからはしもよゆくへしらねばうけぐつをぬぎつることくふみぬぎて行くちふ人はいはきよりなりでし人かなが名のらさねあめへゆかばながまにまにづちならば大君いまずこのてらす日月の下は天雲のむかぶすきはみたにぐくのさわたるきはみきこしをす國のまほらぞかにかくにほしきまにまにしかにはあらしか

反 歌

ひさかたのあまちはとほしなほなほに家にかへりてなりをしまさに(萬葉集令反感情歌)

設 問

(一) 言語と文字との關係を簡單に説明せよ
(二) 室町時代の文學の特質を記せ

作 文(文語體)

萬葉集を讀みて

(注意) 解釋設問作文を通じて四時三十分間とす

答案は問題毎に別紙に認むべし

口 述 試 験

▲國語科

(第一日の分)

西の山の麓に一字の御堂有り即寂光院是なり舊う造なせる泉水木立田有る様の所なり薨破霧燒不斷香扉落月非常住燭とは加様の所をや可申庭の若草茂合ひ青柳糸を亂しつゝ池の浮草浪に漾ひ錦を曝すかと謬たる中島の松に懸れる藤波の裏紫に開る色青葉交の遅櫻初花よりも珍く岸の山吹さき亂れ八重立雲の絶間より山郭公の一聲も君の御幸を待顔也法皇是を御覽有てかくぞ被遊げる

池水に汀の櫻散布て浪の花こそ

盛なりけれ

舊にける岩の絶間より落來る水の音さへ故び由ある所なり綠蘿の垣翠黛の山繪に書共筆も難及さて女院の御庵室を御覽あるに軒には萬朝這かゝり葱交のわすれ草瓢箪屢空草顔淵が巷に滋藜蕾深鎖雨原憲が樞を濕すとも所謂杉の蒼目もまばらにて時雨も霜も置く露も洩る月影に争ひてたまるべし共見えざりけり。

第三十七回

(第二日の分)

今日は日暮ぬ勝負を不可決とて源平互に引退く處に沖より尋常に飾たる小船一艘汀へ向て漕よせ諸より七八段許にも成しかば船を模様になすあれば如何にと見る處に船の中より年の齡十八九許なる女房の柳の五衣に紅の袴着たるが皆紅の扇の日出したるを船のせがいに挾立て陸に向てぞ招ける判官後藤兵衛實基を召してあれば如何にと宣へば射よとにこそ候らめ但し大將軍の矢面に進で傾城を御覽せられん處を手垂にねらうるべうもや候らんと申ければ判官御方に射つべき仁は誰か有と問給へば手垂共多う候中に下野國の住人那須太郎資高が子に與一宗高こそ小兵では候へ共手はきいて候と申す證據があるかさん候かけ鳥などを争て三つに二つは必射落候と申しければ判官さらば與一呼とて被召けり與一其比は未二十許の男也かちに赤地の錦を以て衽端袖いろへたる直垂に萌黄威の鎧着て足白の太刀を帶き二十四さいたる截生の矢負ひうすきり子に鷹の羽わりあはせて作たりけるぬための鎧をぞ指添たる。

(第二日の分)

重盛初叙爵より今大臣大將にいたるまでしかしながら

第三十七回

君の御恩ならずといふことなし此恩の重きことを思へば千顆萬顆の玉にもこえその恩の深き色を按ずるに入再入の紅にも猶過ぎたらむ然らば院中に参り籠り候ふべしその儀にて候はば重盛が身に代り命に代らんと契りたる侍共少々候ふらん此等を皆召し具して只今法住寺殿を守護し参らせ候はゞさすが以の外の御大事でこそ候はんすらめ悲しきかなや君の御爲に忠を致さんとすれば迷慮八萬の嶺よりも猶高き父の恩忽ち忘れんとすいたまじきかなけうの罪を通れんとすれば君の御爲に不忠の逆臣となりぬべし進退こゝに谷れり是非如何にも辨へがたし申し請くる所詮は只重盛が首を召され候はゞ院参の御供をも仕るべからず又院中をも守護し参らせ候ふまじ彼の蕭何は大功かたへに越えたるによつて官大相國にしたり劍を帶し履をはきながら殿上へ上ることを許されしかとも寂慮に背く事ありしかば高祖重ういまして深く罪せられにきかやうの先蹤を思ふにも富貴をいひ榮花といひ朝恩といひ重職といひ旁極めさせ給ひぬれば御運の盡きんこと難かるべきにも候はず富貴の家には祿位重疊せり再實なる木はその根必ずいたむところ見えたれ心細くこそ候へ。

▲漢文科

(第一日の分)

世説管寧字幼安與華韻共園鋤菜見地有金寧揮鋤與互石不異韻捉而擲之又嘗同席讀書有乘軒冕過門者寧讀書如故韻癡書而看寧割席分坐曰子非吾友也寧韻那原俱遊學三人相善故時人號爲一龍謂寧爲頭原爲龍韻爲龍尾

(蒙求)

(注意)

右の問題は左項に就いて試問す

(一)讀方 (二)解釋 (三)文法

但し中學校第四學年の教材として取扱

ふものとす

(第二日の分)

晉詵郤書字廣基濟陰單文人博學多才王瓊偉倜儻不應細行州郡禮命竝不應秦始中舉賢良對策上第拜議遷雍州刺史武帝於東堂會送問詵曰卿自以爲何如詵對曰臣舉賢良對策爲天下策一猶桂林一枝崑山片玉帝笑詵在任威嚴明斷甚得聲譽(蒙求)

(注意)

右の問題は左項に就いて試問す

(一)讀方 (二)解釋 (三)文法

但し中學校第四學年の教材として取扱

ふものとす

第三十八回 (大正十二年)

豫備試驗

(第一日の分)

設問

一、左の人々の著作に就いて所見を記せ

高山樗牛 徳富蘇峰 有島武郎 芥川龍之介

二、左の文中の動詞形容詞助動詞を抽出し其の活用を法(段)に當てゝ示せ

あないみじとて雪打拂はせ給へりし御もてなしこそいとめでたかりしか御袍は黒きに御單衣は紅の花やかなるあはひに雪の色ももてはやされてえも

いはずおはしましたしものかな

三、左に就いて知れる所を記せ

イ、白居易 元稹

ロ、近思錄 傳習錄

作 文(口語文)

四、初夏の田園

復 文

五、千金の子は、以て人を貧しくすべく、以て人を富ますべし。天の與ふる所にあらざれば、人を貧しく

第三十八回

し人を富ますの權を以て一言の道に幾きを求むと雖も、得べからざるなり。(原文三十六字)

(注意) (一)設問作文復文を通じて四時三十分

とす

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

國語解釋

(第二日の分)

一、左の文を解釋せよ

一年入道殿(道長)の大井川の逍遙させ給ひしに

作文の船管絃の船和歌の船とわかたせたまひてそ

の道にたへたる人々をのせさせ給ひしに此の大納

言殿(公任)のまわり給へるを入道殿かの大納言い

づれの船にかのらるべきとのたまはすれば和歌の

船にのり侍らんとしたまひてよみ給へるぞかし

をぐら山あらしの風のさむければもみちのに

しききぬ人ぞなき

申しうけ給へるかひありてあそばしたりな御みづ

からものたまふなるは作文の船にぞのるべかりけ

るとてかばかりの詩をつくりたらしましかば名のあ

がらんこともまさりなましくちをしまかりけるわざ

かなさても殿のいづれにかおもふとのたまはせ

しになんわれながらこころおごりせられしとのたまふなる一事のすぐるだにあるにかくいづれの道にもぬけいで給ひけんは古も侍らぬ事なり

(大鏡)

二、左の歌を解釋せよ

イ、まさあぐるしののすだれのさらさらにおもひもかけぬ今朝のはつゆき(香川景樹)
ロ、一人あるたかきを求め走りきぬくみすることの空しきを知り(與謝野寛)

三、左の文の要旨を記せ

(勇士)私は人を殺したことは無限ないが人から傷つけられたことは一度もない。(聖人)私は人から殺されたことはあるが、人を傷つけたことはない(勇士)あなたはいくちなしだ。(聖人)私は幸福者だ。(勇士)私は萬人に恐れられた。(聖人)私は萬人に愛された。(勇士)あなたは愛されて、殺されたのか。(聖人)殺された愛された。(勇士)私は人を殺して尊敬された。(聖人)私は人に殺されて敬愛された。(勇士)私に手向ふものは私の精神を世界に輝かした。あなたは手に血をぬらなければ、あなたを生

かすことは出来なかつた、私は手に血をぬらしては自分を生かすことの出来ない人間だつた(勇士)一體お前と俺とどつちが偉いのだ。一つ勝負をしよう。(聖人)私は勝負は嫌ひだ。打ちたければぶつがしいし、殺したければ殺すがいい。(勇士)わしは勇士だ。亂暴者ではない。手向はないものをぶちはしない。おどろかないがいい。(聖人)私は少しもおどろかない。(勇士)これでもか(切る真似する)(聖人)おどろかない。殺されるのは殺すのでない、殺すことは恥ぢるが、殺されることは恥ぢない。(勇士)お前は可笑しな奴だ。お前のやうな男に逢つたことはない。お前はどうして死がこはくないのだ。(聖人)死はこはくない。天命を知つてゐるものは死を恐れない。来るべき時に來るものを恐れない。(勇士)本當か。(聖人)私は私を守護してゐるものを知つてゐる。(勇士)それでもお前は殺された人間ぢやないか。俺は何度死にかけたか知れないが、それでも不思議に傷一つうけずに生きた人間だ。(聖人)しかしお前は死んだぢやないか。(勇士)俺は天壽を保つて病氣で死んだのだ。(聖人)それをあなたは自慢にしてゐるの

か。(勇士)だから俺の方が神に守護されてゐる人間だ。(聖人)よろしい。本當のことを見せてあげよう。死神出て來い。(死神)はつ(出て來て聖人の前に跪く)(聖人)お前はこの方とわしとどつちが本當に強い人間か知つてゐるか。(死神)(勇士)見くだし)お前は俺に手向ふことは出来てもおれに勝つことは出来ない男ぢやないかお前は俺の手さきにつかはれてゐる時だけ威張れるのぢやないか。俺はお前の主人であつてお前は俺の奴隷だ(勇士)俺はお前の奴隷ぢやない。(死神)それならかうすればどうだ。お前は俺の二本指にも叶はない人間だ。(勇士)この人だつてさうだ。(死神)大ちがひだ。私はこの方にも死んでいただく時はあるが、その時は、かうして俺がこの方の前に跪いて神の御命令で御座います。お苦しいでせうが、人間の爲に暫くおしのび下さい。さうしてこの方の足に口づけするのだ。貴様とはわけがらう。貴様は死んでも後光は出ない。この方が死ぬ時は世界中に光がみちわたる。お前達の目には見えないかも知れないが。(勇士)この方は何とおつしやる方ですか(死神)何かささやく、勇士おどろいて聖

人の前に跪く)(勇士)ああ、あなたでしたか、私は何も知りませんでした。私はあなたの爲に働いてゐるつもりでをりました。(聖人)まあ立つがよい。私の教は地上では随分歪にされてゐると聞いて居る。しかしわかる時はわかると思つてゐた。あなたも誤解してゐた一人だ。私に逢つて私に氣がつかない一人だ。まあ氣にしないがいい。しかし人を殺したことを自慢にはしないがいい。(勇士)恐れ入りました。(一本の枝)

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じ

て四時三十分とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

漢文讀方及び解釋

子曰人皆曰予知驅而納諸罟獲陷之中而莫之知辟也人皆曰予知擇乎中庸而不能期月守也(中庸)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)字解全文釋義を記すべし

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じ

て四時三十分とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

第三十八回

漢文讀方及び解釋

二

子游曰子夏之門人小子當洒掃應對進退則可矣抑末也本之則無如之何子夏聞之曰噫言游過矣君子之道孰先傳焉孰後倦焉譬諸草木區以別矣君子之道焉可誣也有始有卒者其惟聖人乎(論語)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)字解全文釋義を記すべし

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じ

て四時三十分とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

漢文讀方

三

夫陽子本以布衣隱於蓬蒿之下主上嘉其行誼擢在此位官以諫爲名誠宜有以奉其職使四方後代知朝廷有直言骨鯁之臣天子有不借賞從諫如流之庶美巖穴之士聞而慕之東帶結髮願進於闕下而伸其辭說致吾君於堯舜熙鴻號於無窮也(韓愈爭臣論)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)を記すべし

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じ

て四時三十分とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

漢文讀方及び解釋

四

客舍并州已十霜歸心日夜憶咸陽無端更渡桑乾水卻望并州是故鄉(賈島度桑乾)

風勁角弓鳴將軍獵涇城艸枯鷹眼疾雪盡馬蹄輕忽過新豐市還歸細柳營回看射鵰處千里暮雲平(王維觀獵)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)字解全文釋義を記すべし

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じ

て四時三十分とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

本試 驗

國語科

解 釋

一、職におはしますころ八月十日あまりの月あかき夜右近の内侍に琵琶弾かせて端近くおはしますこれかれ物言ひ笑ひなどするに廂の柱によりかかちり物もいはでさぶらへばなどかう音もせぬものいへさうざ

さりゆかばとぶとりのはやくきまさねたつたちのをかべのみちにつつじのにははむ時のさくらばな咲きなむ時にやまたづのむかへまゐでむ君が来まさば

反 歌

ちよろづのいくさなりともことあげせずとりて來ぬべき壯夫とぞおもふ(萬葉集藤原字合卿遣西海節度使之時高橋連蟲麻呂作歌)

設 問

一、左の人人を評論せよ

西 行 兼 好 芭 蕉

二、左の諸項に就いて知れる所を記せ

鉢の木 道中膝栗毛 小説神髓 浮雲

三、左の文を文章法より解剖せよ

世にあればこそ望もあれ望の叶はねばこそ恨もあれしかじうき世を厭ひ誠の道に入りなむには

作 文(文語體)

卒業式告辭(校長に代りて)

(注意) (一)解釋設問作文を通じて四時三十分

間とす

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

第三十八回

うしきとおほせらるればただ秋の月のこのころを見侍るなりと申せばさもいひつべしとおほせらるる御方方君たちうへ人など御前に人のいと多くさぶらへば女房とものがたりして居たるに物を投げてたまはせたるあけてみれば思ふべしや否や第一ならずはいかがと書かせたまへり御前にて物語などするついでにもすべて人には一に思はれずば更に何にかせむたたいみじう憎まれあしうせられてあらむ二三にては死ぬともあらじ一にてをあらむなどいへば一乗の法なりと人人笑ふことのすちなめり筆紙たまはりたれば九品蓮臺の中には下品といふともと書きてまゐらせたればむげに思ひくんじにけりいとわろしいひそめつることはさてこそあらめとのたまはすれば人にしたがひてこそと申すそれがわるきぞかし第一の人にまた一におもはれむとこそ思はめとおほせらるるもいとをかし(枕草子)

二、しらくものたつたの山のつゆじもにいろづく時にうち越えて旅ゆく君は五百重山いゆきさくみあだ守る筑紫にいたり山のそき野のそきみよと伴のべを分ちつかはしやまびこのこたへむきはみたにくくのさわたるきはみくにがたをみしたまひてふゆごもり春

第三十八回

口 述

大かたいにしへ奈良の帝の御代に始めて右大臣橘の朝臣勅をうけたまはりて萬葉集を撰びしよりこのかた延喜のひじりの御時の古今集友則貫之躬恒忠岑天曆のかしこかりし御代にも一條攝政殿いまだ藏人の少將など聞こえける頃和歌所の別當とかやにて梨壺の五人に仰せられて後撰集は集められけるとぞひがききにや侍らむその後拾遺集は花山法皇のみづから撰ばせ給へりとぞ白河ノ院の御位の御時は後拾遺集は通俊治部卿うけたまはる崇徳院の詞花集は顯輔三位えらぶまた白河院おりるさせ給ひて後金葉集重ねて俊頼の朝臣に仰せて撰ばせ給ひしこそ始め奏したりけるに輔仁親王の御なのりを書きたるわろしとてかへされ又奉れるにも何事とかやありて三度奏して後こそをさまりにけれかやうのためしもおのづからの事なりおしなべて撰者のまゝにて侍るなれどこたみは院のうへみづから和歌の浦におりたちあらさせ給へば誠に心ことなるべし初秋風のたちて世の中いとものかなしく露けさまざるにいほむ方なく思しみだる

ふる里をわかれ路におふる葛の葉の秋はくれどもかへる世もなし

たとしへなく眺めのをれさせ給へる夕暮に沖の方にいとちひさき木の葉の浮べると見えて漕ぎ來るをあまの釣船かと御覽するほどに都よりの御消息なりけり墨染の御衣夜の御ふすまなど都の夜寒に思ひやりきこえさせ給ひて七條院よりまゐれる御文ひきあけさせ給ふよりいとみじく御胸もせきあぐるこちすればややためらひて見給ふにあさましくもかくて月日經にける事今日明日とも知らぬ命のうち今一度いかで見奉りてしがなくながら死出の山路も越えやるべうも侍らでなむなどいと多く亂れ書き給へるを御顔におしあてたらちねの消えやらで待つ露の身を風より先にいかで訪ねまし

八百萬神もあはれめたらちねのわれ待ちえむと絶えぬ玉の緒

初雁の翼につけつつここかしこより哀なる御消息のみ常は奉るを御覽するにつけても淺ましういみじき御涙のよほしなり。

悲田院の堯蓮上人は俗姓は三浦のながしとかやさうなき武者なり故郷の人來りて物がたりすとて東人こそいひつることは頼まるれ都の人はことうけのみよくて實なしといひしを聖それはさて思すらめどもおのれ

第三十八回

は都に久しく住みて馴れて見侍るに人の心おとれりとは思ひ侍らずなべて心やはらかに情あるゆゑに人のいふほどの事けやけく否びがたくよろづの言ひはなたず心弱くことうけしつ偽せむとは思はねど乏しくかなはぬ人のみあればおのづから本意通らぬこと多かるべし東人はわがかなれどげには心の色なく情おくれ偏にすゝよかなるものなれば初より否といひて止みぬにぎはひ豊なれば人には頼まるゝぞかしとことわれ侍りしこそこの聖聲うちゆがみあらしくして聖教のこまやかなる理いと辨へずもやと思ひしにこの一言の後心にくくなりて多かる中に寺をも住持せらるゝはかく和ぎたるところありてその益もあるにこそと覺え侍りしか

漢 文 科

一 讀方及び解釋

公孫丑曰道則高矣美矣宜若登天然似不可及也何不使被爲可幾及而日孳孳也孟子曰大匠不爲拙工改廢繩墨羿不爲拙射變其殺率君子引而不發躍如也中道而立能者從之

(孟子)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)字解全文釋義をすべし

(注意) (一)讀方解釋設問作文を通じて四時三十分間とす

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

二 讀方及び解釋

宋向成善於趙文子又善於令尹子木欲弭諸侯之兵以爲名如晉告趙孟趙孟謀於諸大夫韓宣子曰「兵民之殘也財用之盡小國之大畜也將或弭雖曰不可必將許之楚弗許楚將許之以召諸侯則我爲盟主矣」晉人許之如楚楚亦許之如齊齊人難之陳文子曰晉楚許之我焉得已且人曰弭兵而我弗許則固攜吾民矣將焉用之齊人許之告於秦秦亦許之皆告於小國爲會於宋(左傳襄公廿七年)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に「内の字句の解釋を記すべし」

(注意) 一、讀方解釋設問作文を通じて四時三十分間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

三 讀 方

中國選手已於昨日由大阪至門司在該處略事遊覽後即於正午乘日郵船榛名丸回國抵滬期約在六月一日日本埠省教育會青年會公共體育場等團體將於各選手抵埠後特開一慰勞會以歡迎之云(時報、極東運動會消息)

第三十八回

右本誌に句讀返點送假名を附すべし

(注意) 一、讀方解釋設問作文を通じて四時三十分間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

四設 問

左の問題に就いて知れる所を記せ

一 楊 雄

二 乾隆帝の學術上の事蹟

五作 文(漢文)

温故知新説 (三百字以内)

(注意) (一)設問の答案と作文とは各別紙に認むべし

(二)解釋讀方設問作文を通じて四時三十分間とす

口 述 試 驗 (第一日の分)

元耶律楚材天資英邁復出人表雖案牘滿前酬答不失其宜正色立朝不爲勢屈欲以身徇天下每陳國家利病生民休戚辭色懇切太宗嘗曰汝又欲爲百姓哭耶楚材每言輿一利不若除一害生一事不若減一事平居不妄言笑及接士人温恭之容溢于外莫不感其德焉
此の教材を中學校第四學年に課するものとして左記

の諸項を試問す

(一)要旨 (二)解釋 (三)文法 (四)修身
上其の他の注意すべき事項

口 述 試 驗 (第二日分)

晉有滅吳之志以羊祜都督荊州事吳以陸抗都督諸軍祜與抗對境使命常通抗遺祜酒祜飲之不疑抗疾祜與之成藥抗即服之曰豈有敵人羊叔子祜務修德政以懷吳人每交兵刻日方戰不掩襲抗亦告其邊戍各保分界而已母求細利
此の教材を中學校第四學年に課するものとして左記の諸項を試問す

(一)要旨 (二)解釋 (三)文法 (四)修身
上其の他の注意すべき事項

口 述 試 驗 (第三日分)

魏主問吳使道遙吳王頗知學乎咨曰吳王任賢使能志存經略雖有閑餘博觀書史不效書生尋章摘句魏主曰吳難魏乎咨曰帶甲百萬江漢爲池何難之有曰吳如大夫者幾人咨曰聰明特達者八九十人如臣之比車載斗量不可勝數
此の教材を中學校第四學年に課するものとして左記の諸項を試問す

(一)要旨 (二)解釋 (三)文法 (四)修身
上其の他の注意すべき事項

第三十九回 (大正十二年)

豫 備 試 驗

▲設 問

(一)語尾、語句、語幹につきて説明せよ

(二)左の書籍につきて知れる所を説明せよ

國歌大觀 古事類苑 國文註釋全書

古今著聞集 東關記行

(三)左の文章の構造を説明し文中の用言の活用を表示せよ

知らず生れ死ぬる人何方より來りて何方へか去る知らず假のやどり誰が爲に心を惱まし何によりてか目を悦ばしむる

(四)左につきて知れる所を記せ

賴襄の日本外史 張載の西銘

▲作 文 (口語體)

震災の感想

▲復 文

詩に云ふ、戎狄是れ膺ち、荆舒是れ懲らす。即ち我に敢て承たるなしと。父なく君なきは、是れ周公の膺つ所なり。我も亦人心を正うし、邪説を息め、誠行を距

第三十九回

き、淫辭を放ち、以て三聖者に承がんと欲す。豈辯を好まんや。予已むを得ざるなり。(孟子、原文五十四字)

(注意) (一)設問作文復文を通じて四時間とす

(二)答案は一問題毎に別紙に認むべし

▲國文解釋

(一)左の文を解釋せよ

花山院は風流者にさへおはしましけるこそ御所つくらせ給へりしさまなどよ御車やどりにはいたじきを奥は高くはしはさがりて大きなつま戸をせさせ給へるゆゑは御車の裝束をさながらたてさせ給ひておのづからとみの事のをりにとりあへず戸おしひらかばからからと人の手ふれぬさきにさしいだされんがれうとおもしろく思しめる事ぞかし御調度どもなどのけうらさこそえもいはす侍りけれ六宮のたえいり給へりし御誦經にせられたりし御硯の箱見給へき海賦に蓬萊山手長足長などがねしてまかせ給へりしこそかばかりの箱のうるしつき繪蒔のさまくちおかれたりしやうなどのいとめでたかりしなり(大鏡)

(二)左の批評の要旨を文中の和歌俳句に引當てて説明せよ

昔の野に董つみにとこし我ぞ野をなつかしみ一夜

第三十九回

ねにける(赤人)

かきわけて折れば露こそこぼれけれ淺茅に交る撫

子の花(西行)

山路来て何やらゆかし萱草(芭蕉)

赤人は自然の素樸な戀人であつて、自然との融合がおのづからできる。これが平安朝の感傷的な詩人ならば眠り得ないであらう。要行の愛は感傷的である彼は愛の對象であるものを捉へようとするが、それは露のやうにこぼれてしまふ。その露も彼には涙として感じられる。美は彼の心を慄れしめ誘つて行くが。捉へ得るものでなく、いつまでも満足を與へない。芭蕉の心は西行の抱いてゐた如き感傷的な愛の否定を経てきた。この否定は個物に對する執着の否定であつて、愛そのものを殺したのではない。今彼の心には對象のない曠やかな愛が動いてゐる。彼はもはや董を摘まうとも、撫子を折らうともせぬ。彼は董を透して普遍を眺める、そして彼の愛は董草に一刹那の間依存してゆかしの漣波を起す。その漣波が俳句の表現である。(文學序説)

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じ
て四時三十分間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

▲漢文讀方及び解釋

(一)子曰不憤不啓不排不發一舉一隅不以三隅反則不復

(論語)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)字解全文釋義を記すべし

(注意) (一)國語解釋漢文讀方及び解釋を通じ
て四時三十分間とす

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

▲漢文讀方及び解釋

(一)子生聽鄭國之政以其乘與濟人於洧洧孟子曰惠而不知爲政歲十一月徒杠成十二月與架成民未病涉也君子平其政行辟人可也焉得人人而濟之故爲政者每人而悅之日亦不足矣(孟子)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)字解全文釋義を記すべし

(注意) (一)國語解釋漢文讀方及び解釋を通じ
て四時三十分間とす

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

▲漢文讀方及び解釋

(三)下馬登鄴城城空復何見東風吹野火暮入飛雲殿城隅

本 試 験

▲國 語 科

▲解 釋

南對望陵臺漳水東流不復回武帝中人去盡年年色爲誰來(岑參登古鄴城)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)字解全文釋義を記すべし

(注意) (一)國語解釋漢文讀方及び解釋を通じ
て四時三十分間とす

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

▲漢文讀方

(四)趙孝成王德公子之矯奪晉鄙兵而存趙乃與平原君計以五城封公子公子聞之意驕矜而有自功之色客有說公子曰物有不可忘或有不可不忘夫人有德於公子公子不可忘也公子有德於人願公子忘之也且矯魏王令奪晉鄙兵以救於趙則有功矣於魏則未爲忠臣也公子乃自驕而功之竊爲公子不取也於是公子立自責似若無所容者

(史記信陵君列傳)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に要旨(五十字以内)を記すべし

(注意) (一)國語解釋漢文讀方及び解釋を通じ
て四時三十分間とす

(二)答案は問題毎に別紙に認むべし

第三十九回

(一)出雲の國の多藝志の小濱に天のみあらかをつくりて水戸の神のひこ櫛八玉の神を膳夫として天の御饗たてまつる時にねぎ申して櫛八玉の神鶴になりてわたの底に入りて底のはにをくひいで天のやそびらかをつくりてめのからを刈りて燧白につくりこものからを燧杵につくりて火を鑽りいでて申しけらくこのあが燧れる火は高天の原には神産巢日御祖の命のとだる天の新巢のすすの八拳たるまで焼きあげ地の下は底つ岩根に焼きこらして拷繩の千尋繩うちはへ釣らせる海人が大口の尾翼鱸さわさわにひきよせあげてさきたけのとををとををに天の眞魚咋たてまつらむと申しき(古事記)

(二)嵯峨の山千代の古道あをとめてまた露わくる望月の駒

(後白河院栖霞寺におはしましけるに駒引の引分の使にてまわりて(藤原定家)

世の中の晴れゆく空に降る霜のうき身ばかりぞおき

第三十九回

どころなき(五十首歌奉りし時 慈圓)
みどり子のはひたもとほりあさよひにねのみぞわが
なくきみなしにして

(大納言大伴卿薨之時歌、金明軍)

▲設問

(一)近松門左衛門ノ藝ノ説ト本居宣長ノ物語ノ説トニ
就キテ述ベヨ

(二)形象文字ト音標文字トニ就キテ説明セヨ

(三)官職、服飾、武器ニ關スル參考書ヲ舉ゲヨ

▲作文(文語體)

わが經歷

(注意) (一)解釋設問作文ヲ通ジテ四時三十分
間トス

(二)答案ハ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

▲漢文科

▲讀方及び解釋

(一)成子受賑于社不敬劉子曰吾聞之民受天地之中以生
所謂也是以有動作禮義威儀之則以定命也能者養之以
福不能者敗以取禍是故君子勸禮小人盡力勤禮莫如致
敬盡力莫如敦篤篤敬在養神篤在守業國之大事在祀與戎
有執番戎有受賑神之節也今成子惰棄其命矣其不反

乎(左傳成公十三年)

(注意) (一)全文ニ句讀返點送假名ヲ附シ別紙
ニ解釋スベシ

(二)答案ハ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

(三)讀方及び解釋設問作文ヲ通ジテ四
時三十分間トス

▲讀方及び解釋

(一)夫嬰兒相與戲也以塵爲飯以塗爲羹以木爲哉然至日
晚必歸饑者塵飯塗羹可以戲而不可食也夫稱上古之傳
頌辯而不懲道先生王仁義而不能正國者此亦可以戲而
不可以爲治也夫慕仁義而弱亂者三晉也不慕而治強者
秦也然而秦強而未帝者治未畢也(韓非子外儲說)

(注意) (一)全文ニ句讀返點送假名ヲ附シ別紙
ニ解釋スベシ

(二)答案ハ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ

(三)讀方及び解釋設問作文ヲ通ジテ四
時三十分間トス

▲讀方及び解釋

(一)我冒了巖寒。回到相隔二千餘里。別了二十餘年的
故鄉去。時候既然是深冬。漸近故鄉時。天氣又陰晦
了。冷風吹進船艙中。嗚嗚的響。蓬從隙向外一望。

▲國文解釋

蒼黃的天底下。遠近橫着幾個蕭索的荒村。沒有一些
活氣。我的心禁不住悲涼起來了。(故鄉 新青年雜誌)
(注意) 一、全文ニ返點送假名ヲ附シ括弧内ノ
字句ヲ別紙ニ解釋スベシ
二、答案ハ問題毎ニ別紙ニ認ムベシ
三、讀方及び解釋設問作文ヲ通ジテ四
時三十分間トス

▲設問

左ニ就キテ知レル所ヲ記セ

(イ)許慎 鄭玄

(ロ)本期文粹 靖獻遺言

▲作文(漢文)

剛健説 (三百字以内)

(注意) 一、設問ノ答案ト作文トハ各別紙ニ認
ムベシ

二、解釋讀方設問作文ヲ通ジテ四時三
十分間トス

第四十回 (大正十三年)

豫備試驗

(第一日の分)

第四十回

神なびの山をすぎゆく秋なればたつた川にぞぬさは
たむくる(神なびの山を過ぎて龍田川を渡りける時
に紅葉の流れけるをみてよめる、(清原深養父))

二、袖にふけさぞな旅ねのゆめもみじ思ふ方より通ふ
浦風(和歌所にてをのことも旅の歌つかうまつりし
に、藤原定家)

神なびの山をすぎゆく秋なればたつた川にぞぬさは
たむくる(神なびの山を過ぎて龍田川を渡りける時
に紅葉の流れけるをみてよめる、(清原深養父))

第四十回

(注意) 國語解釋漢文解釋及び讀方を通じて四時三十分とす

答案は問題毎に別紙に認むべし

▲一漢文讀方及び解釋

小人間居爲不善無所不至見君子而后厭然揜其不善而著其善人之視己如見其肺肝然則何益矣此謂誠於中形於外故君子必慎其獨也(大學)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に字解全文釋義を記すべし

(注意) (一) 國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時三十分とす

(二) 答案は問題毎に別紙に認むべし

▲二漢文讀方及び解釋

廣土衆民君子欲之所樂不存焉中天下而立定四海之民君子樂之所性不存焉君子所性雖大行不加焉雖窮居不損焉分定故也君子所性仁義禮智根於心其生色也睟然見於面盎於背施於四體四體不言而喻(孟子、盡心上)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に字解全文釋義を記すべし

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時三十分とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

▲三漢文及び讀方解釋

昔聞洞庭水令上岳陽樓美楚東南折乾坤日夜浮親朋無一字老病有孤舟戎馬關山北憑軒涕泗流(杜甫登岳陽樓)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に字解全文釋義を記すべし

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時三十分とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

▲四漢文讀方及び解釋

古之聖王愛日以求治辨色而視朝苟少安焉而至於日出則終日爲之不給以少而言之一日而廢一事一月則可知也一歲則事之積者不可勝數矣欲事之無繁則必勞於始而逸於終晨興而晏罷「天子未退則宰相不敢歸安於私第宰相日昃而不退則百官莫不震悚盡力於王事而不敢宴游如此則纖悉隱微莫不舉矣」天子求治之勤過於先王而義者不稱王季之晏朝而稱舜之無爲不論文王之日昃而始皇之晝書此何以率天下之意耶臣故曰厲精莫如自上率之則壅蔽決矣(蘇軾決壅蔽)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に括弧内の文を解釋すべし

第四十回

五月初の感想

▲復文

天下に達尊三あり爵一齒一德一朝廷には爵に如くは莫く郷黨には齒に如くは莫く世を輔け民に長たるは德に如くは莫し惡んぞ其一を有し以て其二を慢ることを得んや(孟子原文三十九字)

▲設問

一、左の人物及著作の時代を問ふ

- 松永貞徳 曾根好忠 玉勝問
- 四方赤良 頓阿 落窪物語
- 菟玖波集 正岡子規 大和物語
- 折焚柴の記 たけくらべ 日本永代藏
- 東常縁 性靈集 北村透谷

二、左の文中の動詞形容詞助動詞を摘出して其の活き方を法(段)に當てし示せ

凡保元平治より以來の亂りがはしさに頼朝と云ふ人

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時三十分とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

(第二日の分)

▲作文(口語)

もなく泰時といふ人もなからましかば日本國の人民いかなりましこのいはれをよく知らぬ人は故もなく皇威の衰へ武備のかちにけると思へるは誤なり

三、左の事項に就きて知れる所を記せ

イ、魏の曹操父子の文學上に於ける事蹟

ロ、知行合一

四、左の文を鑑賞批評せよ

ジャン／＼と放課の鐘が鳴る。今まで静かだった校舎内が俄に騒がしくなつて、彼方此方の教室の戸が前後して慌ただしくパツパツと開く。と、その狭い口から、物の眞黒な塊がドツと廊下へ吐出され、崩れてはら／＼の子供になり、我勝に玄關脇の昇降口を目がけて駈出しながら、口々に何だか喚く。たゞもう校舎をゆすつてワーツといふ聲の中に、無数の圓い顔が黙つて大きな口を開いて躍つてゐるやうで、何を喚いてゐるのか分らない。で、それが一旦昇降口へ吸込まれて此處で又／＼と入亂れ重なり合つて、腋の下から才槌頭がひよつと出たり、外齒へ脛がぶつかつたり、靴の踵が生憎と霜焼の足を踏んだりして上を下へとこねかへした擧句にワツと門外へ押出して、東西へ設々になる。

第四十回

仲善二人肩へ手をかけあつて行く前に、辨當箱をボ
ンと抛り上げては「ヨイ」と受けて行くいたづらがあ
る。その隣は往來の石塊を蹴飛ばし、行く。誰だか、あ
とで遊びに行くよ。と喚く。蝗を取りに行かないか、
といふ聲がする。君々と呼ぶ背後で、馬鹿野郎と誰か
と誰かを罵る。あ、痛たッ、何でい、わーい、といふ
聲ががや／＼と入れちがつて、友達は皆道草を喰つて
ゐる中を、私一人は駆脱けるやうにして側視もせず
せつせと歸つて来る。

家の横町の角迄来て襟たいやうな心持になつて、竊
とその方角を觀る。果してボチが門前へ迎へに出てゐ
る。私を見つけるや逸散に飛んで来て飛付く、舐める
何だか「兄さん！」と言つたやうな氣がする。若し本
包に、辨當箱に、草履袋で兩手が塞がつてゐなかつた
ら、私は此時ボチを捉まへて何をやつたか分らないが
それが有るばかりで、どうする事も出来ない。據どこ
ろなく頭を撫で遣るだけで不承して又歩き出す。と
ボチも忽ち身をくねらせて、横飛にヒョイと飛んで駆
出すかと思ふと、立止つて私の面を看ておどけた目つ
きをする。追付くと、又逃げて又その目つきをする。
かうしてふざけながら一緒に歸る。

玄關から大きな聲で「只今！」といひながら内へ駆
込んで、いきなり本包を其處へ抛り出し、慌て、辨當
箱を開けて今日のお菜の残り一と稱して、實は喰べた
かつたのを我慢して、半分残して来たそれをボチに遣
る。それでも足りないで、お八ッにお煎を三枚貰つた
のを、せびつて五にして貰つて、二枚は喰べて、三枚
は又ボチに遣る。

それから庭で一しきりボチと遊ぶと、母が訖度お温
習をおしといふ。このお温習程私の嫌ひな事はなかつ
たが、之をしないと、ちきボチを棄てると言はれるの
が辛いので、澁々内へ入つて、形の如く本を取出し、
少し許おんによ／＼とやる。それでお終だ。あんな
り早いねと母がいふのを、空耳潰して、つと外へ出て
ボチ来い、ボチ来いと呼びながら近くの原へ一緒に遊
びに行く。

これが私の日課で、ボチでなければ夜も日も明けな
かつた。(平凡)

(注意) 作文復文設問を通じて四時三十分間と
す答案は問題毎に別紙に認むべし
設問三は(イ)(ロ)を通じて一問題とす

本 試 験

▲國 語 科

解 釋

(一)雲間もなく明け暮る、日敷に添へて京の方もいと
と心細うおぼせどかしながら身をはふらかしつるにや
みだれにいでたちまゐる人もなし二條院よりぞあな
がちにあやしき姿にてそぼち參れるみちかひにてだ
に人か何ぞとだに御覽じわくもあらずまづおひ
はらひつべき賤の男のあはれにむつまじう思さるゝ
も我ながらかたじけなくしにける心のほど思ひし
らる御文にはあさましくをやみなき頃の氣色にいと
と空さへ閉づるこゝちしてながめやる方なくなむ
浦風やいかに吹くらむ思ひやる袖うちぬらし浪間
なきころ

あはれに悲しきことどもを書きあつめたまへりひき
あくるよりいととみぎはまさりぬべくかきくらすこ
ゝちしたまふ(源氏物語 明石)
(二)やすみしゝわがおほきみのたかしかすやまとの國
はかみろぎの神のみよゝりしきませる國にしあれば

あれまさむ御子のつぎつぎ天のしたしらしまさむと
八百萬千年をかねてさだめけむ平城のみやこはかぎ
ろひの春にしなれば春日山御笠の野邊に櫻花このく
れがくり貌鳥はまなくしば鳴き露霜の秋さりくれば
いこま山飛火がをかに萩の枝をしがらみ散らしさを
しかは妻呼びとよめ山見れば山もみがほし里見れば
里も住みよしものゝふの八十伴男のうちはへて里な
みしければ天地のよりあひのきはみ萬世に榮えゆかむ
と思ひにし大宮すらを恃めりしならの京を新世の事
にしあればおほきみのひきのまにまに春花のうつろ
ひかはりむら鳥のあさたちゆけば刺竹の大宮人のふ
みならし通ひし道は馬も行かす人も行かねば荒れに
けるかも(萬葉集 悲寧樂故京郷作歌)

一 愛讀する國文學書の一を擧げて評論せよ
二 左の文を文章法上より解剖せよ
昔は五たび譲りしあをたづねて天日嗣の位にそ
なはり今は八隅知る名をのがれて菟姑射の山にす
みかをしめたり
作 文(文語文)

第四十回

夏期休業

第四十回

(注意) (一) 解釋設問作文を通じて四時三十分

とす

(二) 答案は問題毎に別紙に認むべし

▲口述試験問題

(第一日の分)

二十五日菊川を出でて今日は大井川といふ河をわたる水いとあせて聞きしにはたがひてわづらひなし河原幾里とかやいとほるかなり水の出でたらんおもかげにおしはからる

思ひ出づるみやこのことは大井川いく瀬の石のかずもおもはじ

宇都の山越ゆるほどにしも阿闍梨の見知りたる山伏行き逢ひたり夢にも人をなど音をわざとまねびたらんこゝちしていとめづらかにをかしくもあはれにもやさしくも覺ゆ急ぐ道なりといへば文も數多は得かかすただやんごとなき所ひとつにぞおとづれなこゆる

我心うつつともなし宇都の山ゆめにも遠きむかしこふとて

つたかへでしぐれぬひまも宇都の山なみだに袖の色ぞこがる

(第二日の分)

東山のほとりなるすみかをいで相坂の關打ち出づる程に駒引きわたる望月の頃もやう／＼近き空なれば秋きり立ちわたりてふかき夜の月影ほのかなりゆふつけ鳥かすかに音づれて遊子猶殘月に行きけん函谷の有様思ひいでらる

むかし蟬丸といひける世捨人此の關のほとりにわら屋の床をむすびつねは琵琶をひきて心をすましやまと歌を詠して思をのべけり嵐の風はげしきをわびつゝぞすぐしける或人の曰く蟬丸は延喜第四の御子にておはしける故に此關のあたりを四の宮河原と名づけたりといへり

いにしへのわら屋の床のあたりまで

こゝろをとむる相坂のせき

(第三日の分)

夜更け行くほどに御遊はじまる樂のひま／＼に太政大臣公相土御門大納言通茂など朗詠したまふ忠輔公顯聲加へたる程面白し川浪も更け行くまゝに凄う月は氷をしける心地するに嵐の山の紅葉夜の錦とは誰か言ひけん吹き下す松風にたぐひて御前の簀子にて御酒まるる土器の中などに散りかゝるわざと艶なる事のつまにもしつべし若き人々は身にしむばかり思へりうち亂れた

第四十回

るさまに各御土器ども數多たび下る明けゆく空も名殘おほかるべしまことや此年ごう前内大臣、爲家大納言入道、從二位行家、光俊辨入道など承りて撰歌の沙汰ありつる只今日明日ひろまるべしと聞ゆる

面白うめでたしかの元欠の例として一院みづからみがかせ給へば心ことに光をひたる玉どもにぞ侍るべき年月にそへてはいよ／＼外さまに分くる方なく榮えのみまさらせ給ふ御有様のいみぢきにこの集の序にも大和島根はこれ我が世なり春風に徳を仰がんとねがひ和歌の浦もまた我が國なり秋の月に道をあきらめんとかや書かせ給へりける實にぞめでたきや

(第四日の分)

龜山 後宇多 今上の若宮六月廿六日親王の宣旨ありて同じぎ八月廿

五日坊に居給ひぬかく花やかなるにつけても入道殿は

公相

あさましくおぼさる故大臣の先立ち給ひしなげきにし

づみてのみ物し給へどかゝる世のけしきをかしこく見

給はぬよとおぼしなぐさむ中宮は御服の後も参り給は

ず萬ひきかへ物うらめしげなる世の中なり一院は御本

意遂げ給はむ事をやう／＼おぼすその年の九月十三夜白河殿にて月御らんするに上達部殿上人例のおほく参りつどふ御歌合ありしかば内の女房ども召されていろ／＼の引物源氏五十四帖のこゝろさまさまの風流にして上達部殿上人までも別ちたまはず院の御製われのみや影もかはらむあすか川おなじ淵瀬に月はすむとも

かねてより袖もしくれて墨染のゆふべいろます峰ののみぢ葉

この御歌にて御本意の事おぼしきだめけりと皆人袖をしぼりて聲もかはりけりあはれにこそ民部卿爲家判せさせとれけるにも身をせめ心をくだきてかきやる方も侍らすとかや奏しけり

▲漢文科

一 讀方及び解釋

子路從而後遇丈人以杖荷篠子路問曰子見夫子乎丈人曰四體不勤五穀不分孰爲夫子植其杖而芸子路拱而立正子路宿殺雞爲黍而食之見其二子焉明日子路行以告子曰隱者也使子路反見之至則行矣子路曰不仕無義長幼之節不可廢也君臣之義如之何其廢之欲潔其身而亂大倫君子之仕也行其義也道之不行己知之矣(論語 微子)

(注意) 一、全文に句讀返點送假名を附し別紙

第四十回

に解釋すべし

- 二、答案は問題毎に別紙に認むべし
- 三、讀方及び解釋設問作文を通じて四時三十分とす

二 讀方及び解釋

初景公欲更晏子之宅曰子之宅近市湫隘囂塵不可以居請更請爽塏者辭曰君之先臣容焉臣不足以嗣之於臣修矣且小人近市朝夕得所求小人之利也敢煩里旅公笑曰子近市識貴賤乎對曰既利之敢不識乎公曰何貴何賤於是景公繁於刑有鬻踊者故對曰踊貴履賤既已告於君故與叔向語而稱之景公爲是省於刑（左傳昭公三年）

（注意）一、全文に句讀返點送假名を附し別紙に解釋すべし

- 二、答案は問題毎に別紙に認むべし
- 三、讀方及び解釋設問作文を通じて四時三十分間とす

三 讀方

自從去年年底。我國駐日汪公使。與日本當局交換意見之後。所謂文化事業。纔確定範圍。決定次第。辦理圖書館。研究所。博物館等。我們不獨非常贊成。並是很欽佩日本朝野的虛懷遠識。能採納我國人士歷來的意見

但是這種重大事業。範圍雖然正當。要是入手之初。辦法尙缺斟酌。萬一將來引起無謂的糾紛。實在可惜的很。所以我們總想有一種較爲完全的辦法。使文化事業。不但受絲毫障礙。並且格外發揚。兩國人士達到真正携手的地步。所以我們用極誠懇的態度。發表宣言。

（支那全國教育會宣言書一節）

- （注意）一、全文に返點送假名を附すべし
- 二、答案は問題毎に別紙に認むべし
- 三、讀方及び解釋設問作文を通じて四時三十分間とす

四 設問

左に就きて知れる所を記せ

- （イ）中庸の誠
- （ロ）宋濂 高啓

五 作文（漢文）

君子不器說（三百字以内）

- （注意）一、設問の答案と作文とは各別紙に認むべし
- 二、解釋讀方設問作文を通じて四時三十分間とす

▲口述試験

（第一日の分）

道之以德。齊之以禮有志且格。

禮謂制度品節也。格至也。言躬行率之。則民固有所觀感興起矣。而其淺深厚薄之不一者。又有禮以一之則民恥不善。而又有以至於善也。一說。格正也。書曰。格其非心。○愚謂。政者爲治之具。刑者輔治之法。德禮則所以出治之本。而德又禮之本也。此其相爲終始。雖不可以偏廢。然政刑能使民遠罪而已。德禮之效。則有以使民日遷善。而不自知。故治民者不可徒恃其末。又當深探其本也。（論語集注）

此問題は主として注文に就きて試問するものとす

（第二日の分）

莫見乎隱。莫顯乎微。故君子慎其獨也。

隱暗處也。微細事也。獨者人所不知。而已所獨知之地也。言幽暗之中。細微之事。跡雖未形。而幾則已動。人雖不知。而已獨知之。則是天下之事。無有著見明顯而過於此者。是以君子既常戒懼。而於此尤加謹焉。所以遏入欲於將萌。而不使其潛滋暗長於隱微之中。以至離道之遠也。（中庸章句）

此の問題は主として注文に就きて試問するものとす

第四十一回

（第三日の分）

所謂平天下在治其國者。上老而民興孝。上長長而民興弟。上恤孤而民不倍。是以君子有絜矩之道也。

老老所謂老吾老也。興謂有所感發而興起也。孤者幼而無父之稱。絜度也。矩所以爲方也。言此三者上行下效。捷於影響。所謂家齊而國治也。亦可以見人心之所同。而不可使有一夫之不獲矣。是以君子必當因其所同。推以度物。使彼我之間各得分願。則上下四方。均齊方正。而天下平矣。（大學章句）

此の問題は主として注文に就きて試問するものとす

第四十一回（大正十三年）

豫備試験

（第一日の分）

設問

- 一、單文の異なる形式五種を例示せよ。
 - 二、左の文中の動詞形容詞助動詞を摘出して其の活き方を法（段、形）に當て、示せ。
- 若し道のはとりに辱くも風輦を先立て、御旗をあげられ臨幸の嚴重なる事も侍らむに参りあへらばその時の進退いかゞ侍るべからむ

第四十一回

三、左の文を鑑賞批評せよ。

水車よ、わき目もふらずに廻つてゐるおまへには今寺の森から流れて来た鐘の響が聞えなかつたか。あれ、まだ幽かな餘韻が顫うてゐるではないか。

母屋の軒を夕餉の煙がゆるやかに撫でるのも、納屋の隅で親鶏が頻りに叫び、雛がビョ／＼と應へながら時につかうとしてゐるのも、晝と夜とを區分する鐘の響といふ假りの掟に遵ふ毎日の行事なのだ。

萱葺の家、鍬を握つた若者、續いてゐた老嫗、鳴き續けた蟬、たく熟して行く林檎、一日の己の勤に疲れたそれ等は、今自然に恵まれた休養の夜に入るのだ

水車よ、それだにおまへばかりは、自然の懐に抱かれて、均しく此の恵に浴することが出来ぬのだ。それでもおまへは些の泣言を漏らさずに『是が俺の勤だ。若し俺が怠けたなら、杵はどうなる、臼はどうなる、又その中の穀物はどうなる。俺の責任は身に餘るほど重いのだ。』といった様な、清い床しい、そして男々しい心で、今夜も獨り深夜の静寂の中を廻らうとするのだらう。

水車よ、曩の日私が『おまへは水の爲に廻るのだ水の爲に強要されて、心にもない勞務に服するおま

へは醜い弱者だ』と嘲つた時、おまへは悲しい様な怨めしい様な聲をあげて、泣いて訴へた事があつた。あれは私の謬見であつた。今のおまへの美しい態度で、『おまへは水の爲に廻るのではない、人の爲、世の爲に廻るのだ。』といふ眞意がよく理解された。同時に苦しい奴隷の仕事を甘んじて受けてゐるおまへを男々しい勇者といひたい。

水車よ、私はおまへに心ゆくばかりの休養を與へたい。が、それは到底望まれない、——水の逆しまに流れぬ間は。

潺々として限なき水は、痛ましくもおまへを目掛けて砕けよとばかりぶつかつてゐる。かうしておまへは次の日も、次の日も、否來る年も、來る年も、撓まず屈せず勤め勵んで、そして前の車のやうに、苦むし朽ちて後、殘れるまで、不斷の努力を續けるだらう。

四、左の事項に就きて知れる所を記せ。

(イ) 蒙 求

(ロ) 井 田

作

文(口語體)

わが時勢觀

復 文

(イ)善政は善政の民を得るに如かざるなり 十字

(ロ)我れ官守なく我れ言責なきなり則ち吾が進退豈に綽綽然として餘裕あらざらんや 二十二字

(注意) 一、設問作文復文を通じて四時三十分

間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

(第二日の分)

國語解釋

一 或人いはく人の世にある習憍慢を先としてよく穩便なるは少なしあるひは自由の方にておだやかならずこれは我が涯分をはからずさしもなき身をたかく思ひあげて主をまかろしめ傍輩をも下るなり或は偏執の方にてかたくななりこれは我が思ひたる事をいみじうして人のいふ事を用ひざるなり或は世にかはれるふるまひありこれは昔をのみいみじと思ひて今の世に従はぬなり或は折節に似ぬをこありこれは内々よくなれにしかばと思ひて晴に出で、人をならしもしはうちとけ遊ぶ所に交りて我は未だみだれぬまゝにことうるはしう紐さしかためて人をしらかし其の座をさますなり

第四十一回

二 いく世しもあらじわが身をなぞもかく蚤のかるもに思ひみだるゝ

なげきをばこりのみつみてあしびきの山のかひな

くなりぬべらなり 過ぎてゆく秋のかたみにさをしかのおのが鳴く音も惜しくやあるらむ

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて四時三十分間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

(第二日の分)

漢文讀方及び解釋

一 漢文讀方及び解釋 子貢曰如有博施於民而能濟衆何如可謂仁乎子曰何事於仁必也聖乎堯舜其猶病諸夫仁者己欲立而立人己欲達而達人能近取譬可謂仁之方也已(論語雍也) 右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に字解全文釋義を記すべし 二 漢文讀方及び解釋 明道先生教人自致知至於知止誠意至於平天下灑掃應對至於窮理盡性循循有序病世之學者舍近而趨遠處下而闕高所以輕自大而卒無得也(小學 善行) 右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に字解全文釋義

第四十一回

を記すべし

三漢文讀方及び解釋

避賢初罷相樂聖且銜杯爲問門前客今朝幾箇來

(罷相作 李適之)

秦時明月漢時關萬里長征人未還但使龍城飛將在不教胡馬度陰山

(從軍行 王昌齡)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に字解全文釋義を記すべし

四漢文讀方

昔余少年從子瞻遊有山可登有水可浮子瞻未始不蹇裳先之有不得至爲之悵然移日至其翩然獨往逍遙泉石之上櫛林卉拾澗實酌水而飲之見者以爲仙也蓋天下之樂無窮而以適意爲悅方其得意萬物無以易之及其既厭未有不洒然自笑者也譬諸飲食雜陳於前要之一飽而同委於臭腐夫孰知得失之所在惟其無愧於中無責於外而姑寓焉此子瞻之所以有樂於是也(蘇轍 武昌九曲亭記)

右本紙に句讀返點送假名を附すべし

(注意) 一、國語解釋漢文讀方及び解釋を通じて

四時三十分間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

本試験

國語解釋

(一)たまきはる、うちのかざりは、平らげく、安くもあらむを、こともなく、もなくもあらむを、世の中のうけくつらく、いとのかきて、痛き瘡には、からしほを、そぐちふが如く、ますますも、重き馬荷に、うはにうつと、いふことのごと、老いにてある、わがみの上に、病をら、加へてあれば、晝はも、歎かひくらし、夜はも、息づきあかし、年長く、病みしわたれば月かさね、うれへさまよひ、ことことは、死ななとおもへど、さばへなす、騒ぐこともを、うつては、死には知らず、見つつあれば、心はもえぬ、かにかくに思ひわづらひ、ねのみしななかゆ、(萬葉集 老身重病 經年辛苦及思兒等歌)

(二)月まち出でて出でたまふ御供にただ五六人ばかり下人もむつまじき限して御馬にてぞおはすなる更なる事なれどありし世の御ありきに異なり皆いと悲しう思ふ中にかの御袂の日假の御隨身にて仕うまつりし右近の尉の藏人得べきかうぶりもほどすぎつるを終に御簡

(注意) 一、解釋設問作文を通じて四時三十分

間とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

漢文科

一 讀方及び解釋

けづられてつかさも取られてはしたなければ御供に參るうちなり賀茂の下の御社をかれと見わたすほどふと思ひ出でられて御馬の口をとる
ひきつれて葵かざししそのかみを思へばつらし賀茂のみづがき
といふを實にいかか思ふらむ人よりけに花やかなりしものを思する心ぐるし君も御馬より下りたまひて御社の方を拜みたまふとて神に罷申したまふ
うき世をば今ぞわかるるとどまらむ名をばただすの神にまかせて(源氏物語)

設問

一、江戸時代の歌論とその時代の歌との關係を述べよ

二、左の書を説明せよ

東雅 詞八衢 和訓栞 本朝文粹

新葉集

三、左の文を文章法上より解剖せよ

やうやう天の下にもあぢきなう人もの惱みぐさになりていとほしたなき事多かれど忝なき御心ばへの類なきを頼にて交らひたまふ

文作

我等の進むべき途(國語體)

第四十一回

第四十一回

未將於此乎在而屑屑焉習儀以亟言善於禮不亦遠乎」君子謂叔侯於是乎知禮（左傳、昭公五年）
右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に「内の字句の解釋を記すべし」

三 讀 方

楓涇自慮永祥到滬後劃入戰爭區域九月初旬蘇閩皖各路軍隊雲集民房咸被佔住蘇議員葉理封商界吳荻帆及地方人士朝夕籌辦供應疲於奔命三十日某軍因不遂要求竟將葉議員毆辱地方秩序幾至無可維持嗣後軍隊多數開拔至石湖蕩六釣灣該處亦屬楓涇區域人民逃避一空其間田之遭蹂躪與父母兄弟妻子之離散者慘不忍聞幸經嘉善紅十字分會派船救護多數得以出險（時報）

右本紙に句讀返點送假名を附すべし（解釋不要）

四 設 問

左の問題に就いて知れる所を記せ

一 朱陸學說の異同

二 方苞（望溪） 王士禛（漁洋）

五 作 文

讀韓非子（三百字以内）（漢文）

（注意）一、設問の答案と作文とは各別紙に認

むべし

二、以上四時三十分間とす

三、答案は問題毎に別紙に認むべし

口 述 試 験

▲國語科（第一日の分）

いとをかしう哀に侍りしことは天曆の御時に清涼殿の御前の梅の木が枯れたりしかば求めさせたまひしに何がしのぬしの藏人にていますがりし時うけたまはりて若きものどもは見えしらしき人ちもとめよと宣ひしかばひと京まかりありきしかども侍らざりしに西の京のそこくなる家に色こくきたる木のやうだいうつくしきが侍りしをほりとりしかば家あるじの木にこれゆひつけても参れといはせたらうびしかばあるやうこそはとても参り候ひしをなにとて御覽じければ女の手にてかきて侍りける

勅なればいとまかしこし鶯のやどはととはいいかゞこたへむ

もからくなりにとこまやかに笑ふ

（第二日の分）

足利がその日の装束には朽葉の綾の直垂に赤革絨の鎧著て高角打つたる甲の緒をしめ金作の太刀を佩き二十四さしたる切符の矢を負ひ滋藤の弓持つて連錢葦毛なる馬に柏木にみづく打つたる金覆輪の鞍置きてぞ乗りたるける鎧踏張り立ち上り大音聲をあげて昔朝敵將門を亡して勳賞を蒙りて名を後代にあげたりし俵藤太秀郷に十代の後胤下野國の住人足利太郎俊綱か子又太郎忠綱生年十七歳に罷りなる斯様に無官無位なる者の宮に向ひまゐらせて弓を引き矢を放つことは天の恐少からず候へども但し弓も矢も冥加のほども平家の御上にこそ留り候はめ三位入道殿の御方にわれと思はん人々は寄りあいや見参せんとて平等院の門の内へ攻め入りし戦ひけり大將軍左兵衛督知盛これを見給ひて渡せや渡せと下知し給へば二萬八千餘騎皆打ち入れて渡すさばかり早き宇治川も馬や人にせかれて水は上にぞたへたる雜人原は馬の下手に取りつき取りつき渡るほどに膝より上をぬらさぬ者も多かりけり自ら外るゝ水には何もたまたま流れたり奚に伊賀伊勢兩國の官兵等馬笈押し破られて六百餘騎こそ流れたり萌黃威緋赤

第四十一回

威色々の鎧の浮きぬ沈みぬゆられけるは神無備山の紅葉葉の峯の嵐にさそはれて龍田川の秋の暮むせきにかゝりて流もあへぬに異ならじその中に緋威の鎧著たる武者三人綱代に流れかゝりて浮きぬ沈みぬゆられけるを伊豆守見給ひてかくぞ詠じ給ひける伊勢武者は皆ひをどしの鎧著て宇治の綱代にかゝりぬるかな

（第三日の分）

政よくし給ふとて筑紫の人のさながらしたがひ申したりけり例の大貳十年がほどにてのぼり給へりところ申し、かかの國におはし、ほど刀伊國のもの俄にこの國をうちとらんとやおもひけんきこえたりけるに筑紫にはかねての用意もなく大貳殿弓矢の本すゑをもしり給はねばいかとおぼしけれどやまと心かしこくおはする人にて筑後肥前肥後九國の人をおこさせ給ふをばさるものにて府の内につかうまつる人をさへおしとりて戦はしめ給ひければかやつが方のものども多く死にけるはさはいへど家たかくおはしますゆゑにいみじかりし事たひらけ給へりし殿ぞかしおほやけ大臣大納言にもなさせたまひぬべかりしかど御まじらひたえにたればただにはおはするにこそあめれ此の中にむねと射かへしたるものどもしるして公家に奏せられたりしか

第四十二回

ばみな費させ給ひにき種材は壹岐守になされ其子は
太宰監にこそはなさせ給へりしか此の種材かぞうは純
友うちたりしものゝすぢなり。

(第四日の分)

源大納言重光卿の女のはらに女君二所男君三所おはせ
しがこの君だちみなおとなびたまひて女君は后がねと
かしづき奉りしほどにさま／＼おぼし、事どもたがひ
てかく御なやみさへおもり給ひにければ此姫君達をす
ゑなめてなく／＼の給ひける年ごろ佛神にいみじくつ
かうまつりつれば何事もさりとともこそたのみ侍りつ
れどかくいふがひなきしにをさへせん事のかなしさか
くしらましかば君たちをこそ我れよりもさきにうせた
まひねと祈りおもふべかりけれおれのしなばいかなる
ふるまひありさまをし給はんすらんと思ふがかなしく
人わらはれになるべき事といひつゞけてなかせたまふ
あやしきありさまをもしたまはさなき世なりともうら
み聞えんするとぞ母北方にもなく／＼遺言し給ひける
かし

(第一日の分)

漢文科

内臣有違事後唐者上問莊宗英武定天下享國不久何也其

人言其故上撫髀嘆曰二十年來河戰爭取得天下不能用軍
法約束誠爲兒戲朕今撫養士卒不吝爵賞苟犯吾法惟有劍
耳五代以來藩鎮強盛上以漸削之罷諸節鎮專用儒臣分理
郡國以革節鎮之橫(十八史略)

(第二日の分)

河南程顥以是歲卒顥字伯淳弟頤字正叔兄弟皆從濂溪周
惇頤受學惇字茂叔博學力行聞道早遇事剛果有古人風爲
政嚴恕務盡理以名節自勵雅有高趣聽前草不除曰與自家
意思一般黃庭堅稱其人品甚高胸中灑落光風霽月有太極
圖通書行于世(十八史略)

(第三日の分)

元國子祭酒許衡乞罷許之衡居家勤儉強於自治公愛兼盡
不嚴而整閭門之內若朝廷然夫婦相待如賓凡喪葬一遵古
制不用佛老懷孟之間(○懷孟地名)化之旁舍有僧德公者
年百餘歲嘗謂其徒曰老僧苦行百年亦不能作佛徒爲不孝
之人羞見祖宗于地下但願小僧輩還俗以壽汝祖宗之嗣自
是不復度弟子蓋化之也(十八史略)

第四十二回 (大正十四年)

豫備試驗

五月八日施行の方

(第一日の方)

◎作 文 (口語體)

新 綠

◎復 文

自暴ノ者ハ與ニ言フアルベカラザルナリ自棄ノ者ハ與
ニ爲スアルベカラザルナリ言、禮義ヲ非ル之ヲ自暴ト
謂フナリ吾ガ身仁ニ居リ義ニ由ル能ハズ之ヲ自棄ト謂
フナリ(原文四十字)
人其ノ田ヲ舍テテ人ノ田ヲ芸ルヲ病ム人ニ求ムル所ノ
者重クシテ自ラ任スル所以ノ者輕シ(原文二十三字)

◎設 問

- (一) 左ノ學者ノ國語學上ニ於ル重要ナル著書ヲ舉ゲヨ
僧契仲 新井白石 富士谷成章 谷川士清 本居宣長
- (二) 左ノ文章ニ就キテ文ノ成分ヲ説明シ且文中ノ用言
ヲ拔出シテソノ活用表ヲ作レ
行く川の流は絶えずしてしかももとの水にあらず
よどみに浮ぶうたかたははかつ消えかつ結びて久し
く止ることなし
- (三) 左ノ事項ニ就キテ知レル所ヲ記セ
イ 三綱五常 ロ 四六文

(四) 左ノ文ヲ鑑賞批評セヨ

四月ももう末になつた。窓の前の樹々の葉は日毎

第四十二回

に濃厚な葉緑素を増して行く。日毎に芳烈な生々
した色を現して行く。

私には木の葉が無意識に日光を吸収し、無造作に
同化作用を營んで居るとは思はれない。ホラ、木
の葉と木の葉とが觸れ合つて、あんなに美しい、
華やかな音楽色彩とを生んでゐるではないか。そ
して葉一枚が如何に巧妙に複雑に出来てゐるだら
う、如何に統一的な、有機的な作用を營み續けて
ゐるだらう。

植物は無生物だなんて、そんな馬鹿らしいことは
信じられない。誰が木の葉の動くのを見て、どう
して人生の苦痛と小鳥の嗟嘆と、そしてかの野獸
の悲哀とに似てゐることを否定することが出来よ
うぞ。

見なさい。ホラ、葉はお互に手を伸ばし足を擴げ
て少しでも多くの日光を浴び、少しでも多く生長
しようとする努力してゐるぢやないか。人間社會には
かり生存競争の悲劇があるのではない。人間には
かり發明と創造とがあるのではない。

彼等には言語は無いかも知れない。しかし、どう
して彼等に意志が無いと斷言し得ようぞ。彼等は

新 綠

◎復 文

自暴ノ者ハ與ニ言フアルベカラザルナリ自棄ノ者ハ與
ニ爲スアルベカラザルナリ言、禮義ヲ非ル之ヲ自暴ト
謂フナリ吾ガ身仁ニ居リ義ニ由ル能ハズ之ヲ自棄ト謂
フナリ(原文四十字)
人其ノ田ヲ舍テテ人ノ田ヲ芸ルヲ病ム人ニ求ムル所ノ
者重クシテ自ラ任スル所以ノ者輕シ(原文二十三字)

◎設 問

- (一) 左ノ學者ノ國語學上ニ於ル重要ナル著書ヲ舉ゲヨ
僧契仲 新井白石 富士谷成章 谷川士清 本居宣長
- (二) 左ノ文章ニ就キテ文ノ成分ヲ説明シ且文中ノ用言
ヲ拔出シテソノ活用表ヲ作レ
行く川の流は絶えずしてしかももとの水にあらず
よどみに浮ぶうたかたははかつ消えかつ結びて久し
く止ることなし
- (三) 左ノ事項ニ就キテ知レル所ヲ記セ
イ 三綱五常 ロ 四六文

(四) 左ノ文ヲ鑑賞批評セヨ

四月ももう末になつた。窓の前の樹々の葉は日毎

第四十二回

に濃厚な葉緑素を増して行く。日毎に芳烈な生々
した色を現して行く。

私には木の葉が無意識に日光を吸収し、無造作に
同化作用を營んで居るとは思はれない。ホラ、木
の葉と木の葉とが觸れ合つて、あんなに美しい、
華やかな音楽色彩とを生んでゐるではないか。そ
して葉一枚が如何に巧妙に複雑に出来てゐるだら
う、如何に統一的な、有機的な作用を營み續けて
ゐるだらう。

植物は無生物だなんて、そんな馬鹿らしいことは
信じられない。誰が木の葉の動くのを見て、どう
して人生の苦痛と小鳥の嗟嘆と、そしてかの野獸
の悲哀とに似てゐることを否定することが出来よ
うぞ。

見なさい。ホラ、葉はお互に手を伸ばし足を擴げ
て少しでも多くの日光を浴び、少しでも多く生長
しようとする努力してゐるぢやないか。人間社會には
かり生存競争の悲劇があるのではない。人間には
かり發明と創造とがあるのではない。

彼等には言語は無いかも知れない。しかし、どう
して彼等に意志が無いと斷言し得ようぞ。彼等は

第四十二回

沈黙の間に格闘を行ひ、狙撃をやつてゐるのである。

彼等は努力といふ寶石をもつてゐる。そして向上と努力とは或程度まで随伴するものだと思つてゐる。努力は常に清新を齎し變化を生むものだと思つてゐる。

不漸の努力に屈託せざる木の葉よ。

私はお前のひるがへるのを見てゐながら、お前がいつまでも人間と同じ事をやつてゐるのだと思つてゐる。(作文三十三講)

(右四時間三十分)

(第二日の分)

◎解 釋

(一) ついでなき事には侍れど物怪と人の申し、事どものさせる事なくてやみにしはさきの一條院の御即位の日大極殿の御装束すとて人々集りたるに高御座のうちに髪つきたるもの、頭の血うちつきたるを見つげたりけるあさましくいかゞすべきと行事思ひあつかひてかばかりの事をかくすべきかはとて大入道殿にかゝる事なむ候ふと何がしのぬし、て申させけるをいと眠たげなら御氣色にもてなき

せ給ひて物も仰せられねばもし聞しめさぬにやとて又御氣色給はれどうちねばらせ給ひてなほ御答なしいと怪しくさまでおほとのごもり入りなるとは見えさせ給はぬにかなればかくておはしますぞと思ひてとはかり御前に候ふにうち驚かせ給ふさまにて御装束は果てぬるにやと仰せらるゝにきかせはぬやうにてあらむと思召しけるにこそと心得て立ちたまひにげりげにかばかりの祝の御事また今日なりとまらむも忌々しきにやをらひきかくしてあるべかりける事をごゝろぎもなく申すものかなといかに思召しつらむと後にぞかの殿もいみじく悔やしがり給ひける。さる事なりしかな。(大鏡)

(二) 水の面におふるさつきの浮草のうきことあれや根を絶えて來ぬ(友だちの久しうまうでござりけるもとによみて遣しける、凡河内躬恒) 春深くたづねいるさの山の端にはの見し雲の色ぞのこれる(百首の歌奉りし時、藤原良經)

(右四時三十分)

一 漢文讀方及び解釋

堯舜帥天下以仁而民從之桀紂帥天下以暴而民從之其所

令反其所好而民不從是故君子有諸己而后求諸人無諸己而后非諸人所藏乎身不恕而能喻諸人者末之有也(大學) 右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に全文釋義を記すべし

(右四時三十分間)

二 漢文讀方及び解釋

孟子曰霸者之民驩虞如也王者之民皞皞如也殺之而不怨利之而不庸民日遷善而不知爲之者夫君子所過者化所存者神上下與天地同流豈曰小補之哉(孟子、盡心) 右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に全文釋義を記すべし

(右四時三十分間)

三 漢文讀方及び解釋

范文正公爲參知政事時告諸子曰『吾貪時與汝母養吾親汝母躬執爨而吾親甘旨未嘗充也今而得厚祿欲以養親親不在矣汝母亦已蚤世吾所最恨者忍令若曹享富貴之樂也』吾吳中宗族甚衆於吾固有親疎也然吾祖宗視之則均是子孫固無親疎也苟祖宗之意無親疎則饑寒者吾安得不恤也自祖宗來積德百餘年而始發於吾得至大官若獨享富貴而不恤宗族異日何以見祖宗於地下今何飲入家廟乎

(小學、外篇、嘉言)

第四十二回

本 試 驗

▲國 語 科

解 釋

一、宮に始めて参りたるころ物はづかしき事數知らず涙も落ちぬべければ夜々まゐりて三尺の御兀帳のうしろにさぶらうに繪など取り出でて見させ給ふだに手も得さし得づまじうわりなしこれはとありかれはかゝりなどのたまはするに高坏に参りたるおほとなぶらなれば髪のスチなどもなかなか晝よりはけさう

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に『内の字句を解釋すべし』 (右四時三十分間)

四 漢文讀方及び解釋

誰家玉笛暗飛聲散入春風滿洛城此夜曲中聞折柳何人不起故園城情(李白春夜洛城聞笛) 獨在異鄉爲異客每逢佳節倍思親遙知兄弟登高處徧插茱萸少一人(王維九月九日憶山東兄弟) 右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に字解全文釋義を記すべし

(右四時三十分間)

第四十二回

に見えてまばゆけれど念じて見などすいとつめたき
頃なればさし出ださせ給へる御手のわづかに見ゆる
いみじうにほひたる薄紅梅なるは限なくめでたしと
見知らぬさとび心ちにはいかゞはかゝる人こそ世に
おはしましけれと驚かる、までぞまもり参らする曉
にはとくなど急がる、葛城の神もしばしなど仰せら
るるをいかですちかひても御覽せられむとて臥した
れば御格子もまゐらず女官参りてこれはなたせ給へ
といふを女房聞きてはなつを待てなど仰せらるれば
笑もてかへりぬ(枕草子)

二、わがさかりまたをちめやもほとほとに寧樂のみや
こを見ずかなりなむ(帥大伴卿五首の一)
家さかりいますわざをもとどめかね山がくりつれ心
どもなし(悲緒未息更作歌五首の一)
大伴のなにおふぎおびてよろづよにたのみし心い
づくかよせむ(十六年甲申春二月安積皇子薨之時内
舍人大伴宿禰家持作家六首の一)

設 問

- 一、源氏物語の文章の特色を述べよ
- 二、平家物語太平記を比較評論せよ
- 三、國語のアクセントに就いて知るところを述べよ

作 文(文語體)

わが國文研究の態度
(以上四時間半)

▲漢文科

一 讀方及び解釋

初獻公使荀息傳爰齊公疾召之日以是藐諸孤辱在大夫其
若之何稽首而對曰臣竭其股肱之力加之以忠貞其濟君之
靈也不濟則以死繼之公曰何謂忠貞對曰公家之利知無不
爲忠也送往事居耦俱無猜貞也及里克將殺奚齊先告荀息
曰三怨將作秦晉輔之子將何如荀息曰將死之里克曰無益
也荀叔曰吾與先君言矣不可以貳能欲復言而愛身乎雖無
益也將焉辭之且人之欲善誰不如我我欲無貳而能謂人已
乎

(左傳僖公九年)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を記すべ
し
(以上四時間半)

二 讀方及び解釋

今人主不合參驗而行誅不待見功而爵祿故法術之士安能
蒙死亡而進其說姦邪之臣安肯乘利而退其身故主上愈卑
私門益尊夫越雖國富兵疆中國之主皆知無益於己也曰非
吾所得制也今有國者雖地廣人衆然而人主壅蔽大臣專權

是國爲越也知不類越而不知不類其國不察其類者也

(韓非子 孤憤)

二、桐城派の文章

五作

文(漢文)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を記すべ
し
(以上四時間半)

智仁勇說(三百字以内)
(以上四時間半)

▲國語科

(第一日分)

一、近日之無線電飛行機事物之至精妙者也美國之一百
二十餘萬里鐵路與夫蘇伊士巴拿馬兩運河工程之至浩
大者也然於科學之原理既知四週之情勢皆悉由工師籌
定計畫按計畫而實行之已爲無難之事矣此事實俱在彰
彰可考吾國人當可一按而知也(建國方略)

春の始はをしなべて程々につけ乾る家々の身のいはひ
など心ゆき誇らしげなるに正月の五日より内の上(四
條天皇)例ならぬ御事にて七日の節會にも御帳にもつ
かせたまねばいとさうくしく人々思しあへるに九日
の曉かくれさせたまひぬとての、しりあへるいとあさ
ましとも言ふばかりなし皆人呆れ惑ひてなか、涙だ
に出でこす女御もいまだ童遊の御さまにて何心なくむ
つれ聞えさせたまへるにいとうたていみじければうち
しめり屈じて居たまへると幼げにらうたし大殿(道
家)の御心のうち思へやるべし御兄の若君も殿上した
まへるた、御門のおなじ御程にてさわがしきまでの御
遊のみにて明しくらさせたまひけるにかいひをみて群
りわつ、鼻うちかみ泣く人より外はなしかくのみあさ
ましき御事どものうち續きぬるはいかにもかの遠き浦
々にて沈み果てさせたまひにし御歎きどものつもりに

四 設 問

左の問題に就いて知れる所を記せ

- 一、漢初の黄老

第四十二回

第四十二回

やとぞ世の人もさゝめきける
(第二日分)

なりのぼれどももとよりさるべき筋ならぬは世の人の
思へることさはいへどなほ異なり又もとはやむごと
なき筋なれど世に經るたづきすくなく時世うつろひて
おほへ衰へぬれば心は心として事足らずわろびたる事
ども出で來るわざなんめればとりどりにことほりて中
の品にぞ置くべき受領といひて人の國の事にかゝづら
ひいとなみて品定まりたる中にも又ささみ／＼ありて
中の品のけしうはあらぬえり出づべきころほひなりな
ま／＼の上達部よりも非參議の三四位どもの世のおぼ
えくちをしからずもとの根さし賤しからぬが安らかに
身をもてなしふるまへたるいとかはらかなりや家の内
に足らぬ事などははた無かむぬるき／＼に省かすまばゆ
きまでもてかしづけるむすめなどの貶しめ難くおひい
づるも數多あるべし

(第二日分)

大塔法親王楠木正成などは猶同じ心にて世を傾けむ謀
をみめぐらすべし正成は金剛山千早といふところにい
かめしき城をこしらへてえもいはす猛きものども多く
籠り居たりさて大塔宮の令旨とて國々の兵をかたらひ

ければ世に恨ある者などこゝかしこに隠るへばみてを
るかざりはあつまり集ひけり宮は熊野にもおはしまし
つゝさりぬべき隈々にはよく紛れものしたまひてたけ
き御ありさまをのみ顯したまへばいとかしこき大將軍
にていますべしとて附き隨ひきこゆるものいと多くな
り行きければ六波羅にも東にもいと安からぬ事ともし
てさわざてまづかの千早を攻め崩すべしと云へばつは
ものなど上り重なるときこゆ正成は聖徳太子の御墓の
前を軍のそのにして出で合ひ駈けひき寄せつ返しつ潮
のみちひく如くにて年はただ暮れ果てぬれば春になり
て事どもあるべしなといひしろふもいとむづかしう心
ゆるびなき世のありさまなり

(第四日分)

暫しは夢かとのみたどられしをやう／＼思ひしづまる
にしもさむべき方なく堪へ難きはいかにすべきかとも
問ひあはすべき人だになきを忍びては參りたまひなむ
や若宮のいとおほつかなく露けき中にすぐしたまふも
心苦しう思さるゝを疾く參りたまへなどはか／＼しう
ものたまはせやらすむせかへらせたまひつゝかいは人
も心弱く見奉るらむと思しつゝまぬにしもあらぬ御氣

第四十三回

色の心苦しさにうけたまはりも果てぬやうにてなむま
かで侍りぬるとて御文たてまつる日も見え侍らぬにか
く畏き仰せごとを光にてなむとて見たまふほどへばす
こしうち紛る事もやと待ちすごす月日に添へていと
忍び難はぬりなきわざになむいはけなき人もいかにと
思ひやりつゝもろともにはぐくまぬおほつかなさを今
は猶昔のかたみにすらすらへてものしたまへるとこまや
かに書かせたまへり
宮城野の露吹きむすぶ風の音は小萩かもとを思ひ
こそやれ
とあれど見たまひはてす

▲漢文科

(第一日分)

呂叔簡曰。聖人所以田共於人者。非謂其無所不知。無
所不能也。謂其不知而能問。不能而能學也。若恥不知
不能。而掩護以自欺。強辨以求勝。欲掠無不能之名。
而自棄于不知不能之寔。豈欲決勝于聖人也歟。噫聖人
不恥不知不能。此所以無不知無不能也。

(第二日分)

羅大經曰。真西山論菜曰。百姓不可一日有此色。士大
夫不可百不知此味。余謂百姓之有此色。正緣士大夫不

知此味。若自一日命以上。至于公卿。皆得鹹菜根之人。
則當必知其職分之所任矣。百姓何愁無飯喫。

(第二日分)

熙寧三年四月。朝廷初行新法。所遣使者皆新進少年。
遇事國生。天下騷然。淵縣始不可爲矣。康節先生問居
林下。門生故舊。仕官四方者。皆欲投効而歸。以書問
先生。先生答曰。正賢者所當盡力之時。新法固嚴。能
寬一分。則民受一分之賜矣。投効而去何益。嗚呼先生
深達世務。不以沾激取虛名如此。謂先生爲隱非也。

第四十三回 (大正十四年)

豫備試驗

(第一日分)

設問

一、左の文章中の主語とそれに對する述語を指示し次
ぎに動詞を拔出してその活用表を作れ

年頃思ひつる事果し侍りぬ聞きしにも過ぎて尊

くこそおはしけれをも參りたる人毎に山へ登り

しは何事かありけむゆかしかりしかど神へ參る

こそ本意なれと思ひて山までは見す

二、平安時代の著名なる物語及び日記の書名を記せ

第四十三回

三、左に就きて知れる所を記せ

(イ)瀛洛關閩の學

(ロ)建安の七子

四、左の文章に就きて傍線を附したる語を説明し且つ文中に表はれたる芭蕉の心持を述べよ

二十五日に京都の清水にあつた聖徳太子作の千手觀音を移して本尊にしたと云ふ新清水寺の茶店にこの地の門人泥足の發起で俳諧を催したこゝは高臺で難波の町を眼下に見て秋の澄んだ氣は遠く淡路島をも望ませて泥足支考遊力之道車庸洒堂哇止惟然龜柳などすべて連衆は十二人であつた發句はもとより翁のものと云ふことであつた芭蕉は

此道や行く人なしに秋の暮と云ふ句をもつて居たこれは今の彼のそのまゝの胸中であつた『此道』とは何ぞと問はれても彼自らこれに答へる術を知らなかつた『此道』と云ふより仕方がない句の表では薄の動いてる菊はちほち咲いてる細い松の所々に嘯いてる道ではあるしかし實は薄無き菊無き松無き土も無き空も無き一切無きとして又一切のある『此道』

であるのだ『此道』を自分はたつた一人進んで行くのだ二千餘人の俳弟子それは今は自分と離れたものであつた『此道』はもとよりもはや俳諧の道などいふ名を附けるべき道では無い寂を味つた寂に酔うた寂に遊んだしかし『此道』を獨行り寂しさは味ふとか遊ぶとかいふものでは無かつた戦慄であつた此道を行くことが大歡喜である境には芭蕉はまだ到らなかつた

この句を立句に出さうかとしたが芭蕉はこれを紙に書いて見て自らの句より噴く氷のやうな氣に耐へられなかつたをして又人にも解されまいと思つたこの句は秘すべき句で危険な句だと思つた無理に引きおろして土の道にしてそして通行人をあしらつて見たさすがに通行人の姿をあしらひはしなかつた

人聲や此道歸る秋の暮

といふ句にして見たこれを立句に提供しようと思つたが何だか細工から來た疚しさもあつた試みに兩句出して見た

『どちらが宜からうか』

と彼は近くに居た支考を見て云つた

支考は小さいが鋭い目で二句を暫く見詰めた「此道の方で御座いますな獨歩この後に従ひまつる者は誰もありませんまいな……此道や……行く人無しに……秋の暮」

支考は二三度なほこの句を誦してみたわかつたかなと一旦は芭蕉も驚いたがやはりわしの胸の通りにはわからぬのだと思つた三十歳を一つ出たゞけの支考にはまだこれはわからぬ筈しかしそのうちにはわかるかも知れぬよしわからずとも支考もわからず一切の俳弟子にわからずとも後世にわかる人があらう

『それでは此道の方にしよう』かう云つて芭蕉はしばらく考へてこれに前書を付けて執筆に書かせた前書は『所思』とあつた芭蕉は後世を對象にした後世の爲にこの二字を附けて解する者を地下に待つ心で居た

『所思此道や行く人無しに秋の暮』と執筆は読み上げた

『峽の鳥の木にかゝる鳶』といふ泥足の脇が据ゑられたかうして『此道』は薄の動いてる菊のほちほち咲いてる細い松の

第四十三回

晩

秋

復 文

作 文 (口語體)

(一)士は以て弘毅ならざるべからず(論語原文七字)

(二)人能く道を弘む道人を弘むるにあらず(同上原文八字)

(三)富と貴とは是れ人の欲する所なり其の道を以て之を得ざれば處らざるなり(同上原文八字)

(第二日の分)

解 釋

一、およそみめよく品高けれども怪しくいやしきが能あるに立ち並ぶをりはその品そのみめも必ず思ひけたるゝものなりたとへば花のあたりのときは木はうち見るにたとしへなくさめたれども春の日數くれ峯の嵐過ぎたる後に緑ばかり残りてかりの句

第四十三回

留まらざるが如しされば桃李は一旦の榮花なり松樹は千年の貞木なりといへりいみじくありて身の能なきが一人あるを見るに能あるを思ひ出づるならひなり況や能に並ぶ折のけぢめをやいかに況や同じ様なるが一人は能ありて一人は能なきをや中にも世の中の變り行くさま昔よりは次第に衰へもて行くにつけつゝ道々の藝能も又父祖には及び難き習なれば藍よりも青からむことは誠に稀なりといへども形の如くなりとも箕裘の業をつがざらむくちをしかりぬべし。

二、すみよしと螢はつぐともながるゐすなひとわすれ草生ふといふなり(あひしれりける人の住吉にまうでけるに)よみてつかはしける千生忠峰)あすか川ふちにもあらぬわがやどもせにかはりゆくものにぞありけり(家をうりてよめる 伊勢)

一 漢文讀方及び解釋

(一)子曰不患無位患所以立不患莫己知求為可知也

(論語)

(二)子夏曰日知其所亡月無忘其所能可謂好學也已矣

(同上)

(三)孟子曰教亦多術矣予不屑之教誨也者是亦教誨之而已矣(孟子) 右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を記すべし

二 漢文讀方及び解釋

象犀珠玉怪珍之物有悅於人之耳目而不適於用金石草木絲麻五穀六材有適於用而用之則弊取之則竭悅於人之耳目而適於用之而不弊取之而不竭賢不肖之所得各因其才仁智之所見各隨其分才分不同而求無不獲者惟書乎

(蘇軾李氏山房藏書記)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を記すべし

三 漢文讀方可び解釋

子房未虎嘯破産不爲家滄海得壯士椎秦博浪沙報韓雖不成天地皆震動潛匿遊下邳豈曰非智勇我來圯橋上懷古欽英風唯見碧水流曾無黃石公嘆息此人去蕭條徐泗空

(李白經下邳圯橋懷張子房)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を記すべし

本 試 験

▲ 國 語 科

解 釋

一、廣陵といふ手をあるかぎり弾きすましたまへるにかの岡邊の家も松の響波の音にあひて心ばせある若き人は身にしてみ思ふべかめり何とも聞きわくまじきこのもかのもしわぶる人どもゝすゝろはしくて演風をひきありく入道もえ堪へて供養法たゆみて急ぎ参れりさらに背きにし世の中も取り返し思ひ出でぬべく侍る後の世に願ひ侍る所のありさまも思ひたまへらるゝよの有様かなとなくゝめできこゆわが御心にも折々の御あそびその人かの人かの人か琴笛もしは聲の出でしさま時々につけて世にめでられたまひしありさま帝よりはじめ奉りてもてかしづきあがめられ奉りたまひしを人の上もゆが御身の有様も思し出でられて夢のこゝちしたまふまゝにかき鳴らしたまへる聲も心すこきこゆる人は涙も留めあへず岡邊に琵琶箏の琴取りにやりて入道琵琶の法師になりていとをかしうめづらしき手一つ二つ弾き出でたり箏の御琴まわりたれば少し弾きたまふもさまゝいみじ

第四十三回

うのみ思ひきこえたりいとさしもきこえぬ物の音だに折からこそはまさるものなるを遙々と物の滞なき海面なるになかゝ春秋の花紅葉の盛なるよりはたゞそこはかとなくしげれる陰どもなまめかしきに水鶏のうちたゞきたるはたが門さしてと哀におぼゆ

(源氏物語)

二、たまきはるうちのかぎりは平らげく安くもあらむをよの中の憂けくつらけくいと痛き疵には鹹鹽を灌ぐちふがごとくますますも重き馬荷にうはにうつといふことのごと老いにてあるわが身の上は病をら加へてあれば晝はも歎かひくらし夜はもいさづきあかし年長く病みしわれば月かさねうれへさまよひことゝは死なゝとおもへどさばへなす騒ぐこどもをうつてゝは死にはしらす見つゝあれば心はもえぬかにかくに思ひわづらひねのみしなかくゆ

(萬葉集)

設 問

- 一、左の事項に就いて述べよ 風俗歌 宴曲 時代物 幸若舞 旋頭歌
- 二、徳川文學に表はれたる武家精神に就いて述べよ
- 三、現代文(文語體)の文法と中古文の文法との相違

第四十三回

せる主要點を擧げよ

作 文 (文語體)

運動競技に就いての感想

(注意) 一、解釋設問作文を通じて四時三十分とす

二、答案は問題毎に別紙に認むべし

▲漢文科

一讀方及び解釋

晉侯始入而教其民二年欲用之子犯曰民未知義未安其居於是乎出定襄王入務利民懷生矣將用之子犯曰未知信未宜其用於是乎伐原以示之信民易資者不求豐焉明徵其辭公曰可矣乎子犯曰民未知禮未生其恭於是乎大蒐以示之禮作執秩以正其官民聽不惑而後用之出穀成釋宋圍一戰而霸文之教也(左傳僖廿七年)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を記すべし

二讀方及び解釋

某每讀詩至鴟鴞讀書至君夷常竊悲周公之不遇及觀史見孔子厄於陳蔡之間而絃歌之聲不絕顏淵仲由之徒相與問答夫子曰匪兕匪虎彼曠野吾道非耶吾何爲於此顏淵曰夫子之道至大故天下莫能容雖然不容何病不容然後見君

子夫子油然而笑曰向使爾多財吾爲爾宰夫天下雖不能容而其徒自足以相樂如此乃今知周公之富貴有不如夫子之貧賤(唐宋八大家文蘇軾上梅直講書)

右本紙に句讀返點送假名を附し別紙に解釋を書すべし

三讀方

孔子屢次自白。說自己沒有別的過人之處。不過是「學而不厭。誨人不倦。」他的門生公西華聽了這兩句話。便讚歎道。『正惟弟子不能及也。』我們從小就讀這書章。都以為兩句平淡無奇的話。何以見得便是一般人所不能及乎。我年來積些經驗把這書章愈讀愈有味。覺得學不難。不厭卻難誨人不難。不倦卻難。孔子特別過人處。的確就在這兩句話。

右本紙に返點送假名を附すべし(解釋)するに及ばず

四設問

左の問題に就いて知れる所を記せ

一、揚子法言と文中子

二、絶律排律古詩の形式上の區別

五作 文(漢文)

有文事者必有武備說(三百字以内)

地理科

第廿六回 大正元年

豫備試驗 (四時間)

地理科

- 一、ゼオイド(Geoid)トハ何ゾ
 - 二、斷層山脈トハ何ゾヤ適例ヲ擧ゲテ之ヲ説明セヨ
 - 三、氷河ノ會テ存在セシ所ハ何ニヨリ之ヲ知ルカ
 - 四、インドノ雨量分布圖ヲ畫キ併セテ其降水狀態ヲ説明セヨ
 - 五、現代ニ於ケル主要ナル移民ノ移出國ト移入國トニツキテ述ベヨ
 - 六、スウイスノ産業ニ就キテ述ベヨ
 - 七、太平洋ニ於ケル主要ナル産物ノ分布ヲ述ベヨ
 - 八、臺灣ニ於ケル主要ナル産物ノ分布ヲ述ベヨ
 - 九、左ノ地ニ就キテ知ル所ヲ記セ
- 本溪湖 無錫 日立鐵山 チモン(Timor)
 ユラ山脈(Jura Mountains) ガラバゴス諸島
 (Gahpagos Islands) アスマラ(Asmara)
 ヘルフアスト(Blasé) ホタン(Khotan) 4
 クマント灣(Mc. Murdo Soune)

第廿六回

(注意) 第二種學校教員志願者ハ第一問ト第五問トハ答フルヲ要セズ

本試驗 (四時間)

筆記

- 一、地形ヲ測定スル方法ノ梗概ヲ問フ
 - 二、箱根山ノ地圖ト截斷面トヲ畫キ火山ニ關スル事項ヲ説明セヨ
 - 三、海底ノ形相ヲ述ベヨ
 - 四、颶風トハ何ゾヤ
 - 五、北大西洋ニ於ケル航海業ノ現狀ニツキテ記セ
 - 六、スラブ種族ノ地理的分布ヲ問フ
 - 七、國際貿易ニ於ケルオランダノ地位ヲ問フ
 - 八、朝鮮ノ礦業ニツキテ記セ
 - 九、左ノ地ニツキテ知ル所ヲ記セ
- 1 スミルナ(Smyrna) 2 アスマン(Assuan)
 3 サリナクルス(Salina Cruz) 4 エマリツ(Barritz) 5 ダーリング(Darling)
 6 キラウエア(Klanca) 7 ヲウイニング(Winnipeg) 8 シロン(Cholon) 9 科布

第廿七回

多 10 龍井村
(注意) 第二種學校教員志願者ハ第四問ト第七問トニ答フルヲ要セズ

豫備試験 (四時間)

- 一 ボンガリアノ種族分布圖ヲ示シ之ヲ説明セシム
- 二 左ノ寫真圖ヲ示シ之ヲ説明セシメ併テ其ノ教授用ノ目的ヲ問フ
 - 林板 鳳梨 トルコノ回教寺院 ロシアノ農場 琉球ノ墓地 氷河ノ侵蝕ニヨリテ成レルU字狀ノ名 イスパニアノ高原 オーストラリア土人 安南人 ココシヤ製鋼工場 造船臺
- 三 地層ノ撓曲ヲ示ス模型ヲ説明セシメ併テ其ノ教授用ノ目的ヲ問フ
- 四 ブリズマチツク、コンバスマヲ示シ其ノ使用法ヲ問フ
- 五 風蝕ニヨリテ成レル三稜石ヲ示シ之ヲ説明セシム
- 六 左ノ標本ヲ示シテ説明セシム
 - ナラ材 ドロ材 オンコ材 有田燒 瀬戸燒

- 一 太陽曆ニ就キテ記セ
- 二 海流ヲ調査スル方法ニ就キテ記セ
- 三 アルプ及ユラ山脈ヲ例トシテ皺曲山脈ヲ説明セ
- 四 南緯五十度以南ノ地圖ヲ畫キ其地理ヲ説明セ
- 五 測高寒暖計ニヨリテ土地ノ高低ヲ測ル方法ヲ述ベ
- 六 地形ノ生産物分布ニ及ボス影響ヲ述ベ
- 七 本邦ノ糖業ニ就キテ記セ
- 八 バルカン半島ノ住民ニ就キテ記セ
- 九 左ノ地ニ就キテ知ル所ヲ記セ
 - 1 1/2 エムデン (Enden) 2 ブリンズルバ
 - 1 ト (Prince Rupert) 3 ウーシー (Onchy)
 - 4 ウィットウオーターズランド (Witwatersrand)
 - 5 バラナ川 (Parana) 6 マナル海 (Manar)
 - 7 ノルフォーク島 (Norfolk) 8 會事
 - 9 多來加湖 10 青島

(注意) 第四問ノ地圖ハ別紙西洋紙ニ認ムベシ

本 試 験 (四時間)

- 一 北海道近海ニ起ル濃霧ノ原因ヲ説明セ
- 二 阿武隈山脈ノ地形ヲ説明セ
- 三 エーダ (Aegaeu) 海諸島ノ成因ヲ問フ
- 四 太平洋ニ於ケル深處ノ分布ヲ説明セ
- 五 ブラキストン線トハ何ゾヤ
- 六 メキシコノ住民ニ就キテ記セ
- 七 インド帝國統治ノ現狀ニ就キテ記セ
- 八 オランダ領インドノ産業ニ就キテ記セ
- 九 左ノ地ニ就キテ知ル處ヲ記セ
 - シムラ (Simla) ザンシバル (Zanzibar) ヲバ
 - グダド (Bagdad) シトカ (Sikka) ユーア湖
 - (Eyre) ヘルバ川 (Elbe) ユングフラウ山
 - (Yudgrau) 沅江 咸興 洮南府

第廿八回 (大正三年)

豫備試験 (四時間)

- 一 本邦ニ襲來スル低氣壓ノ徑路ヲ問フ
- 二 懸谷 Hanging valley トハ何ゾヤ其成因ヲ問フ
- 三 世界ニ於ケル米ノ供給地ト需要地トヲ舉ゲ其ノ關係ニツキテ述ベ

第廿八回

- 四 海水溫度ノ垂直的及水平的變化ヲ問フ
- 五 バナマ運河ノ地圖ヲ描キ之ヲ説明セ
- 六 風蝕作用ヲ説明セ
- 七 ドイツ帝國ノ政體ヲ問フ
- 八 左ノ語ヲ解釋セ
- 九 山 岡 谷 峠 峯 流域
 - 左ノ地ニツキテ知ル所ヲ記セ
 - 沖大東島 多倫諾爾 (トロンノール) 萍鄉
 - メシユッド (Mesled) ブレスバ湖 (L'epse)
 - シエルブール (Cherbourg) ブリンスバル
 - ト港 Prince Rupert) ホボカテントル (Popo-catepetl) ノアンニンク島 (Fanning) ミネ
 - アポリス (Minneapolis)

- 一 地球ノ公轉ニ關スルケブレルノ法則ヲ説明セ
- 二 山東省ノ地形ヲ説明セ
- 三 日本近海ノ流水ニ就キテ記セ
- 四 流水ノ侵蝕作用ト氷河ノ侵蝕作用トノ異同ヲ述ベ
- 五 イギリスノ植民地ヲ例トシテ植民地ヲ政治的方面及經濟的方面ヨリ分類セ

第廿九回

- 六 臺灣ノ糖業ニ就キテ述ベヨ
- 七 グルマニ(チユートン)種族ノ分布ヲ述ベヨ
- 八 左ノ語ヲ解釋セヨ
メサ (Mesu) タイガ (Taiga) ビユート (Bute) ワヂ (Wadi) サバンナ (Savanna)
- 九 左ノ地ニ就キ知ル所ヲ記セ
無錫 運天港 遂安 チェリアピンスク (Tsoeljabinsk) オスタンド (Ostende) バーモ (Banno) クトラ (Kocla) ワイフイシ灣 (Walfsch Bay) ミッドウエイ島 (Midway Islands) サクラメント (Sacramento)
- 七 世界ニ於ケル小麥ノ需要地ト供給地トニツキテ述ベヨ
- 八 楊子江水系ノ地圖ヲ描キ其沿岸ノ開港場ヲ記入セヨ
- 九 左ノ地ニツキテ知ル所ヲ記セ
石花海(セノウミ) 赤峯 徐家漚 ラバウル (Rabaul) パラ (Para) ヘリゴランド (Heligoland) ナウル (Nauru) トリニダッド (Trinidad) キラウエニア (Kilauea) スベチャ (Spezia) 本 試 験 (四時間)
- 一 横濱ヨリサンフランシスコニ至ル航路ニ於テ日附上如何ナル變化アルカヲ述ベ其理由ヲ説明セヨ
- 二 近畿地方ノ盆地ヲ説明セヨ
- 三 熔岩臺地トハ何ゾヤ、世界ニ於ケル主要ナルモノヲ説明セヨ
- 四 太平洋底ヲ構成スル主ナル沈積物ヲ説明セヨ
- 五 支那移民ノ分布ニツキテ記セ
- 六 北アメリカヲ横断スル鐵道線路ヲ圖示セヨ
- 七 修學旅行ニ際シ左ノ地ニ臨ミタルトキハ如何ナキテ述ベヨ

第廿九回 (大正四年)

豫備試験 (四時間)

- 一 太陽ニヨリテ緯度ヲ測定スル方法ヲ述ベヨ
- 二 風成岩層ト水成岩層トハ如何ニ之ヲ區別スルカ
- 三 乾燥地帯ニ於ケル地理的輪廻ヲ説明セヨ
- 四 日本海流トハ何ゾヤ之ヲ詳説セヨ
- 五 ドイツ國ノ海外ニ有セシ領土ヲ舉グ其現状ニツキテ述ベヨ
- 六 東京ロンドン間ノ電信線路ノ系統ヲ説明セヨ

第卅回 (大正五年)

豫備試験 (四時間)

- ル事項ニツキテ實地示教スベキカ
- ハ 波痕ヲ有スル粘板岩
- ロ 熔岩鍾乳
- イ 砂丘
- カ 高山
- ク 港
- ニ 温泉導水管ノ沈澱物
- キ 風蝕作用ヲ受ケタル王髑髏
- コ 瓢形ノ結核
- ハ 左ノ地ニツキテ知ル所ヲ記セ
- 九 次ノ寫眞ヲ示シ之ヲ説明セシム
イ 三宅島ノ熔岩流
- ロ 臺灣泥火山
- ハ 秋吉臺石灰洞窟内ノ灰華段丘
- ニ マニラ麻ノ纖維採取
- 十 師範學校、中學校、高等女學校ニ於ケル地理教科教授ノ方針ニツキ各別ニ之ヲ述ベシム
- 一 三種ノ地形圖ヲ示シノ異同ヲ問ヒ并ニ地形圖ニ用フル二三ノ記載ヲ説明セシム
- 二 地形圖ニ於テ水準測量ノ大意ヲ問フ
- 三 地形圖及地球儀ニ就テ方位ノ讀方ヲ問フ
- 四 地球圖ヨリ「カルスト」砂丘、横谷、村落ノ形式ヲ指摘セシム
- 五 丘陵平野ヲ貫ク河流ヲ示シタル寫眞ニツキテ説明セシム
- 六 地圖上ノ距離ヲ測ル法ヲ曲線計ト兩脚器ヲ以テ測ラシム
- 七 深海用寒暖計ヲ示シ之ヲ説明セシム
- 八 次ノ標本ヲ示シ之ヲ説明セシム

第卅回

六、植民地トシテノ北海道臺灣朝鮮ヲ比較シ其特色ヲ擧ゲヨ

七、ラテンアメリカ諸國ノ政體及住民ノ特性ヲ述ベヨ

八、現時ニ於ケル東京ロンドン間ノ交通線路ニツキテ述ベヨ

九、左ノ地ニツキテ知ル所ヲ記セ

- △太沽 崇明島 英虞灣 アルハンゲルス
- ク (Arkhangelsk) サンダカン (Sandakan)
- イーブル (Ypres) ビーシットサウント Puget Sound
- ヱクトリヤ瀧 (Victoria Falls) ラン
- ヱノ (Denver) ドッガーバンク (Dagger Bank)

本 試 験 (四時間)

八 南アフリカ聯邦ノ政治組織ヲ問フ

九 左ノ地ニ就キテ知ル所ヲ記セ

真縫

自流井

- △モンバサ Mombasa
- エルゼルム Erzerum
- メナド Menado
- コルフ Corfu
- ラバス Lapaz
- クルデア Kuldja
- ホバート Hobart
- コロンビア川 Columbia

第三十一回 (大正六年)

豫備試験

地 理 科

- 一、海圖に「メルカトル」圖法を用ふるは如何なる理由に基くか。
- 二、正午に於て某地點の緯度を測らんとす其方法如何
- 三、汀線の昇降に關する學說を述ベヨ。

四、北アメリカ大陸の東西截斷圖を描き其構造を略說せよ。

五、産業の種類と聚落の發達との關係を述ベヨ。

六、シブラルタル海峡を界として大西洋と地中海との間に海洋學上の現象に如何なる差異ありや。

七、インド、デカン地方の自然界と經濟界との關係に就きて記せ。

八、東京より朝鮮經由上海に至る鐵道系統を圖示し左の事項を附記すべし。

各線路の建設者、經營者。

各線路の軌道の種類。

主要なる交叉驛。

九、左の地に就きて知る所を記せ。

- 璞石閣 Jassy
- 鄭家屯 San Paulo
- 瀧縣 Uji
- ヤシー Delagoa Bay
- サンパウロ Cook Strait
- ウジジ
- デラゴア灣
- クック海峡

第三十一回

- ムスタグアタ Mus-tagata
- ブリュージュ Bruges
- 右四時間

本 試 験

地 理 科

- (一) ボンス Bonne 投影法描圖の特色を述ベヨ。
- (二) 任意本邦大河の一を選び其河谷の地形を説明すべし。
- (三) 海蝕輪廻とは何ぞや圖式を加へて之れを説明すべし。
- (四) 次の地形を説明すべし。
 - コニーデ Conite
 - トロイデ Tholoide
 - ホマーテ Homate
 - 餅盤 Iacoolih
 - 地溝 Rift Valley, Gradon
- (五) 生物地理學上より見たるマダガスガル島を説明せよ。
- (六) トルコ帝國領土の現況に就きて記せ。
- (七) 世界に於ける畜産並に酪業に就きて其生産需給の概況を述ベヨ。

第三十二回

(八) ロンドン・ハンブルヒ・ロッテルダム及び三池の諸港に就き其特色を述べよ。

(九) 左の地に就きて知る所を記せ。

- 南潯鐵道
- 波浮港
- 五臺山
- オシ
- モナスチル
- ナルウイック
- 北海運河
- ビユト
- ザンボアング
- ウエツデル海
- 右四時間

第三十二回 (大正七年)

豫備試験

地理科

- 一、地殻平衡調節説(アイソスタシー)とは何ぞや
- 二、梅雨の現象を述べ其原因を説明せよ
- 三、海水中に含める鹽分の多き所は地表何れの部分な

- りや、理由を舉げて之を説明せよ
- 四、磐梯、櫻島、有珠、樽前の諸火山を例として火山活動の状況を説明せよ
- 五、マライ諸島の構造と地形とを圖說せよ
- 六、動物分布上より見たる本邦各地の特色を述べよ
- 七、ユーラシア大陸に於ける現住民につき其主要なる種族の分布を説明せよ
- 八、世界の主要なる鐵鑛産地と製鐵國との現況を述べよ
- 九、左の地につき知る所を記せ

- 綏芬河
- 桃冲
- 斗南半島
- オーボ
- アビヤ
- ブレストリトフスク
- ジロンド
- ヘヂヤス
- レシト
- ランジェル山
- 右四時間

本試験

地理科

- 一、地圖上に正確に南北線を引く方法を問ふ
- 二、實例を舉げて河口に於ける各種の地形を説明せよ
- 三、世界に於ける地震の多き地方を示し併せて本邦に於ける地震分布の區域と其の類度を述べよ
- 四、ヨーロッパに於ける主要なる中立國につき其の政治經濟の現況を述べよ
- 五、本邦に於ける河川交通の状況を説述せよ
- 六、天津、上海、香港の三港につき其の貿易の特色を較論せよ
- 七、アフリカ大陸地形の特相を述べよ
- 八、本邦海岸に於ける潮時を説明せよ
- 九、左の地につき知る所を記せ

- 娥眉山
- 瀋川
- 江景
- ムルマン
- ブンタ、アレナテ
- ダヴァオ
- コンスタンタ
- MurMan
- Punta Arenas
- Davao
- Constanta

第三十二回

口述試験

- 一、教授法に關し左記の間に答へしむ
「ロシア」及「オーストリアホンガリア」の如き國情混亂せる國の地理を授くるに當り如何なる教授法を行ふべきか、又兩國の現勢並に混亂の原因につき併せて説明せしむ
- 二、左の地圖を示して解答せしむ
(イ)地形並に一般人文地理上の現象を説明せしめしもの
甲 陸地測量部五萬分一地形岡崎阜象潟の二號
乙 オーストリア陸地測量部七萬五千分一地形圖
Arp asni de Sisa Britix Duxund Toplig
(ロ)陸地測量部廿萬分一帝國圖東京號上に於て東京市より川越又八王子への精確なる方向と距離とを測らしむ

第三十三回

- (ハ)左記諸圖につき見取圖を作らしむ
- 甲 陸地測量部五萬分一地形圖七ツ島號南西よりたる群島配列の見取圖
- 乙 同 加久藤號ルーブ線と地形との關係を示す見取圖
- 丙 同 柏島號西方より見たる中の島の島形見取圖
- 三、左の寫眞を示して説明せしむ
- イ、岡山市街と岡山盆地
- ロ、ウキンーン市街
- ハ、臺灣甘蔗畑
- ニ、四川省西部の陸運
- ホ、ボルネオに於けるマニラ麻の栽培地
- ヘ、チリ硝石集積所
- ト、炭坑坑口
- チ、アメリカ土人の住居
- リ、ポリビヤの植物景
- ス、耶馬溪青生洞門
- ル、櫻嶋山麓の碎屑岩地
- ヲ、河口地
- ワ、廣島縣深山溪の花崗岩侵蝕

- カ、砂岩の褶山
- ヨ、河谷を寫せる二個の寫眞(地理的輪廻の説明)
- 四、左の標本を示して説明せしむ
- イ、埋木
- ロ、海水侵蝕の痕を示せる岩片
- ハ、綿ねる
- 五、左の器械を與へて使用せしむ
- イ、傾斜儀
- ロ、ハンドソゲル

第三十三回 (大正八年)

豫備試験

地理科

- 一、地球の平均密度は如何にして測定するか
- 二、貿易風帯に砂漠の多き理由を説明せよ
- 三、地形の輪廻を説明せよ
- 四、我が本州に於ける河川の利用につきて述べよ
- 五、スラヴ種族の分布につきて記せ
- 六、本邦の生絲、綿花、綿絲、綿織物につきて記せ
- 七、都市としての大阪市の特色を述べよ
- 八、ジャヴァ島の地理を概説し併せて其の略圖を描け
- 九、左の地につきて知る所を記せ
- 蓮臺寺鑛山

- 鞍山站
- 打箭爐
- ゼヤ川
- ダンチヒ
- フィウメ
- ザール
- ウイットウオーターランド
- マンダレー
- イムベリアルヴァレー
- Wilwatersrand
- Mandalay
- Imperial Valley

(右四時間)

本試験

- 一、メルカトル投影法の特色を述べよ
- 二、本邦に襲來する低氣壓の種類と其の進路とを述べよ
- 三、ナイル川(ニール川)流域の地理を詳説せよ
- 四、分水線は如何なる場合に於て變化するや之を縷述せよ
- 五、ドイツ國の詳圖を描き講和條約によれる國土の變化につきて特に記入する所あるべし
- 六、リヴァールブルよりメルボルンに至る汽船帆船の航

第三十四回

- 路を圖示し之を説明せよ
- 七、交通上より見たる揚子江と黄河とを較論せよ
- 八、現代に於ける世界の主要なる石炭の産地につきて述べよ
- 九、左の地につきて知る所を記せ

- 豊鎮
- 西寧
- ベンサコラ
- ヴァージンアイランズ
- スラット
- クラスノヴオドスク
- ブレンネル
- スカグ、フロア
- ブロエステ
- リヴィングストーン
- Pensacola
- Virgin Islands
- Susatr
- Kryshnovolsk
- Brenner
- Scapa-Flow
- Ploesti
- Livingstone

(右四時間)

第三十四回 (大正九年)

豫備試験

- 一、經度を知る方法につきて述べよ
- 二、大氣中の塵埃(Dust)につきて述べよ
- 三、國際河川とは何ぞや

第三十四回

- 四、世界に於ける石油主産地の現況につきて述べよ
- 五、阿武隈山脈と四國山脈とを比較し其の地形の特色を述べよ
- 六、印度の地形を述べ其の成因に説き及ぼすべし
- 七、チエコスロヴァキヤ國の地形と住民につきて記せ
- 八、オーストラリア大陸の發見竝に其の開發の經過につきて述べよ
- 九、左の地につきて知る所を記せ

京綏鐵道	Black River
ルール	Ruhr
カブール	Kabul
ヤップ	Yap
アコンカグア	Aconcagua
エストニア	Estonia
スーセントマリー運河	Sault St. Marie
ザラ	Zara
ウジジ	Ujiji

(右四時間)

本試験

- 一、日附變更線とは何ぞや之を説明せよ
- 二、地震計の構造を圖示し如何に地の震動が記録せらるゝかを説明せよ
- 三、太平洋底の形相につきて述べよ
- 四、アフリカ大陸の地形の特色を述べよ
- 五、伊豆志摩兩半島間に於ける東海道海岸の地形と其の成因とを説明せよ
- 六、自由市とは何ぞや實例を舉げて之を説明せよ
- 七、世界に於ける主要なる『ゴム』の産地及び生産の狀態を述べよ
- 八、南北アメリカに渡來する移民の現況につきて述べよ
- 九、左の地につきて知る所を記せ

高雄	Kobe
仙霞嶺	Senzaki
バルボア	Balboa
スバ	Sua
ウルム	Urum
メドック	Medoc

デトロイト	Detroit
マカツサル	Macassar (Mangkassar)
モンロヴィヤ	Monrovia
サンデエゴ	San Diego

(右四時間)

- 1 世界の氣候に基ける植物帯を示せる地圖を示し、其着色により如何なる地圖なるか判定せしめ、次で其内容を説明せしめ、更に此の地圖を地理教授法上如何なる場合に於て利用するかを説明せしむ
- 2 断面圖の製作法を問ひ、其一例として萬分一、地形圖八ヶ嶽圖幅に於て權現嶽を中心とし、西北一東南の方向に引きたる一線に沿ひ、断面圖を作らしむ
- 3 五萬分一地形圖日光男體山の二圖幅を示し、日光町より戰場原に至る間に於て地理修學旅行の際指示すべき要點を説明せしむ
- 4 左の器械の使用法に就きて説明せしむ

傾斜儀距離測定器

第三十五回 (大正十年)

豫備試験

- 一、準平原 Penplain とは何ぞや實例を舉げて之を説

第三十五回

明せよ

- 二、黄土 Loess の成因を説明せよ
- 三、實驗によりて地球の自轉を證明する方法如何
- 四、ラテンアメリカの住民並に移民の現況を述べよ
- 五、田園都市 Garden city とは何ぞや
- 六、成因によりて湖沼を分類し實例を本邦の湖沼に取りて之を説明せよ
- 七、本邦に於ける金の産地と其の製鍊業の現況につきて記せ
- 八、ユーゴスラヴィヤ Yugoslavia 國につきて述べよ
- 九、左の地につきて知る所を記せ

熱河特別區域	Hotan
滬寧鐵道	Hu-Ning Railway
スピツベルゲン	Spitzbergen
マンチエスター運河	Manchester Canal
ボイトンゾルグ	Boitonsorg
ベイルート	Beirut
リヤノ	Liano
フレザー河	Frasar River
クリスマス島	Christmas Island

(右四時間)

第三十五回

本 試 験

▲地 理 科

- 一 地球内部の状態に關する考説を述べよ。
- 二 高距により氣圈をなせる物質及び其の性状に異なる所あるを説明せよ。
- 三 山東半島の地形と其の成因とにつきて説明せよ。實例を本邦に取り山地に於ける聚落の發達につきて述べよ。
- 四 ヨーロッパ人の所謂東北航路とは何ぞや其の探檢と交通的價値とにつきて知る所を記せ。
- 五 バルカン半島諸國の大戦前後に於ける版圖を述べ地圖を添へて之れを説明せよ。
- 六 商港の發達に必要な自然的及び人文的條件につきて適例を擧げ之を説明せよ。
- 七 北アメリカ大陸内の水運につきて述べよ。
- 八 左の地につきて知る所を記せ。
- 九 俱知安

白音太拉 (バインタラ)
汾 河
ノーム
アンデシヤン
Nome
Andishan

ダリエン
クリーゼランド
レゲンヌブルグ
アンナポリス
パンデエルマシ
Darjen
Cleveland
Regensburg
Annapolis
Pandjermassin

第三十六回 (大正十一年)

豫 備 試 験

▲地 理 科

- 一、氣候帶とは何ぞや、各氣候帶の特色を述べよ。
- 二、海流の起る原因につきて述べよ。
- 三、海岸線は如何なる營力によりて變化するか、實例を我が國に取りて之を説明せよ。
- 四、實例によりて内陸平野及び海岸平野に於ける地形の特質を述べよ。
- 五、現今世界に於ける國家の境界には如何なる種類ありや、其の適例を擧げよ。
- 六、ブラジル國に於ける氣候と産業との關係につきて記せ。

(右 四時間)

▲本 試 験

- 一、等高線にて表はされたる地形圖とケバにて表はされたる地形圖との各々の特徴を述べよ。
- 二、灣流 Gulf Stream を説明し、其の歐亞大陸の氣候に及ぼす影響を述べよ。
- 三、シヨルダン谿谷の地形及び其成因に就きて述べよ。
- 四、峽灣の分布及び成因に就きて述べよ。
- 五、バルカン半島に於ける地形と交通との關係を述べよ。
- 六、南滿洲鐵道の交通上の價値を論述せよ。
- 七、我が國に於ける製鐵業の現況を述べよ。
- 八、自由港とは何ぞや、其適例を擧げて之を説明せよ。

帽兒山 興凱湖 藍關 バナート Banat デツダ
Jiddah ダッチハーバー Dutch Harbour アルモ
リカ山脈 Armorian Mountains カタンガ Kata
nga キーウエスト Key West アンデス横斷鐵道
The Transandean Railway

(右 四時間)

▲地 理 科

- 一、五萬分の一地形圖十葉圖幅を示し太平洋方面に於ける海岸平野の地形を説明せしむ。
- 二、二十萬分の一帝國和歌山圖幅を示し海岸線の形状を説明せしむ。
- 三、二萬分の一地形圖三方原圖幅を示し海岸平野に於ける聚落の發達及び形状に及ぼしたる自然的條件を説明せしむ。

第三十七回

- 四、次の本標を示し之を説明せしむ。
 - イ、硫氣作用を受けたる安山岩片
 - ロ、風蝕作用を受けたる安山岩片
 - 五、次の寫眞を示しそれぞれの問題につきて答へしめ或は教授上の方法を述べしむ。
 - イ、焼岳火山、火山の形式を問ふ
 - ロ、「ノールウエー」の峽灣
 - ハ、峽灣の地形及び成因を問ふ
 - 「アルプス」山中の一U字形の谿U字形の谿の地形を問ふ
 - ニ、山腹に於ける迂回道路
 - 迂回道路と地形との關係
 - 迂回道路の交通上の價値を問ふ
 - ホ、谿谷の自然路
 - 自然路の意義
 - 自然路を教授する方法を問ふ
 - 六、求積器を示し其の方法を問ふ。
 - 七、傾斜儀を示し其の用法を問ふ。
- 第三十七回 (大正十一年第二次)
- 豫備試験
- 一、地球内部の状態につきて述べよ。
 - 二、氣候の週期的變化とは何ぞや、これを説明せよ。
 - 三、地壘とは何ぞや、我國に於ける其の適例を舉げてこれを説明せよ。
 - 四、琉球列島の地形及び構造につきて述べよ。
 - 五、シベリヤに於ける河川の特質を舉げ、それが水運に及ぼせる影響を述べよ。
 - 六、ポーランド國の地形及び産業につきて述べよ。
 - 七、大西洋に於ける帆船航路を圖示し、この航路と海流及び氣流との關係につきて述べよ。
 - 八、世界に於ける棉花の主要なる産地と棉花貿易とにつきて述べよ。
 - 九、左の地につきて知る所を述べよ。
 - 紅頭嶼 通化 バン海峽 Rahi Channel
 - オロヤ鐵道 Oroya Railway
 - カイバル峠 Khaibar pass
 - ブオートチャーチル Fort Churchill
 - エレブス Erebus
 - サリナクルス Salina Cruz
 - ブルート Pruth
 - タンガニイカ領 Tanganyika Territory
- 以上 四時間

本試験

▲地理科

- 一、多圓錐圖につきて其の描法と特質とを述べよ。
 - 二、日本海に於ける海流につきて述べよ。
 - 三、インド半島につきて其の成因を説き併せて其の地形を述べよ。
 - 四、珊瑚礁の成因につきて述べよ。
 - 五、ユデア民族の地理的分布を記せ。
 - 六、東京ロンドン間の電信は如何なる線路を経由するか之を説明せよ。
 - 七、横濱ポートサイド間の航路に於ける汽船の燃料は如何に供給せらるゝか之を説明せよ。
 - 八、アメリカ合衆國にある所謂瀑布線とは何ぞや、之を説明し併せて其の經濟上に及ぼせる影響を述べよ。
 - 九、左の地につきて知る所を記せ。
 - 美 唄
 - 天 寶 山
 - クラーゲンフルト Kingofurt
- 第三十七回
- ▲地理科
- 口述試験
- (以上 四時間)
- 一、ヨーロッパ洲の地圖に依りて中等學校の地理科教授上佛獨の國境に關する諸條項を述べしむ。
 - 二、五萬分一地形圖大東島圖幅を示し隆起珊瑚上の地形を説明せしむ。
 - 三、帝國圖櫻圖幅を示し太平洋沿岸地方の聚落に及ぼせる地形の影響を述べしむ。
 - 四、百萬分一本邦中部模型を示し主要なる谿谷の成因に就て述べしむ。
 - 五、次の標本を示し之を説明せしむ。
 - イ、磷 酸
 - ロ、硫氣作用を受けたる火山彈

第三十七回

- イ、櫻島火山バリ殻状の火山弾片
- 六、次の寫眞を示し夫々の問題に就て答へしめ或は教授上の方法を述べしむ。
 - イ、カルスト臺地
 - 石灰岩露出の原因を説明せしむ。
 - ロ、バットランド
 - その成因を説明せしむ。
 - ハ、多摩川上流の谿谷
 - 河成段丘の成因を説明せしむ。
 - ニ、ジャワ島の旅人木
 - 旅人木の分布及び特性を説明せしむ。
 - ホ、隠岐の舟引運河
 - 地峽運河の意義を説明せしむ。
 - ヘ、伊香保
 - 階段状聚落の特徴を説明せしむ。
- 七、測遠器を示し其用法を問ふ。
 - 以上

(第二日)

- 一、ヨーロッパの地圖に依りて中等學校の地理科教授上舊ロシア帝國より分立したる諸國に關する諸條項を述べしむ。

第三十八回

以上

第三十八回 (大正十二年第一次)

豫備試験

- ▲地理科
- 一、山梨縣の自然地理を述べよ。
- 二、回教を奉せる民族の世界的分布を説明せよ。
- 三、交通上より見たるライン河とドナウ(ダニユープ)河とを較論せよ。
- 四、アジヤ洲に於ける人文の發達せる地方は如何なる自然地理的恩恵に浴せるか。
- 五、舊ロシア帝國の領土は今日如何なる政治的區劃に分れたるか。
- 六、隆起性海岸と陥落性海岸との地形上の特色を説明せよ。
- 七、左の地につきて知る所を記せ。
 - デトロイト Detroit
 - アントファガスタ Antofagasta
 - ゴンドハナランド Gondwanaland
 - タクラマカン Takla Makan
 - ホンゲイ Hongay

第三十八回

(右 四時間)

本 試 験

- ▲地理科
- 一、スイスの地圖を描き同國の自然地理を説明せよ。
- 二、アイルランドの地圖を描き同國の人文地理を説明せよ。
- 三、氷期(氷河時代)とは何ぞや此の時代に於ける地表の形勢について説明せよ。
- 四、日蝕に皆既蝕・金環蝕・部分蝕のあるのを圖解して説明せよ。
- 五、世界に於ける石油生産の現況を述べよ。
- 六、支那に於ける外國貿易の趨勢を説明せよ。
- 七、左の地につきて知る所を記せ。
 - イ、メメル Memel
 - ロ、セウタ Ceuta
 - ハ、海峽植民地
 - ニ、南洋廳の所在地
 - ホ、本邦の重要な製材業地
 - ヘ、本邦に於て人口密度の著しく大なる地方と著しく小なる地方(地方廳名にて答へよ)

(右 四時間)

第三十九回

口述試験

第一日

- 一、五萬分一地圖を示し、高距の測定水準測量につきて問ふ。
- 二、二十萬分一帝國圖和歌山圖幅を示して紀の川谿谷の成圖と、この谿谷に於ける聯絡の發達に及ぼしたる地理的條件とを述べしむ。
- 三、次の標本を示し、之を説明せしむ。
アルスト地方の石灰岩片
- 四、マツチの生産地と雷給とにつきて述べしむ。
- 五、乾燥地方に於ける階級、臺地の繪畫を示して、この地形の成圖及び特徴を述べしむ。
- 六、次の器械を示して、其使用法を説明せしむ。
風測器

第二日

- 一、二十萬分一帝國圖、新潟、長岡、兩圖幅を示して該地方の地形を説明せしめ、併せて油田の構造、世界に於ける石油産出の現況を述べしむ。
- 二、二十萬分一帝國圖徳島圖を示して、吉野川谿谷の成圖を説明せしめ、併せてこの谿谷に於ける特産物につきて述べしむ。
- 三、次の標本を示し之を説明せしむ。
海蝕を受けたる砂岩片。
- 四、乾燥地方に於ける臺地の繪畫を示しこの地形の成圖及特徴を述べしむ。
- 五、次の器械を示して其使用法を説明せしむ。
ランプレヒト氏ポリメーター

第三十九回 (大正十二年第二次)

豫備試験

- 一、紀伊半島の自然地理を述べよ。
- 二、ベルギー國の人文地理を述べよ。
- 三、北アメリカ大陸の氣候帯を説明せよ。
- 四、海蝕臺地とは何ぞや實例を本邦に取りて之を説明せよ。
- 五、世界に於ける「ゴム」の生産及び集散の狀況につきて述べよ。
- 六、南アフリカ聯邦の政體につきて記せ。
- 七、左の地につきて知る所を記せ。
イ、世界に於る都市密度の特に大なる地方五箇所
ロ、世界に於る海の深さの極めて大なる所五箇所
ハ、アジアに於ける氣温の最も高き地方と最も低

き地方。

リ、コルフ Corfu

ホ、中江鎮

ヘ、花咲半島

(右 四時間)

本試験

- 一、地震計を説明せよ。
- 二、メルカトル圖法の特色を述べ何故に海圖には此の圖法を用ゆるかを説明せよ。
- 三、石狩川流域の人文地理を説明せよ。
- 四、ライン川流域の自然地理を説明せよ。
- 五、北京上海間の主要なる交通線路を列擧し之を説明せよ。
- 六、太平洋に於けるアメリカ合衆國の勢力を地理的に考察し之を説明せよ。
- 七、左の地につきて知る所を記せ。
イ、プレスブルグ Pressburg (Pozsony)
ロ、徐家滙
ハ、イラク王國 Irak
ニ、カンベラ Canberra

第四十回

- 一、琉球列島の自然地理を述べよ。
- 二、シヤム國の人文地理を述べよ。
- 三、太平洋の主要なる海流につきて述べよ。
- 四、地形の「若返り」Rejuvenationとは何ぞや實例を擧げこれを説明せよ。
- 五、ロシア國の聯邦組織を説明せよ。
- 六、季節風帶地方に於ける産業の特色に就て説明せよ
- 七、左の地及び諸項につきて知る所を記せ。
イ、閩江
ロ、トランスヨルダニヤ Transjordania
ハ、エリー運河 Erie Canal
ニ、バルト海に注げる河流五つ

第四十回 (大正十三年第一次)

豫備試験

- 一、世界に於て特に灌漑工事によりて開發せられたる地域五箇所。
- 一、二、三、四、五、六の諸問には地圖圖式等を付して答ふるを要す。

第四十回

ホ、北アメリカ大陸の西半を横断せる主要なる鐵道線路と其終點

ヘ、アフリカ大地溝帯に沿へる湖水

一・二・三・四・七の諸問には地圖又は圖式等を附してこれに答へよ。

(右 四時間)

本 試 験

一、京都奈良兩盆地の地形を説明せよ。

二、戦前のオーストリア、ハンガリー國の地圖を描き之に主要なる地形と現今の政治區劃とを記入せよ

三、單圓錐圓法とボンヌ圖法とにつきて其の長所短所を比較せよ。

四、種々の施設を備ふる現代的商港を假想して其平面圖を描き各施設の名稱を記入せよ。

五、別紙地形圖に於てA B線に沿へる截断面を描け。水平縮尺と垂直縮尺と適當と認むる割合に選ぶべし。

六、左の地及び諸項につきて知る所を記せ。

イ、南 濠 鐵 道

ロ、ナウル島

ハ、日附變更線

Nauru

ニ、地中海式氣候

ホ、本邦陸海軍用の主要なる飛行場

(右 四時間)

第四十一回 (大正十三年第二次)

豫 備 試 験

一、阿武隈川流域の地圖を描き其人文地理を述べよ

二、山西省の地圖を描き其の自然地理を説明せよ。

三、湖水の定常振動(セイシュ)を説明せよ。

四、赤經赤緯とは何ぞや。

五、ヨーロッパの運河網を描き之につきて知る所を記せ。

六、現今世界に於ける小麦の主要なる生産地と消費地とを挙げよ。

七、左の地及び諸項につきて知る所を記せ。

イ、ブローントン灣

ロ、世界の主要なる金産地

ハ、ドブルデヤ

ニ、北アメリカの太平洋沿岸にある主なる軍港

ホ、川邊特別區域

(右 四時間)

本 試 験

一、奥羽地方の裏日本に就き。

イ、其の地形圖を描き

ロ、其の地形の特色を説明せよ

二、日本印度シベリヤに於ける全年の気温の變化を。

イ、圖表(グラフ式)を以て示し

ロ、其の特色を説明せよ

三、西印度諸島の成因につきて説明せよ。

四、海外貿易につきてイギリス國が他の諸國に比し特色とせる諸項を挙げ之を説明せよ。

五、アメリカ合衆國の産業地圖を考案し之を別紙白圖に記入せよ。

六、フィリッピン諸島の住民につきて記せ。

七、左の地につきて知る所を記せ。

イ、包 頭

ロ、コンドル島

ハ、マリツア川

ニ、ラリツク列島

Pulo Condor

Mariza

Ralik

Ratak

ホ、アフリカ洲にある獨立國と其の首府との名

(右 四時間)

第四十一回

注意 答案は問題毎に別紙に認むべし

▲地 理 科

第 一 日

一、中等學校に於て東京市を教授するに際し必要なる事項を系統的に述べしめ其答ふる所により二三の事項に付き特に質問す。

二、五萬分の一地形圖旭川圖幅岡山圖幅につきて耕地の區劃に及ぼせる地理的影響を説明せしむ。

三、地質評圖七戸圖幅を示し下北半島の説明と其成圖とを説明せしむ。

四、左の標本に付きて説明せしむ。

褶曲せる硅板岩を交ふる石灰岩

第 二 日

一、中等學校に於て大阪市を教授するに際し必要なる事項を系統的に述べしめ其答へらるゝ所により二三の事項に付き特に質問す。

二、第一日の(一)に同じ。

三、地質の評圖能代圖幅を示し能代川流域の地形と其成圖とを説明せしむ。

四、第一日の(四)に同じ。

(大正十四年一次)

豫備試験

- 一、濃尾平野の人文地理を説明せよ。
- 二、アルプス山系の構造を概説せよ。
- 三、フランス・ベルギー・ドイツの地圖を描き主要なる工業地域を記入し且つ其の現況を説明せよ。
- 四、南アメリカの地圖を描き植物帯を記入し且つ之を説明せよ。
- 五、カナダの南部を東西に横断する時は人文地理上いかなる變化を目撃するや。
- 六、次の諸項を説明せよ。
 截頭河 Behradal river
 雹及び霰
 保護國
 緩衝國
- 七、左の地につきて知る所を記せ。
 汴洛鐵道 Spitzbergen
 スピッツベルゲン Southern Rhodesia
 南ローデシヤ
 カザイテ Cavite

ナウエン (右 四時間)

Nauen

本試験

- 一、大正十二年九月一日の關東大震災に伴ひて起りたる地殻の變動につきて述べよ。
- 二、北アメリカの水時代に水河發展の形勢とその退却後に於ける地形の變化につきて述べよ。
- 三、ヨーロッパに於て一年を通じて西の卓越風の吹く理由並に其の影響につきて記せ。
- 四、江蘇省の地圖を描き其の人文地を説明せよ。
- 五、スコットランドの地圖を描き其の自然地理を説明せよ。
- 六、世界的商品としての滿洲大豆につきて知る所を記せ。
- 七、左の地につきて知る所を記せ。
 邑知潟
 萬縣
 エストニア Esthonia
 ノーム Nume
 タンピコ Tampico

(右 四時間)

口述試験

第一日

第一室

- 一、五萬一地形圖山口圖幅、西市圖幅を示しカルスト地形の特色及び産業交通聚落との關係につきて述べしむ。
- 二、二十萬分一帝國圖の註記抜中部地方の南部を示し愛鷹山、富士山、御坂山脈、甲府盆地、八ヶ嶽、御嶽、狩野川、富士川、大井川、天龍川、木曾川、濱名湖、久能山等を指道せしむ。濱名湖の成因につきて述べしむ。
- 三、プランニメーター(求積器)を示し其用法を詳説せしむ。

第二室

- 一、奈良盆地地方の模型を示し其地形を詳説せしめ其取扱方につきて試問す。
- 二、エブベ河谷バスタイ附近の寫眞を示し地形の特色を説明せしむ。

第二日

第一室

- 一、五萬分一地形圖飯田圖幅、時又圖幅を示し飯田附

第四十二、四十三回

近に於ける地形の特色及び之と産業交通聚落との關係につきて述べしむ。

- 二、二十萬分一帝國圖の註記抜中部地方の南部を示し三島、沼津、興津、静岡、清水、濱松、豊橋、飯田、天龍川、愛鷹山、御嶽、八ヶ嶽等を指道せしめ清水港につきて述べしむ。

- 三、プランニメーター(求積器)を示し其用途を述べしむ

第二室

- 一、酒匂川流域地方の模型を示し其地形を詳説せしめ其取扱方につきて試問す。
- 二、アルプス山系の水河發達せる地方とコロラト峡谷地方との寫眞を示し地形の特色を説明せしむ。
- 三、角稜石灰岩を示し其出來方につきて説明せしむ。

第二十四回 (大正十四年二次)

豫備試験

- 一、北海道本嶋の地圖を描き其の地形につきて述べよ
- 二、フランス國の地圖を描き其の住民につきて述べよ
- 三、本邦近海の海底の状況を説明せよ。
- 四、地殻漂移説の概略を述べよ。
- 五、インドの産業につきて述べよ。

第四十三回

六、アフリカの人口密度を記しその自然との關係につきて論せよ。

七、左の諸項につきて知る所を記せ。

- イ、寺洞
- ロ、レッドリヴァー Red River
- ハ、サンペドロ港 San Pedro
- ニ、陣風線 Squall-line
- ホ、断層角窪地 Fault-angle depression

- イ、地向斜 Geosyncline
- ロ、變光星
- ハ、徐州
- ニ、クアラランプール Kuala Lumpur
- ホ、イースター島 Easter Island

(右 四時間)

本試験

- 一、地球内部の構造につき如何なる假説あるか。
- 二、深海の沈積物につきて説明せよ。
- 三、淀川流域の地圖を描き其の地理を説明せよ。
- 四、ヨーロッパの水系と其の水期に於て造られたる地形との關係を述べよ。
- 五、オーストラリアの地圖を描き左の事項と名稱とを記入せよ。
經緯線、山系、水系、夏冬の雨量分布、主要なる鑛山、行政區劃。
- 六、回教の分布につきて記せ。
- 七、左の諸項につきて知る所を記せ。

日東史科

第廿六回 (大正元年)

豫備試験 (三時間)

- 日本史
- 一 大臣大連ノ諸家ト其盛衰
 - 二 足利義昭ノ末路
 - 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 藤原常嗣
 - 乙 變真
 - 丙 北條時行
 - 丁 佐藤信淵
 - 四 左ノ事項ノ解釋
 - 甲 老中、若年寄
 - 乙 宣旨、口宣、令旨
 - 丙 異稱日本傳
 - 丁 建武式目
 - 東洋史
 - 一 肥水ノ戦ノ原因及ビ結果
 - 二 渤海ノ興亡
 - 三 英國ノ東印度會社
 - 四 左ノ名稱ニ就キテ知ル所ヲ記セ

第廿六、廿七回

- 日本史
- 甲 六朝
 - 乙 遼東城
 - 丙 丘處機
 - 丁 理藩院

本試験 (四時間)

- 一 御歴代御謚號撰定ノ由來
- 二 鎖國政策ノ利害
- 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 長井雅樂
 - 乙 事代主神
 - 丙 藤原種繼
 - 丁 僧崇傳
- 四 左ノ事項ノ解釋
 - 甲 四親王家
 - 乙 踐祚即位
 - 丙 中國探題
 - 丁 日本靈異記
- 東洋史
 - 一 西晋八王ノ亂
 - 二 西夏ト宋トノ關係
 - 三 欽察汗國ノ興亡
 - 四 左ノ名稱ニ就キテ知ル所ヲ記セ
 - 甲 丸部
 - 乙 陸象山
 - 丙 サマルカンド (Samarkand)
 - 丁 推恩令

第廿七回 (大正二年)

第廿八回

豫備試験 (三時間)

- 一 光仁天皇ノ御事蹟
 - 二 和宮ノ東下
 - 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 長屋王
 - 乙 上杉治憲
 - 丙 安達景盛
 - 丁 大内義隆
 - 四 左ノ事項ノ略解
 - 甲 成功重任
 - 乙 柵戸
 - 丙 難訴決斷所
 - 丁 武家諸法度ノ大要
- 東 洋 史
- 一 支那三國時代ノ形勢ヲ論ゼヨ
 - 二 唐代ノ西域
 - 三 清初ノ制度
 - 四 左ノ名稱ニ就キテ知ル所ヲ記セ
 - 甲 兀良哈
 - 乙 陸游
 - 丙 泉蓋蘇文
 - 丁 廓爾喀
- 本 試 験 (四時間)
- 一 承久亂ノ結果
 - 二 德川時代ノ蝦夷地

三 左ノ人々ノ事蹟

- 甲 豊城入彦命
 - 乙 藤原隆家
 - 丙 安積覺
 - 丁 蒲生氏郷
 - 四 左ノ名稱ノ解釋
 - 甲 大歴
 - 乙 僧綱、三綱
 - 丙 在應
 - 丁 拾芥抄
- 東 洋 史
- 一 支那南北朝分立ノ來歴
 - 二 唐代ニ於ケル滿洲ノ形勢
 - 三 中央亞細亞ニ於ケル英露ノ衝突
 - 四 左ノ名稱ニ就キテ知ル所ヲ記セ
 - 甲 陳湯
 - 乙 周留城
 - 丙 西城記
 - 丁 錢大所
- 第廿八回 (大正三年)
- 豫備試験 (三時間)
- 一 藤原不比等及其子女ノ事蹟
 - 二 勅使大原重徳ノ東下 (原田久克、藤原三子)
 - 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 源通親
 - 乙 竹内式部

第廿九回

- 丙 九條尙忠
 - 丁 調伊企繼
 - 四 左ノ名稱ニ就キテ知ル所ヲ記セ
 - 甲 正倉院
 - 乙 東西本願寺
 - 丙 檢見定免
- 東 洋 史
- 一 後漢ト西域トノ關係
 - 二 支那南北朝時代ニ於ケル南北文化ノ異同
 - 三 阿片戰爭ノ來歴及ビンノ影響
 - 四 左ノ名稱ニ就キテ知ル所ヲ記セ
 - 甲 九品中正
 - 乙 虎思斡耳朶
 - 丙 史可法
 - 丁 阮福映
- 本 試 験
- 一 王朝時代ノ兵制及其沿革
 - 二 寛政異學ノ禁ノ理由
 - 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 支倉常長
 - 乙 高岳親王
 - 丙 身狭青、檜隈博徳
 - 丁 僧疏石
 - 四 左ノ名稱ニ就キテ知ル所ヲ記セ
 - 甲 漢委奴國王印
 - 乙 校田、斑田
 - 丙 御朱印船
 - 丁 神籬

第廿九回 (大正四年)

- 豫備試験 (三時間)
- 一 院政ノ得失
 - 二 廢藩置縣
 - 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 崇道盡敬皇帝
 - 乙 長谷部信連
 - 丙 澁川春海
 - 四 左ノ名稱ノ解釋
 - 甲 職事藏人
 - 乙 天龍寺船
 - 丙 本朝通鑑
- 東 洋 史

第 卅 回

- 一 南北朝時代ニ於ケル道佛二教ノ關係
- 二 五代ノ形勢ヲ論ゼヨ
- 三 愛暉條約
- 四 左ノ名稱ニ就イテ知ル所ヲ記セ
 - 甲 廣開土王
 - 乙 提舉市舶使
 - 丙 袁崇煥

本 試 驗 (四時間)

- 一 貞觀以後天慶頃マデノ地方ノ狀況
- 二 江戸時代ニ於ケル國學ノ發達
- 三 左ノ名稱ノ解釋
 - 甲 改元難陳
 - 乙 租庸調 徭役
 - 丙 聚樂第ノ誓詞
 - 丁 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 橋奈良麻呂
 - 乙 山名氏清
 - 丙 江川英龍
 - 丁 高倉下
- 四 漢唐文化ノ異同
- 二 拔都ノ東歐征伐
- 三 戊戌ノ政變
- 四 左ノ名稱ニ就イテ知ル所ヲ記セ

- 甲 僧一行
- 乙 點憂斯
- 丙 花石綱
- 丁 徐光啓

第 卅 回 (大正五年)

豫 備 試 驗 (三時間)

- 一 大伴氏ノ盛衰
- 二 戰國時代ニ於ケル一向宗
- 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 來目部小楯
 - 乙 山科言繼
 - 丙 藤原通憲
 - 丁 坂本龍馬
- 四 左ノ事項ニツキテ知ル所ヲ記セ
 - 甲 三世一身法
 - 乙 東鑑
 - 丙 關原合戰ノ年月日
 - 丁 正徳長崎新令
- 一 大月氏ノ佛教
- 二 後魏孝文帝ノ改革
- 三 明末ニ於ケル泰西文化ノ輸入
- 四 左ノ名稱ニツキテ知ル所ヲ記セ
 - 甲 鄭吉
 - 乙 松嶽
 - 丙 色目人
 - 丁 四庫全書

▲日 本 史

- 一、近江朝廷ノ政治ト飛鳥淨見原朝廷ノ政治トノ異同
- 二、嘉吉ノ亂ノ顛末
- 三、左ノ人々ノ事蹟
 - 甲、早良親王
 - 乙、鞍作鳥
 - 丙、淺見安正
 - 四、左ノ名稱ノ解釋
 - 甲、神嘗祭
 - 乙、壺切ノ御劍ノ由來
 - 丙、大日付御目付
 - 丁、新編追加
- ▲東 洋 史
 - 一、秦ノ海内ヲ統一シ得タル原因
 - 二、曹魏ト高句麗トノ關係
 - 三、西遼ノ興亡
 - 四、左ノ名稱ニツキテ知ル所ヲ記セ
 - 甲 賈 耽
 - 乙 門生天子
 - 丙、物力推排
 - 丁、惠遠城

第三十一回 (大正六年)

豫 備 試 驗

日 本 史

- 一、奈良時代の聖田
- 二、文久三年八月十八日の政變
- 三、左の人々の事蹟
 - 甲、東福門院
 - 乙、道首名
 - 丙、僧源空
 - 丁、足利義尚
- 四、左の名稱の解釋
 - 甲、賀名生の行宮
 - 乙、新補地頭
 - 丙、交替式
- 東 洋 史
 - 一、支那に於ける統一時代(周以後)の國都の名稱及び現在の位置を示し且その奠都の理由を挙げよ
 - 二、金の世宗の政策
 - 三、明の成祖の漠北經略
 - 四、左の名稱に就きて知る所を記せ

第三十一回

- 甲、函谷關
- 乙、哪 噠
- 丙、同平章事
- 丁、施 琅
- 右四時間
- 本 試 驗
- 日 本 史
- 一、上古の氏族制度
- 二、鎌倉時代の文化の特色
- 三、姉川の戦
- 四、左の名稱の解釋
- 甲 官幣社、國幣社
- 乙 親王宣下
- 丙 私出舉
- 丁 三番頭
- 東 洋 史
- 一、漢代の文化
- 二、天寶の亂
- 三、清朝滅亡の原因
- 四、左の名稱につきて知る所を記せ
- 甲 新羅武烈王
- 乙 耶律大石
- 丙 漢 門
- 丁 翰林院
- 右四時間

第三十二回 (大正七年)

- 豫 備 試 驗
- 日 本 史
- 一、藤原廣嗣の亂
- 二、江戸時代に於ける日露の交渉
- 三、左の人々の事蹟
- 甲、圓 仁
- 乙、細井知慎
- 丙、日 羅
- 丁、畠山政長
- 四、左の名稱の解釋
- 甲、八省院
- 乙、知行國
- 丙、濟物浦條約
- 丁、難太平記
- 東 洋 史
- 一、宦官の起原及びその東漢に於ける專權の事蹟
- 二、元と高麗との關係
- 三、明代の儒學
- 四、左の名稱につきて知る所を記せ

第三十三回

- 甲、安東都護府
- 乙、文献考通
- 丙、土木堡
- 丁、李呈應
- 右四時間
- 本 試 驗
- 日 本 史
- 一、保元亂以前に於ける源平二氏の盛衰
- 二、戰國時代の對外關係
- 三、左の人々の事蹟
- 甲 典仁親王
- 乙 師 練
- 丙 村國男依
- 丁 清瀨賴業
- 四、左の名稱の解釋
- 甲 淳和院
- 乙 律令格式
- 丙 關 所
- 丁 保元大記
- 東 洋 史
- 一、漢代の思潮と陰陽五行說

第三十三回 (大正八年)

- 豫 備 試 驗
- 日 本 史
- 一、壇浦に於ける源平兩軍の勝敗の原因
- 二、室町時代の僧侶の社會事業
- 三、左の人々の事蹟
- 甲 藤原惟方
- 乙 松倉重政
- 丙 聖一國師
- 四、左の名稱の説明
- 甲 香稚廟
- 乙 梅松論
- 二、唐と大食との關係
- 三、清の聖祖の塞外親征
- 四、左の名稱に就きて知る所を記せ
- 甲 南衙北司
- 乙 僕 議
- 丙 王船山
- 丁 熱 河
- 右四時間

第三十四回

(大正九年)

豫備試験

▲日 東 史
▲日 本 史

- 一、記紀撰進の顛末
 - 二、吉野朝時代に於ける北畠氏の事蹟
 - 三、左の人々の事蹟
 - 甲 橘遠保
 - 乙 智證大師
 - 丙 清河八郎
 - 四、左の名稱の解釋
 - 甲 院司
 - 乙 俘囚
 - 丙 宗門改
- ▲東 洋 史
- 一、北京の沿革
 - 二、帖木兒と明朝との關係
 - 三、左の人名地名の說明
 - 甲 班勇

- 乙 臨潢
 - 四、左の名稱の解釋
 - 甲 大學士
 - 乙 十七史
- (右 四時間)

本 試 験

▲日 東 史
▲日 本 史

- 一、三條天皇と藤原道長
 - 二、江戸時代商業發達の一斑
 - 三、左の人々の事蹟
 - 甲 有間皇子
 - 乙 伊賀光季
 - 丙 安藤信正
 - 四、左の名稱の說明
 - 甲 武者所
 - 乙 綜藝種智院
 - 丙 下尅上
- ▲東 洋 史
- 一、支那古代(周より唐に至る)の土地制度

第三十五回 (大正十年)

豫備試験

▲日 東 史
▲日 本 史

- 二、宋代の對外思想
 - 三、左の人名の說明
 - 甲 于謙
 - 乙 曾國荃
 - 四、左の名稱の說明
 - 甲 常平倉
 - 乙 努兒干都司
- (右 四時間)
- 口 述 試 験
- ▲日 東 史
▲日 本 史
- 1. 奈良時代に於ける國分寺設立の結果について
 - 2. 豊臣秀吉の朝鮮征伐の結果について
 - 右二件が國民に及ぼしたるか中等學校に於て生徒に講授する程度に因りて説明せしむ

▲東 洋 史

- 1. 筆記試験の答案につき不明の點を説明せしむ
- 2. 十八史略中の一節中史料として抄出し、之を通讀せしめ、且つ之に本つき中等學校の生徒に講授する程度に於て、後漢時代の制度を説明をなさしむ

第三十五回

豫備試験

▲日 東 史
▲日 本 史

- 一、奈良時代の奥羽拓殖政策
 - 二、元寇の北條氏に及ぼせる影響
 - 三、左の人々の事蹟
 - 甲 荒田別、我別鹿
 - 乙 源滿仲
 - 丙 虎關禪師
 - 丁 親子内親王
 - 四、左の名稱の解釋
 - 甲 燒尾、荒鎮
 - 乙 伎樂、田樂、猿樂
 - 丙 絲割符商人
 - 丁 勘定吟味役
- ▲東 洋 史

▲東 洋 史

- 一、唐代宗教界の概況
- 二、明代に於ける滿洲の形勢
- 三、左の人名地名の說明
 - 甲 闕特勤
 - 乙 德勝
- 四、左の名稱の解釋

第三十六回

- 甲 屬國都尉
- 乙 使相

- 四、左の名稱の解釋

本 試 驗

- 甲 司隸校尉
- 乙 儲位密建法

▲日 東 史

第三十六回 (大正十一年)

- 一、十七條憲法と其の時勢

豫 備 試 驗

- 二、王朝時代及び江戸時代に於ける浪人

▲日 本 史

- 三、左の名稱の解釋

- 一、奈良朝に於ける佛教と國家との關係。

- 四、左の事項の解釋

- 二、江戸時代初期に於ける國民の海外發展。

- 甲 武庫水門
- 乙 徒然草

- 三、左の人々の事蹟の概要

▲東 洋 史

- 甲 天智天皇
- 乙 源賴朝

- 一、春秋時代の弭兵會議

▲東 洋 史

- 二、元時代と清時代とに於ける漢人待遇の異同

- 一、支那に於ける遠交近攻の史的實例

- 三、左の人名地名の説明

- 二、明清學風の相違

- 甲 高勾麗長壽王
- 乙 蔡州

- 三、左の人名地名の説明

- 四、左の名稱の説明

甲 交 鈔

- 二、江戸時代に於ける幕府の政治改革につきて知る所を記せ。

- 乙 東印度會社 (East India Company)

- 三、左の人々の事蹟の概要。

口 述 試 驗

- 四、左の事項及地名の史的説明。

▲日 東 史 科

▲東 洋 史

▲日 本 史

- 一、中等學校の國史教授に於ける國體に關する注意。

- 一、過去に於ける支那分裂の原因。

- 二、江戸時代の鎖國令の説明及びその教授上の注意。

- 二、宋代の黨争。

- 一、支那の統一と分裂に關する歴史的原因を説明せしむ。

- 三、左の人名地名の史的説明。

- 二、東洋史教授に關して注意すべき點を問ふ。

- 四、左の名稱の史的解釋

第三十七回 (大正十一年)

本 試 驗

豫 備 試 驗

▲日 東 史

▲日 本 史

- 一、上代に於ける日韓の關係

- 一、鎌倉時代に於ける禪宗の興隆。

- 二、豊臣氏時代に於ける經濟上の發達

第三十七回

第三十七回

三、左の人々の事蹟の概要

甲 安達景盛

乙 シーボルト

四、左の名稱の史的説明

甲 出舉

乙 大介

丙 今切關所

▲東 洋 史

一、支那古代(周より唐に至るまで)の土地制度の概要

二、元代の交鈔と財政

三、左記の人名及び地名の史的説明

甲 葛洪

乙 アンゴラ

四、左記名稱の史的説明

甲 清真寺

乙 永樂大典

(右 四時間)

本 試 験

▲日 東 史

一、平安時代に於ける地方の状態。

二、室町幕府の政治組織。

三、左の人々の事蹟。

甲 物部麤鹿火

乙 少貳景資

丙 ブーチャチン

四、左の名稱及び地名についての史的説明。

甲 名神大

乙 領國

丙 琉球

▲東 洋 史

一、六朝文化の特色。

二、明末清初の臺灣。

三、左の人名地名の説明。

甲 多爾袞

乙 敦 滬

四、左の名稱の説明。

甲 震 旦

乙 釐金稅

(右 四時間)

口 述 試 験

▲日 東 史

▲日 本 史

一、國史編纂に就て知るところを述べしむ。

二、幕末史教授の總括的整理に就て述べしむ。

▲東 洋 史

一、中等教育程度の東洋歴史教科書唐代の佛教の一節に就き模範的説明をなさしむ。

二、右一節の諸事項に就き質問を試む。

第三十八回 (大正十二年)

豫 備 試 験

▲日 東 史

▲日 本 史

一、大化改新

二、戰國時代に於ける歐洲文化の影響。

三、左の人々の事蹟。

甲 藤原兼實

乙 林述齋

第三十八回

四、左の名稱の史的説明。

甲 宣命

乙 土一揆

丙 議政官

▲東 洋 史

一、秦の長城及び隋の運河を地圖によりて説明すべし

二、北虜南倭につきて知る所を記すべし。

三、左記の人名地名につきて知る所を記すべし。

甲 道子昂

乙 臥亞(Gai)

四、左記につきて知る所を記すべし。

甲 十八史略の意義及び内容

乙 社會の起源及び性質

(右 四時間)

本 試 験

▲日 東 史

▲日 本 史

一、上代國民生活の状態

二、貞永式目制定の事情及びその特色

第三十九回

- 三、明治時代に於ける條約改正
- 四、左記の名稱につきて知る所を記せ

- 甲 今昔物語
- 乙 藤原豊成
- 丙 堺港
- 丁 町奴

▲東 洋 史

- 一、宋代に於ける儒教と佛教との關係
- 二、清朝覆亡の來歴
- 三、左記の地名人名につきて知る所を記せ
- 四、左記の名稱につきて知る所を記せ

- 甲 函谷關(特に地圖によりて其位置を示すべし)
- 乙 ゴローバン(Gorovin)
- 甲 刺史
- 乙 資治通鑑

(右 四時間)

□ 述 試 験

▲日 東 史

- 一、吉野朝時代の教授上注意すべき諸點
- 二、幕末に於ける日米關係の經過

▲東 洋 史

- 一、滿洲人の勃興の初大金の興起の一節右につき模擬教授をなさしめ諸事項につきて質問を試み併せて東洋史の諸事項に及ぶ

第三十九回 (大正十二年)

豫 備 試 験

▲日 東 史

- ▲日 本 史
- (一) 遣唐使廢止以後蒙古襲來以前の日支關係
- (二) 江戸時代泰平の持續せし所以
- (三) 左の詩及び名辭の史的解釋
- 甲 殘民爭採首陽薇 處々閉廬鎖竹扉
- 乙 山門寺門
- 丙 毛見取
- (四) 左の人々の事蹟
- 甲 武内宿禰

- 乙 上杉憲實
- 丙 岩瀬忠震

▲東 洋 史

- (一) 古代支那人の天變地異に關する觀念につきて
- (二) 明末の黨争につきて
- (三) 左記の名辭の解釋

- 甲 酒酷
- 乙 大藏經
- 甲 不空
- 乙 薩萊(Saila)

(右 四時間)

本 試 験

▲日 東 史

- (一) 東山時代の文化
- (二) 日露戰役に於ける我が國の國際的地位
- (三) 左の名辭の史的解釋
- 甲 屯倉

第四十回

- 乙 海賊
- 丙 水帳

(四) 左の人々の事蹟

- 甲 淡海三船
- 乙 高辨
- 丙 安藤信正

▲東 洋 史

- (一) 唐初の制度と其日本に及ぼせる影響
- (二) 清初の蒙古經略
- (三) 左の名辭の史的解釋
- 甲 樞密院
- 乙 市易法
- (四) 左の人名地名の史的説明
- 甲 八思巴
- 乙 舟山

(右 四時間)

第四十回 (大正十三年)

豫 備 試 験

▲日 東 史

第四十回

▲日 本 史

- 一、律令制定事業
- 二、寶曆事件の顛末
- 三、左の人々の事蹟

甲 大伴金村

乙 三浦胤義

丙 高島秋帆

四、左の名辭の説明

甲 新撰姓氏錄

乙 段錢

丙 御朱印船

▲東 洋 史

- 一、漢時代の儒學につきて記すべし
- 二、帖木兒大王の事蹟を記すべし
- 三、左の人名地名の説明

甲 顧炎武

乙 龜茲

四、左の名辭の説明

甲 唐の三省

乙 佛國記

(右 四時間)

本 試 験

▲日 東 史

- (一)上古の氏族制度
- (二)江戸時代の日蘭關係
- (三)左の人々の事蹟

甲 桂庵

乙 三宅觀瀾

(四)左の名辭の説明

甲 四度

乙 家人

▲東 洋 史

- (一)支那に於ける道佛二教の争
- (二)中央亞細亞に於ける英露兩國の衝突
- (三)左の人名地名の説明

甲 フェルビーズ (Verbiest)

乙 龍門

(四)左の名辭の説明

- (一) 甲 鴻臚寺
- 乙 食貨志

(右 四時間)

第四十一回 (大正十三年)

豫 備 試 験

▲日 本 史

- (一) 大伴氏の盛衰
- (二) 後北條氏の關東經路
- (三) 左の人々の事蹟

甲 結城宗廣

乙 靜寛院宮

(四) 左の名辭の説明

甲 本所

乙 白絲割符

▲東 洋 史

- (一) 支那の運河に關する史的事實
- (二) 漢代の東西交通
- (三) 左記の人及び地に關する史實

甲 徐光啓

第四十一回

乙 平 城

(四) 左の名辭の説明

甲 都護府

乙 四庫全書

(右 四時間)

本 試 験

▲日 東 史

- (一) 平安時代に於ける政權の移動
- (二) 幕末に於ける攘夷論の變遷
- (三) 左の人々の事蹟

甲 祖元

乙 西川如見

(四) 左の名辭の説明

甲 解由

乙 庭訓往來

▲東 洋 史

- (一) 唐宋二朝の過渡時代につきて述べよ
- (二) 元の世祖の内治上の事蹟を記せ

第四十一回

(三) 左記の人及び地に關する史實

- 甲 耶律大石
- 乙 營州

(四) 左記の名辭の説明

- 甲 刀貨 布貨
- 乙 通鑑綱目

(右 四時間)

注意 答案は問題毎に別紙に認むべし

口 述 試 験

▲日 東 史

▲日 本 史

(一) 我が國の年號中重要なるもの十箇を挙げ其選擇の理由に付きて説明せしむ

(二) 江戸時代繪畫界の狀勢を教授するに付き注意すべき諸點を述べしむ

▲東 洋 史

(一) 南北朝時代の後魏の孝文帝時代に於ける事實に付き模擬授業をなさしめ質問して以て其學力を試験す

(二) 成吉思汗即義經説につき批評をなさしむ

第四十二回 (大正十四年度一次)

豫 備 試 験

▲日 本 史

- 一、班田制施行とその廢類
- 二、征韓役後に於ける朝鮮との修交始末
- 三、左の人々の事蹟

甲 藤原能保

乙 阿部正弘

四、左の名辭の説明

甲 御名代 御子代

乙 田樂

▲東 洋 史

一、宋時代の儒につきて記すべし

二、明末清初の耶蘇教につきて記すべし

三、左記の人名地名につきて記すべし

地名につきては地圖を附記すべし

甲 寇謙之

乙 建康

四、左記の名辭につきて記すべし

四、左の名辭の説明

甲 國子監

乙 二十二史劄記

(右 四時間)

口 述 試 験

▲日 本 史

- 一、上古以來土地所有權の沿革概略
- 二、平安時代の院政を教授するにつき注意すべき諸點

▲東 洋 史

那珂通世著「那珂東洋史」第十八章「宋の初世」の一節を實地授業的に説明せしめ以て其の教授能力を測り且つ其一節中特に左の事項につきて質問し之に關する史的智識を見識とを考查す。

一、節度使

二、禁 軍

三、黃 袍

四、宋の國都

五、支那歷朝の國都

- 甲 常平倉
- 乙 佛國記

(右 四時間)

本 試 験

▲日 本 史

一、上代國民の宗教思想

二、江戸幕府の組織

三、左の人々の事蹟

甲 大伴家持

乙 長尾景仲

四、左の名辭の説明

甲 藏爪所

乙 御定書百箇條

▲東 洋 史

一、秦の以後の長城につきてのべよ

二、英領印度の建設につきてのべよ

三、左の人名地名につきて記せ

甲 劉秉忠

乙 九都城

第四十二回

第四十三回

第四十三回 (大正十四年第二次)

豫備試験

▲日 本 史

- 一、北條氏の政策
 - 二、長州征伐の顛末
 - 三、左の人々の事蹟
 - 甲 鬼室福信
 - 乙 藤原隆家
 - 丙 荻原重秀
 - 四、左の名辭の説明
 - 甲 樵談治要
 - 乙 目安箱
- ▲東 洋 史
- 一、唐代の諸外教
 - 二、蒙古と高麗との關係
 - 三、左記につきて知る所を記せ
 - 甲 鄭玄
 - 乙 和林
 - 四、左記につきて知る所を記せ
 - 甲 御史大夫

乙 王舎城

(右 四時間)

本 試 験

▲日 本 史

- 一、奈良平安兩時代に於ける兵制の變遷
 - 二、天主教の傳來とその禁制
 - 三、左の人々の事蹟
 - 甲 日 羅
 - 乙 四條隆資
 - 丙 海北友松
 - 四、左の名辭の説明
 - 甲 六國史
 - 乙 普化宗
- ▲東 洋 史
- 一、後魏の文化及び分裂の大勢
 - 二、元清二朝の漢人統治策の異同
 - 三、左記の人名地名の説明
 - 甲 史可法
 - 乙 臨潢
 - 四、左記の名稱の説明

甲 義倉
乙 南海寄歸傳

(右 四時間)

口 述 試 験

▲日 本 史

- 一、神代史の性質及びその教授上取扱に關する注意
 - 二、守護、地頭の教授に關する注意
- ▲東 洋 史
- 一、漢代の史漢及びその史體につきて
 - 二、漢唐二代の外國經略及びその教授研究に關する注意

西洋史科

第廿六回 (大正元年)

豫備試験 (一時間半)

- 一 ローマノ僧正ガ諸僧正中ニ卓越シタル地位ヲ占ムルニ至レル事情
 - 二 ドイツノアフリカニ於ケル植民政策
 - 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 サボナローラ (Savonarola)
 - 乙 モンク (Monk)
 - 丙 ライブニッツ (Leibnitz)
 - 四 左ノ地ニ關スル事蹟
 - 甲 トラシメヌス (Trasimenus)
 - 乙 リユツツエン (Lützen)
 - 丙 リユネビル (Lunéville)
- 本 試 験 (四時間)
- 一 ローマノ社會ニ於ケル奴隸ノ影響
 - 二 イスパニア及ビポルトガルノ植民政策失敗ノ原因

第廿六、廿七回

三 左ノ人々ノ事蹟

- 甲 ハンムラビ (Hammurabi)
 - 乙 イギリス王リチャード一世 (Richard I.)
 - 丙 デュムリエー (Dumouriez)
 - 丁 ニエーブール (Ziebuhr)
- 四 左ノ地ニ關スル事蹟
- 甲 ジブラルタル (Gibraltar)
 - 乙 バレンヌ (Varennes)
 - 丙 サンドリバー (Sand River)
 - 丁 ボロヂノ (Borodino)

第廿七回 (大正二年)

豫備試験 (一時間半)

- 一 マホメット教ノヨーロッパ文明ニ與ヘタル影響
- 二 三十年戰役ノ區分並ニ其ノ特徴
- 三 左ノ人々ノ事業
 - 甲 アグリッパ (Agrippa)
 - 乙 法王レヲ一世 (Leo I.)
 - 丙 ムリリヨ (Murillo)
 - 丁 コブデン (Cobden)
- 四 左ノ地名ニ關スル事蹟

第廿八回

- 甲 デケレア (Decelean)
 - 乙 ナンシー (Nancy)
 - 丙 ウルム (Ulm)
 - 丁 チャールストン (Charleston)
- 本 試 験 (二時間)
- 一 中古イタリヤ諸市が先づ發達セシ理由
 - 二 トルコ現憲法成立、其重要ナル條項及ビ其目的
 - 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 ファビウス (Fabius)
 - 乙 クリソロラス (Chrysolorus)
 - 丙 スカデルベグ (Skanderbeg)
 - 丁 ヤゲロー (Jagello)
 - 四 左ノ地ニ關スル事項
 - 甲 ヴィアアツピヤ (Via Appia)
 - 乙 レンス (Rhems)
 - 丙 ネールウインデン (Neerwinden)
 - 丁 アルジェシラス (Algeiras)

第廿八回 (大正三年)

豫備試験 (一時間半)

- 一 中世フランスニ於テ王權ノ發達シタル理由
 - 二 ボーランド分割トフランス大革命トノ相互ノ影響
 - 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 ビストラツス (Pistratus)
 - 乙 アブル、アツバヌ (Abul Abbas)
 - 丙 デドロワ (Diderot)
 - 丁 ビウス九世 (Pius IX.)
 - 四 左ノ地ニ關スル事蹟
 - 甲 シラクサ (Syracuse)
 - 乙 トリエント (Trient)
 - 丙 カツツバハ (Katzbach)
 - 丁 アルジェシラス (Algeiras)
- 本 試 験 (二時間)
- 一 ローマ共和政治ガ武斷政治ニ變ジタル徑路及ビ理由
 - 二 第十八世紀ニ於ケルヨーロッパ五強國ノ國是及ビ其發展
 - 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 メケナス (Maccenas)
 - 乙 ヒメネス (Ximenes)

- 丙 ジエームソン (Jemson)
 - 丁 デエグスレン (Du Gueslin)
- 四 左ノ地ニ關スル事蹟
 - 甲 クルトレー (Courtrai)
 - 乙 ウイスビー (Wisby)
 - 丙 レンス (Rhems)
 - 丁 ミレツス (Melus)

第廿九回 (大正四年)

豫備試験 (一時間半)

- 一 アレクサンドル大王ノバルシヤ征服ノ影響
- 二 老ウイリヤムピット (William Pitt, the older)ノフランスニ對スル政略及ビ戰略
- 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 キャクサレス (Caxares)
 - 乙 バルボア (Balboa)
 - 丙 ガウス (Gauss)
 - 丁 バゼーヌ (Bazine)
- 四 左ノ地ニ關スル事蹟
 - 甲 エウリメドン (Eurymedon)
 - 乙 ワルトブルグ (Warburg)
 - 丙 ダンバー (Dumbar)
 - 丁 リギー (Ligny)

第廿九回

本 試 験 (二時間)

- 一 ハンザ (Hansa)ノ衰弱シタル原因
 - 二 第十六世紀及ビ第十七世紀ニ於ケルヨーロッパ大統一ニ關スル諸種ノ企圖
 - 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 ポリビウス (Polybius)
 - 乙 ロレンツォ、デ、メヂチ (Lorenzo de' Medici)
 - 丙 ドン、フワン、ドーストリヤ (Don Juan Dautria)
 - 丁 メヘメット、アリ (Mehemet Ali)
 - 四 左ノ地ニ關スル事蹟
 - 甲 ポンツス (Pontus)
 - 乙 ベーゼム (Basel)
 - 丙 リガ (Riga)
 - 丁 アガデル (Agadir)
- 第 卅 回 (大正五年)
- 豫 備 試 験 (一時間半)
- 一 十字軍ノ成功セゼリシ理由
 - 二 第十五世紀期末ヨリベートル大帝即位ニ至ルマデノロシアノ沿革
 - 三 左ノ人々ノ事蹟
 - 甲 カイウスグラツクス (Caius Gracchus)